

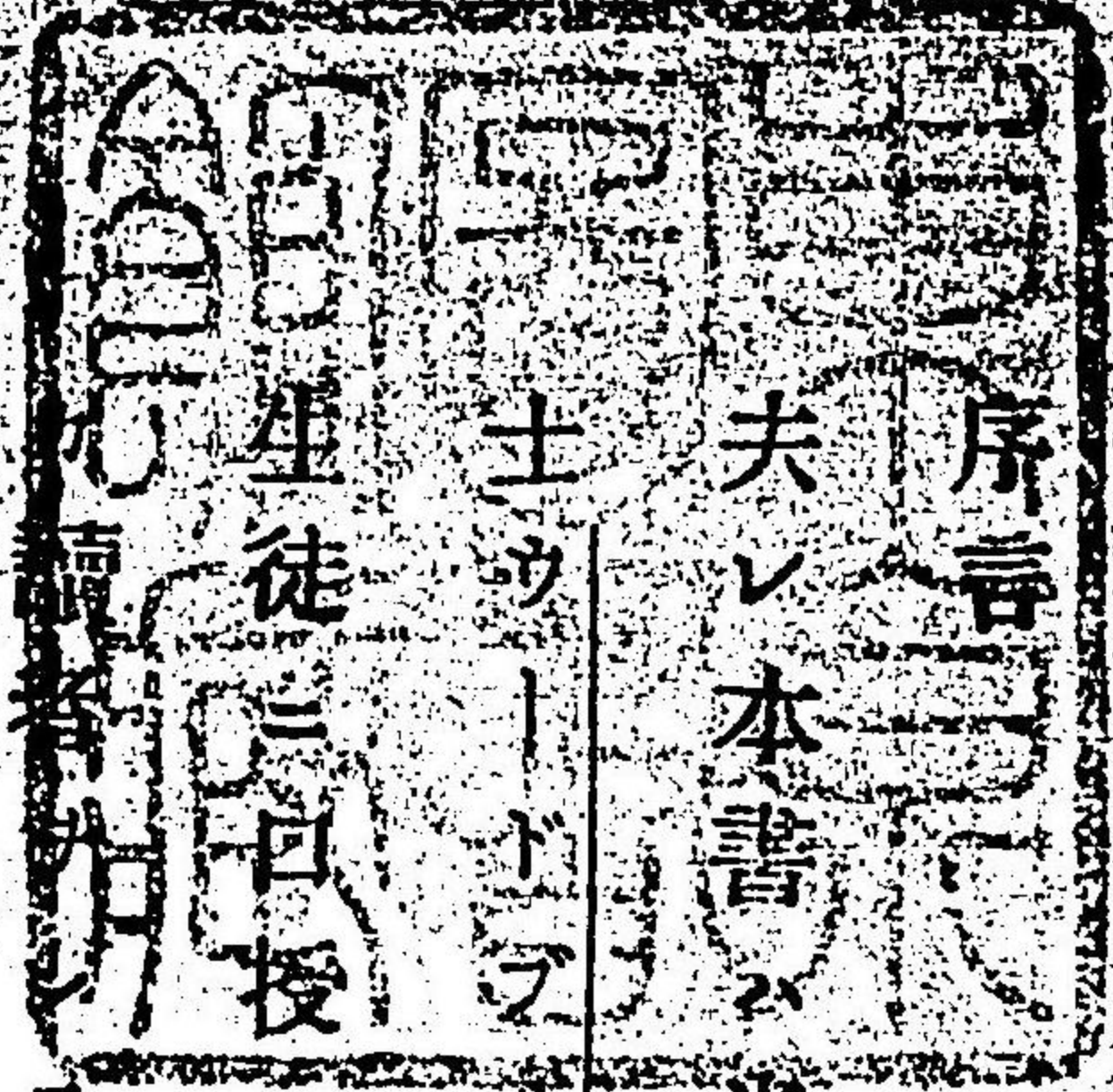
4825/70

教會歷史

二十一年十二月

上





序言

夫レ本書

米國

ニユシエルシ

効ニユ

ブルンスウイク

ノ神學博

士

リ

ヂ氏カ

同地

リフォルム

ド教會

附屬神學校

ニ於テ

其

シ

教會

歴史ヲ

翻譯セ

シ者ナ

リ抑モ

原書

ハ

全博士

ヲ

研究及

ヒ記憶

スルニ

便ナラ

シメ

テ

爲メ

事蹟ニ

循

ヒ

區分

ナ別

ナテ

基督

在世

ヨリ

教法

改革

迄ノ

間ニ

起レル

凡テ

ノ

事蹟

ヲ

略述

セシ

者ナ

レハ

固ヨリ

其精

微ヲ

盡

セル

ト云

フヘ

キ者

ニア

ラサ

レモ

將來

傳道

者タ

ラント

欲

スル

者ノ

爲メ

裨益

アル

ハ

更ナ

リ

教會

最初

ノ概

畧歴史

ヲ知

了

セント

欲

スル

者ノ

爲ニ

モ亦

小補

ナキ

ニア

ラサル

ヘシ

序言

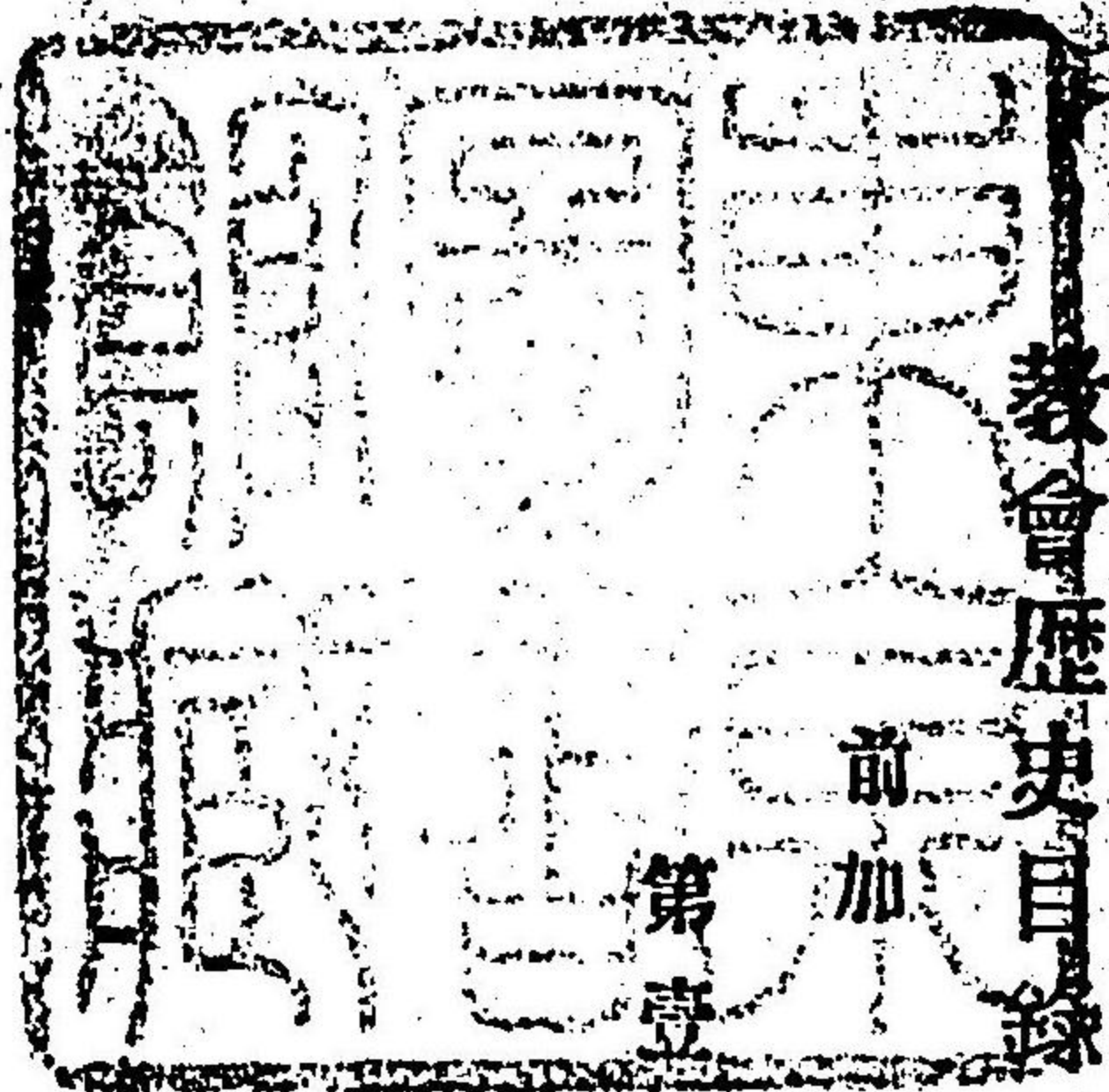
序言

本書ニ記載スル地名人名等ニシテ聖書中ニ見ヘサル外國ノ諸語ハ凡テ伊呂波ノ順叙ニ循ヒ羅馬字ト其片假名ノ音訓ヲ對照シ本書ノ季ニ附載セリ蓋是ハ歐羅巴語ニ達スル讀者ナシテ其正音ヲ知ラシムル耳ナラス詳密ニ本書ヲ研究スルニ方リ節用篇及ヒ其他ノ書籍ヲ傍搜スル便利ヲ得セシメンカ爲ナリ今本書ヲ世ニ公ニスルニ方リ尙ホ續キテ教法改革以後輓近ニ至ル迄ノ事蹟ヲ記載セシ同博士ノ教會歴史ヲ翻譯シ亦明年中ヲ以テ之ヲ世ニ公ニセンヲ譯者ノ切ニ希望スル所ナリ

紀元千八百八十五年七月

長崎港ニ於テ

翻譯者誌



教會歴史目錄

前加

第一節 名釋

一丁 全丁

一定義

二研究

三聖經教會兩歴史ノ區別

四起原

五教會歴史家ノ義務

六歴史家

七時代ノ區別 (一)特質 (二)中心 (三)期節 (四)都府

第二節 基督時代ノ政治及ヒ社會ノ形狀

八丁

一スリヤ

目錄

目録

- 二 エジプト
- 三 パルステン
- 四 ロマ

第三節 基督時代ノ世ノ教法

十五丁

一 印度

二 支那

三 ペルシア

四 ギリシヤ及ヒロマ 偶像教ノ邦家ニ於ル勢力ノ根原

五 ユダヤ人 教派(一)パリサイ(二)サドカイ(三)エッセチ 因

ヘロデ黨

六 サマリヤ人

第四節 教會建設ノ準備

廿四丁

第壹章 教會建設及ヒ其弘衍

廿八丁

第壹章 教會ノ建設

全丁

一 四福音 因紀元

二 教會ノ基礎

三 使徒行傳

四 使徒及ヒ最初ノ傳道者 (一)ペテロ(二)ユハナ(三)トマス

(四)パウロ(五)マコ等

第二節 教會ノ弘衍

三十七丁

一 最初ノ傳道 (一)使徒時代ノ布教地(二)亞弗利加(三)エー  
ル

二 中古ノ傳道 (一)アイルランド(二)スコットランド(三)イン

目録

目録

グランド(四)ホルランド(五)セルマニ(六)デンマルク及ヒ  
スウイデン(七)オス人(八)ペルシア(九)アルメニア(十)支那  
(十一)タルタル人(十二)アラビヤ及ヒカラセン人 因基  
督教傳播ノ迅速ナル理由

第二章 迫害

八十丁

第壹節 ユダヤ人ヨリ受タル迫害及ヒ其人ト共ニ受タル追  
害

第二節 ロマ政府ヨリ受タル迫害

八十丁

一 第一世紀 (一)ニコ(二)ドミシアン

二 第二世紀 (一)タレシアン 因カタコム(二)マルクス、ア  
ウリ、ウス(三)セアテムス、セウイルス

三 第三世紀 (一)マキシムス(二)デシウス、テレヂアン及ヒ  
ガルス(三)ウァリリアン

四 第四世紀 ダイオシリアン 因コンスタンテンノ  
小傳

五 背教者ヲユリアン

第三節 回々教及ヒ其猖獗

百三丁

第三章 會例

百九丁

第壹節 禮拜所

全丁

一 最初ノ禮拜所

二 最初ノ會堂及ヒ其附屬物

第二節 集會

百十四丁

目録

目録

一 集會ノ時期

二 集會ノ式

第三節 聖禮典

百十七丁

一 パプテスマ (一) 施行者 (二) 受領者 (三) 施行法 (四) 施行時期  
(五) 副式 (六) 保管者

二 主ノ晚餐及ヒマスノ禮典 因天主教ノ七禮典

第四節 祈禱

百三十丁

第五節 聖歌

百三十一丁

第六節 斷食及ヒ祭日

百三十二丁

第七節 偶像及ヒ畫像 因禮式ノ雜纂

百三十五丁

第四章 政治

百三十九丁

第壹節 最初ノ政治

全丁

第二三世紀中ノ沿革

第二節 監督政治ノ興起

百四十三丁

第三節 教王政治ノ興起

百四十四丁

教王權カソ増長 (一) 大リオノ擴張 (二) 大グンゼリノ  
擴張 (三) ヒルデアランドノ擴張 (四) イソノセントノ大擴  
張 因教王政治ノ利害

第五章 教會ノ生命及ヒ道德

百五十七丁

第壹節 愛徳

全丁

一 施捨

二 施療院

目録

目録

八

三 出納

四 愛徳ノ波及

第二節 懲戒

百六十六丁

一 最初ノ懲戒

二 別派 (一)ノウエシアン(二)ミリシアン(三)ドナテスト

三 懲戒施行法 (一)制禁(二)赦罪券

第三節 制慾主義

百七十四丁

一 隠者 (柱上聖人) 因隠者ノ起原

二 在院派 (一)ベチデクテン(二)クルニアセノシアソ(三)カ  
ルテウシアソ(四)エステルシアソ 因在院派ノ利害

三 巡歴派 (一)カルメライト(二)アウグステニアソ(三)ドミ  
ニコソ(四)フランシスカソ(五)諸小派

第四節 教狂

百九十七丁

一 十字軍 (一)十字軍ノ發端(二)第一次十字軍(三)第二次十  
字軍(四)第三次十字軍(五)諸小十字軍 因十字軍ノ利害

(六)武族

二 鞭撻

三 教法詰問 (一)來歴(二)方法及ヒ結果

第五節 教法改革ノ萌芽

二百十六丁

一 東西教會ノ分離

二 任職權ノ軋轢

三 改革家ノ勢力

四 改革派ノ勢力 (一)パウリシアソ(二)ピートルブルシア  
ソ及ヒヘンリシアソ(三)ワルデマセ(四)リョーソノ清貧

目録

九

目錄

者(五)諸小派

十

第六章 教義

二百三十丁

總論

全丁

第壹節 基督學

二百三十四丁

一 最初ノ信仰

二 異端 (一)エピチヤン(二)ナザレ(三)セリンテアン(四)三小派

(五)ドシテ(六)ケレメントノ著書(七)一神派(八)アリアン

因信仰ノ個條(九)半アリアン(十)チストリアン(十一)一性

派(十二)一意派

三 爭論ノ結果 因大議會

第貳節 人間學

二百八十二丁

一 最初ノ信仰及ヒ其漸更

二 異端 (一)ヒンギアン(二)半ヒンギアン

第參節 終末學

二百九十二丁

一 千福年

二 復活

三 中間所及ヒ煉獄

第七章 哲學

三百丁

第一節 教會内ニ行ハレタル哲學

三百一丁

一 折衷學

二 新アレント

三 アリストテル

目錄

十一



目録

十二

四煩瑣哲學 因中古時代ノ學校ノ科目

五名目論及ヒ實體論

第二節 ノステク學及ヒ其教會ニ波及セル勢力 三百十三丁

一 スリヤ派

二 エジプト派

三 マニケアン派

第三節 玄奧學 三百二十丁

第八章 文學

三百二十三丁

第一節 使徒ニ接シタル先師 三百二十四丁

一 ケレメント

二 イグナチウス

三 ポリカルプ等

第二節 辨明及ヒ反駁ノ著述家 三百二十七丁

一 シュステン、マルテル

二 オリゼン

三 アタチシウス

四 キリソストム等 因辨明書ノ大意

第三節 ラテン語ノ著述家 三百三十八丁

一 テルトリアン

二 シプリアン

三 ヒラリ

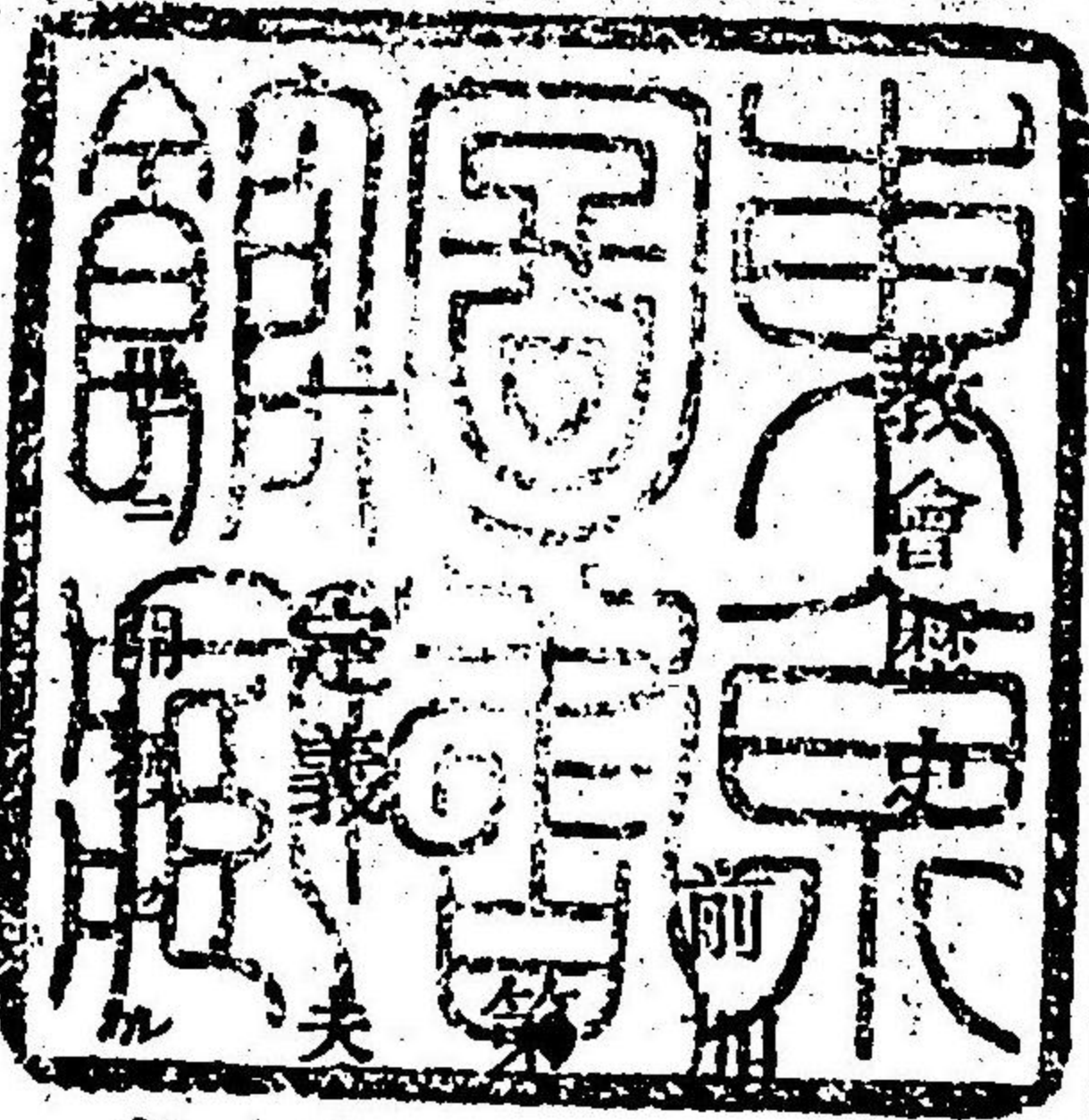
四 アウグステン

五 セロム

目録

十三

教會歷史自錄畢



第一節 名釋

夫ノ教會歷史ノ最モ簡易ナル定義ハ耶穌基督ノ勢力ノ此者ナリ蓋基督ハ榮光ノ中心ニシテ其赫々タル光輝ハ世上各般ノ社會及ヒ人類相互ノ關係ニ注射セリ然レハ之カ爲メ人類中ニ一ノ新勢力往古未曾有ノ作動ヲ始メ當今四億萬餘ノ人類ハ基督ヲ以テ勢力ノ起原ト信認シ遂ニ全世界ヲ舉ケ其權下ニ歸服セシムルヲ冀望スルニ至レリ

二 研究 教會歷史ヲ研究スルトハ耶穌基督ノ奇異ナル勢力ヲ稽驗スルヲ即チ此勢力ノ感道ニ由テ傳道者等ハ許多ノ異教徒ヲ導キ基督教ニ歸セシメ又獷狂ノ野蕃ヲ化シテ柔順ノ民ト爲シ其粗惡ナル心情

前加

ヲ融和シ文字ヲ教ヘ文學ヲ起シタルヲ及ヒ許多ノ殉教者等カ教會ノ榮光ヲ増加セシメ等ノ數件ニ由テ基督ノ營ヲ我カ教會ヲ此盤上ニ建設ス可シト云ヒシ約束ノ應シタルヲ知覺スルヲナリ

兩約書ヲ讀ムニ舊約ニハ唯一神教ノ倍ス進歩シテ偶像ヲ崇尊セルユヱヤ人并ニ其邪惡及ヒ各國人民ノ信奉スル多神教ニ拮抗セシメ明亮ニシテ新約書ニハ肉体ヲ執リタル神ノ此世ノ智惠權能ヲ壓服セシメ明白ナリ且又教會歴史ヲ觀レバ基督ノ營テ此世ニ建設セシ教會ヨリ流出スル勢力ハ非常ニ人類ノ心情及ヒ道德ノ變更ヲ惹起シ一般ノ定例、邦國、家族、婦人、子女、僮僕、富者、貧人、施濟及ヒ教會ノ形狀並ニ世人カ基督ノ教義ヲ領有スルヲ等ニマテ波及セシメ亦判然タリ

三 聖經教會兩歴史ノ區別 此兩歴史ノ區別ハ次ノ如シ即チ聖經歴史ニハ明瞭ニ神ノ作動ヲ觀ルヲ得レヒ教會歴史ニハ否ラス是レ甲

ニハ神現出シテ自ラ其作動者ト爲リ乙ニハ人類其作動者ト爲リタルヲ以テナリ然レヒ教會歴史中ニモ亦神ノ勢力ノ隱然發顯セルヲハ讀者信仰ノ力ニ由テ之ヲ觀ルヲ得ヘシ是レ兩歴史ノ異ナル所ナリ抑モ神ノ勢力ノ行ハル、一ハ普通歴史中ニモ記載セル者ナレハ其行ハルル事ノ此兩歴史中ニアルハ固ヨリ辨テ竣タサルヲナリ

四 起原 教會歴史ノ成立スル起原ハ次ノ如シ(一)文書 即チ皇帝并ニ大守等ノ布告及ヒ諸議會ノ決議書或ヒハ私ノ手簡等(二)碑銘 即チ家屋石碑洞穴等ニ彫刻セシ文章等(三)古昔ノ美術 即チ圖書彫刻或ヒハ家屋ノ古昔ヨリ遺存セシ者(四)口傳及ヒ古語 即チ世人ノ確實ナル者ト信認シ且他ノ證據ニ照シテ矛盾セサル者(五)歴史 即チ其記者ハ叙事謹直ニシテ且其事實モ亦記者ノ熟知若シハ目撃ニ屬シ能ク世人ニ信認セラル、者

五 教會歴史家ノ義務 教會歴史ヲ記載スル者ノ義務ハ唯真正ナル基督信徒ノ紀事ヲ記載スルニ止マラス變亂、教狂、異端等ハ更ナリ其他基督信徒ト冒稱スル者カ此教法ノ爲メ盡力セシテ及ヒ此教法ノ爲メ起ル事實等尙モ教法ニ影響アル者ハ政治、學術、文學、開化等ニ至ルマテ凡テ之ヲ網羅スル者ナレハ其義務ノ包括スル所ハ最モ廣且大ナリト云フベシ

六 歴史家 教會ノ建設及ヒ其最初ノ弘行ニ就テハ新約聖書ヲ以テ其歴史ト認定ス其後凡ソ二百年間ノ教會ノ形狀ハ種々書類中ニ記載セシ者許多アレモ此等ハ眞成ナル歴史ニハアラス第三世紀頃ヘゲジッテスハ基督ヨリ當代マテノ教會ノ記録五冊ヲ著述セシカユシビウスノ著書中ニハ多ク此書ヲ引用セリ然レモ其本書ハ遺失シテ後世ニ傳ラザルナリ教會歴史家ユシビウスハカイザリヤノ監督ニシテ亦紀元

三百廿四年ニ於テ基督以還當時ニ至マテノ歴史十冊著述シ是ハ教會最初ノ歴史ニシテ且此ハ後世傳ラザル許多ノ書類ニ憑テ著述シテ以テ此書ハ實ニ貴重ナル者ナリ第五世紀オドボリ及ヒ其他著述家ノ此書ノ後續キ著述スル者許多アリ後又基督教諸國ニ於テ許多ノ著述家起リ教會歴史ヲ編輯セリマクテベレク著述家マクタイアズ、エラシウスハ教法改革後直ニ教會歴史ヲ出版セリ此書ハ都テ十三冊アリ基督以來第十三世紀マテノ事ヲ記載シ一世紀毎ニ一冊ト爲ス故ニ此書ヲ稱シマクテベレクハ世紀史ト云ベリ抑モ此人ハ博識多聞ニシテ叙事精確ナルヲ以テ新教ノ歴史家カ其歴史ヲ編輯スルニ大概此書ニ憑據スルナリ

七 時代ノ區別 教會歴史ノ時代ヲ區別シテ三紀ト爲ス最モ讀者ノ爲メ便宜ナルヲ覺ニ其區別法ハ即チ次ノ如シ(一)基督ヨリ教王大ク

レゴリノ時即チ紀元六百年迄チ第一紀トス(二)教王大クレゴリヨリ教  
法改革即チ紀元千五百十七年マテチ第二紀トス(三)教法改革ヨリ轉令  
マテチ第三紀トス

(二)特質 第一紀ノ特質ハ基督ニ關シタル教義チ一定スルチ即チ教回  
ノ大議會ニ於テ三位一体基督ノ資性神ノ恩惠等凡テ重要ナル教義チ  
確定スルチ第二紀ノ特質ハ基督教ノ禮拜式チ確定スルチ第三紀ニ於  
テハ教法ノ自由チ擴張スルチ

(三)中心 第二紀ニハ教會區域ノ中心ハ地中海ニシテ教會ハ其沿海ノ  
諸小國中ニ盛ナリト雖モ第二紀ニ至テ歐羅巴ノ西南ニ移レリ其理由  
ハ即チ次ノ如シ(一)北亞弗利加ノ諸教會ハ凡テ回々教徒ノ猖獗ニ由テ  
滅亡シテモアト小アジア近傍ノ諸教會モ亦之ガ爲メ衰微シテ昔日  
如ク振起セサルニ至レリ(二)歐羅巴西北諸國ノ教會ハ傳道者等ノ盡力

ニ由リ其頃頻ニ興隆ニ赴ケリ

(三)期節 第二紀中ハ自然ニ區別セラレテ二期節ト爲ル即チ次ノ如シ  
第一ノ期節ハ基督ヨリ至シテ大帝ノ時マテニシテ之チ迫害  
ノ期節ト云ヒロマ政府ハ基督教ノ仇讐ト爲レリ第二ノ期節ハユニス  
タノテメ大帝ヨリ教王大クレゴリノ時ニ至リ此頃ハ教會ト政府  
ト一致シ皇帝チ以テ教會ノ首領ト爲セリ  
第二紀モ亦區別セラレテ三期節ト爲ル即チ次ノ如シ第一ノ期節ハ教  
王大クレゴリヨリ至リシヤレマン大帝ノ時紀元八百年(マテニシテ此頃教  
會ハ政府ト分離シ獨立ノ者ト爲レリ第二ノ期節ハシヤレマン大帝ヨ  
リ教王大クレゴリ第七即チヒルデフランドノ時(紀元千〇七十二年)マテ  
ニシテ此頃教會ハ其教權チ擴張シ政府ノ上ニ在ラシメント盡力セリ  
第三ノ期節ハ教王大クレゴリ第七即チヒルデフランドヨリ教法改革

頃マテニシテ此頃世人ハ教權ヲ以テ各國ノ政府ヲ統理スヘキ者ヲ認  
 メタリ其時キリヤノ諸國ハ皆キリヤノ國ニ屬スルモノナリキリヤノ國  
 (四)都府 第一紀中教會ニ關係アル盛大ナル都府ハエルサレムアンテ  
 ナケアレキサンデルスアレキサンデルスアレキサンデルスアレキサン  
 一 スリヤノ基督降誕前第四世紀キリヤサンデルス大帝ノ建  
 國ハ暫時存立シタルニ紀元前三百廿三年大帝崩スルニ及ヒ部下ノ大  
 將等各其版圖ヲ分領シ若干ノ小王國ト爲レリ此時エジプト及ヒ  
 ヤ即チパルティアノ南北ニアルニ外國ハ最モ盛大ナル國トリスリヤ  
 以首都アリテオシヤハ人口四十萬アリ壯觀美麗ナル都府ナリ  
 シス氏相嗣テ此國ニ王タルコト十三代二百年餘ニシテ紀元前六十五年  
 ロマノ爲メ侵奪セラレタリ

二 エジプト アレキサンデルス大帝ノ帝國分崩スルニ方リエジプト  
 モ亦其大將トレミ氏ノ所領ニ歸シ爾來其子孫相嗣テ此國ニ王タルコ  
 十三代凡ソ三百年ナリ其首都アレキサンデルスハ人口六十萬アリ壯  
 大雄麗最モ隆昌ナル都府ナリ且トレミ氏ノ諸王ハ學事ヲ獎勵スルコ  
 ト勤メ特ニトレミヒラデルプス王ハ其臣下ニ命シギリシヤ語ヲ以テ  
 舊約聖書ヲ翻譯セシメ又其都下ニ一大書庫ヲ建テ七十萬冊ノ書籍ヲ  
 貯藏シ人民ノ縱覽ヲ許セルヲ以テ古代ニ於テ最モ有名ナル者ナリ又  
 此首都ニ哲學、理學、天文、詩歌及ヒ魔術等ヲ教授スル巨大ナル大學校アリ  
 リ其盛大ナル頃ハ生徒ノ數一萬以上ニ超ヘタリ却說此國及ヒスリヤ  
 ノ管テパルティアノ交通戰爭等アリシコトハ聖經歴史指南ノ附録ニ記  
 載セリ又此國ハ紀元前三十年ニ至リ他ノ地中海近傍ノ諸小國ト均シ  
 シロマノ爲メ侵略セラレ其屬國ト爲リタルニ其都府アレキサンデルス

アハロマニ次キ最モ教會歴史ニ重要ナル關係アル地ナリ  
 三 パレステン 基督時代パレステンハロマニ屬シロマヨリ大守ヲ  
 カイザリヤニ遣ハシ此國及ヒスリヤノ二國ヲ管轄セシメタリ彼ノ基  
 督ヲ死刑ニ處シタルボントオピラトハ即チ此地第五代目ノ大守ナリ  
 其後ヘロデアアリッパ王ナル者ロマ帝ヨリ藩王ニ封セラレ十年許此國  
 諸君臨セシカ其死スルニ及ヒ又ロマヨリ大守ヲ遣ハセリ抑モ此等大  
 守ハ皆ロマ人ニシテ大概暴惡非道ノ者ナレハ往々殘酷ヲ極メタル所  
 業ヲ爲セリ使徒行傳ニ見ヘタルペリシスベストスノ如キモ亦即チ此  
 大守アリシ者ナリ其後又ゲッソウスフロルスナリ者アリ諸大守中最モ  
 有名ナル暴吏ナリ其罪惡ノ露顯シテロマヨリ亂彈セラレノコト懼レ  
 勳功ヲ建テ之ヲ掩ハント欲シ竊ニカイザリアニ住スルユダヤ人ヲ教  
 唆シ其地ノギリシヤ人ヲ凌虐セシメ後自ラ此ユダヤ人ノ暴徒ヲ鎮壓

シ多ク慘酷ナル刑ヲ以テ之ヲ誅殺シ且ニロ帝ハ既ニロマノ民籍ニ入  
 リタル此所ノユダヤ人ノ權利ヲ剝奪シケレハユダヤ人ハ大ニ沸騰シ  
 其地ニ駐在セルロマ兵ヲ伐テ之ヲ蹙ニセリ(紀元六十七年)是ニ於テロ  
 マノ大將ウエスベミアンハ帝ノ命令ヲ受ケテ此地ヲ討チ殆ントパレス  
 テン全國ヲ攻陥シ遂ニ進ミテ其都府エルサレムヲ圍メリ此時エルサ  
 レム城中ニハ踰越ノ祭ニ會セントテユダヤ人ノ四方ヨリ來集スル者  
 雲霞ノ如ク城中ノ飲料食物等皆ナ之ヲ爲シ俄ニ欠乏シ男女皆飢渴シ  
 前古未曾有ノ困苦ニ陷レリ然レモユダヤ人等ハ敢テ屈撓スルノ色ナ  
 シ氣ヲ勵シテ防禦シ籠城スルコト已ニ五月ノ久キニ亘リ先是ロマニ  
 ハニロ帝既ニ崩シ諸將等ウエスベミアンヲ撰擇シ其嗣ニ立テントスル  
 ノ説アリウエスベミアン之ヲ聞キ其子タイトスヲ駐メテ城ヲ攻メシメ  
 其身ハ急ニ軍ヲ收メテロマニ凱陣セリ因テタイトスハエルサレムヲ

攻撃シ遂ニ其外郭ヲ陷レ神殿ヲ焚燒シ民家ヲ破壞シ百萬有餘ノユダヤ人ヲ殺害シ又九萬有餘ヲ掠奪シ羅馬ニ送り或ヒハ奴隸ニ販賣シ或ヒハ闘獸場ノ角枝者ト爲セリ是ニ於テエルサレムハ基督ノ預言ノ如ク(太廿四章)全ク烏有ニ歸セリ(紀元七十年)其後ユダヤ人ハ屢ハ羅馬ニ叛キヘデリアン帝ノ時ニ至リ謀反ヲ起セシカ又大ニ敗績シ斬害セラル、者六十萬人アリ其他ノ者ハ皆四方ノ國々ニ散亂セリ蓋エルサレムハ其後ヘデリアン帝ノ命ニ由テ再興シエリアカピトリナト稱シ一ノ都府ト爲リタリ(紀元百三十年)然レヒユダヤ人ハ其地ニ住スルハ更ナリ其近傍ニ徘徊スルヲモ禁シ若シ之ヲ犯ス者アレハ斬罪ニ處セラレタリ却説此地ハコンスタンティン大帝ノ時マテ新稱ヲ唱ヘタレヒ是ヨリ又原名ニ復セリ背教者ヲユリアン帝ハ神殿ヲ再興シ以テ基督ノ預言ヲ無効ニ歸セシメント爲セリ然ルニ或古傳ニ據ルニ其頃俄然ト

大風起リ地中ヨリ火塊ヲ噴出シクニハ工夫等皆惧レテ散亂セリト是レ或ヒハ實説ホラシヨニスラノ大帝ノ時ヨリ基督信徒ノエルサレムニ行賽スルヲ太マ流行シ大概之ヲ爲サシ者ナシ又エルサレムニ於テ宏大ナル會堂ヲ建築スル者アリ特ニ女帝ヘレンノ建築セシ會堂ノ如キ尤頗ル壯麗ニシテ有名ナル者ナリ且此等ノ會堂中ニハ種々ノ古物等ヲ排列セリ又此地ニ許多ノ修道院ヲ建築スル者アリ或ヒハ其近傍ノ山丘ニ據リテ洞穴ヲ濠リ之ヲ棲息スル者アリ其盛ナル頃ニ至テハ隱者ノケチアノ河邊ニ巖居スル者一萬人ニ超ヘタリ加之ユダヤ人回々教徒等續々四方ヨリ來テ此地ニ居住スル者絶ヘサリシ

四 羅馬 此國ノ起リタルハ實ニ紀元前七百五十三年ノトニテ最初ハ極メテ蕞爾タル一小國ナリシカ漸次ニ四方ヲ蠶食シ基督時代ニ至テ其版圖西ハブリタニ島ヨリ東ハユフラテス河ニ至リ歐羅巴ノ南



部亞細亞ノ西部亞弗利加ノ北部ニ在ル諸小國ヲ包括シ當時無雙ノ大國ト爲レリ其政体ハ建國以來三三回ノ沿革ヲ經テ基督時代ニハアウグストスナル者貴族ヨリ起リ遂ニ帝位ニ昇リ皇帝政治ト爲シ其首府ヨリ遠隔シタル屬國ニハ大守ヲ遣テ或ハ藩王ヲ置テ之ヲ管理セシメタリ是ヲ以テ此時ハ立法官及ヒ人民等ハ未タ其自由ヲ名テ失ハサル如クナレバ實ハ萬事皇帝ノ專制ニ出テ復往昔ノ類ニアラズ且官吏ノ風俗モ陽ニハ公平ナル如クナレバ其實大ニ腐蝕シ偏頗私欲ヲ事トシ人民ヲ虐スルコト許多ク即チ收稅官ニシテ人民ノ所有品ヲ掠奪スル者アリ又官吏ニシテ私領ヲ擴ムル爲メ許多ノ軍兵ヲ撫育シ人民ヲ凌虐スル者寡カラズ之カ爲メ人民ハ憤怨ニ堪ヘス屢ハ謀反ヲ企テ國歩稍々艱難ニ趣ケリ然レモ其帝政ノ隆ナルカ爲メ言語風俗ノ殊異セル遠隔ノ國々モ盡一ノ制度ニ歸シ野蠻未開ノ人民モローマノ法

律學術ニ導カレ文化ノ人民ト爲ル等其裨益アリシコトモ亦タ抄カテサレナリ且基督時代及ビ其後モ暫時國內平穩ニシテ別ニ慘憺タル兵禍モ起ラズ使徒及ビ教會ヲ者ハ法律ヲ保護シ由テ實ニ傳道ノ好機會ヲ得タレハ自由ニ諸國ヲ巡歴シ基督教ノ種子ヲ播布シタリ

第三節 基督時代各國教法ノ形狀

一 印度 此國ニハ古昔ヨリ婆羅門教盛ニ行ハレケルカ此教ハ即チ萬有神教ナリ又紀元前第五世紀ヨリ佛教始メテ此國ニ起レリ其教ハ大畧ハ即チ現世ハ憂苦ナル者ナルカ故ニ沈思觀念ノ力ニ由テ其憂苦ヲ脱セントテ求ムル者ニテ基督時代ニハ其教既ニ國內ニ弘布シ紀元第三世紀頃ニハ支那ニ弘行セリ

二 支那 此國ハ基督時代ニ人民衆ク儒教ヲ奉セシ人々能ク知ル所ナレハ茲ニ贅記セズ

三 ベルシア 初メ此國ニ行ハレタル教法ハ偶像教ニシテ其教徒ハ  
 星辰ヲ以テ靈能アル神トシ之ヲ祀レリ舊約聖書亞摩士五章廿六節ニ  
 記載セシ者ハ蓋之ヲ指セシ者ナラン(使七ノ四三)然ルニ紀元前六世紀  
 頃ゾロアスターナル者出テ又拜火教ヲ主唱セシニ其教ヲ奉スル者日  
 月ニ増加シ暫時ニシテエシト迄ニ弘行セリ  
 四 希臘 シヤ及ヒロア 此兩國ニ行ハレタル教法ハ偶像教ナレトモ亞  
 細亞諸國ニ行ハレタル者ト大ニ其趣異ニシ多數ノ無形ナル神ヲ祀  
 レリ蓋此兩國人民ハ各地ニ分營其守護神ヲ祀テ其地及ヒ其地ノ學術  
 工業等ヲ主宰スル者ト想像シ各之ヲ祀リ又其地ノ守護神ノ外他邦ノ  
 神ヲ祀ル者亦然ラバ若シ他邦ノ神ヲ以テ其地ノ守護神ト爲サシト  
 欲スルモ其政府ノ許可ヲ得ザルベカラズ例ヘハタイピリウス、カイ  
ルカ 基督ヲ以テ祀リテ神ト中ニ加フニ其立法官ヲ議セシト云フ

カ如キ即チ其一ナリ又此兩國人民ハ神或ヒハ日月星辰ノ靈ヲ以テ人  
 類ノ容貌ニ模造シテ之ヲ祭祀シ或ヒハ古代英雄豪傑ノ像ヲ祭り又ハ  
 人類ノ情力等ヲ想像シテ其貌ヲ造製スル等ニ由テ種々ノ神ヲ祀レトモ  
 要スルニギリシヤノ教法ニテハ美麗ヲ以テ主トスルカ故ニ形像ノ美  
 麗心意ノ美麗等ヲ以テ主能トスル神アレトモ未タ徳ノ美麗ヲ以テ其主  
 能ト爲ル神ハアラサルナリ又ロマノ教法ニテハ能力ヲ以テ主トスル  
 カ故ニ凡テノ神ハ種々ノ能力ヲ以テ其主能ト爲ルニ恰モギリシヤニ  
 テ美麗ヲ以テ主能ト爲ルカ如シ  
 偶像教ノ邦家ニ於ケル勢力ノ根原ハ次ノ如シ(一)國法ニ人民尙其國神  
 ナ排斥スル者アレバ政府ヨリ嚴刑ヲ以テ之ヲ罰ス例ヘハソクラテス  
 ガ國神ニ不敬ナルトノ冤罪ニ由テ殺サレタルカ如キ是ナリ(二)祭司  
 偶像教ノ祭司ハ奇異ナル天言占卜等ヲ爲スニ由テ大ニ人民ノ畏敬ヲ

受(三)堂宇及ヒ禮式。偶像教ノ堂宇ノ中ニハ廣大美麗ナル者許多アリ且其禮式モ亦至チ嚴重ナル者ナリ故ニ人民ハ堂宇及ヒ禮式ニ秘密アリテ存スル者ノ如ク思惟セリ抑モ此教法ニハ人ノ情欲ヲ惹起ス者許多アリ即チ其神ノ中ニモ醜行、怨恨、貪欲等ノ神アリ祭司ニモ亦品行ノ不正ナル者等掛カラス是ヲ以テ人民ハ之ニ倣ヒ其品行甚タ不正ニ陷レリ故ニ古昔ノ書類遺物等ニキリシヤロマンノ人民ノ道德衰頽シテ品行甚タ淫佚ナリシヲチ證明スル者掛カラス彼ノ使徒パウロノ羅馬書一章ニ記載セシ者ノ如キハ實ニ其半ニモ及ハザル者ナリ今茲ニ一ノ考フ可キ者アリ即チキリシヤロマンノ學術ノ最モ盛大ナル時ハ其道徳ノ最モ衰頽セシ時ナリ却説歐羅巴北部ノ諸國ノ人民ハ此三國ノ如ク甚シキ淫佚ナル風俗ニ流レザレバ頗ル猛惡殘慘ナルガ故ニ其教法モ亦隨テ兇惡ニシテ人類ヲ以テ偶像ノ犧牲ニ供スルガ如キハ敢テ怪

シムニ足ラサルナリ  
 五 ユダヤ人。此人民ハ最初ヨリ他國人民ニ超越セル道德教法ヲ有シハヒロジヨリ歸リタル後モ偶像教ノ爲メ迷ハサル、一ナシ安息日毎ニ會堂ニ集リ舊約聖書ヲ講シ道ヲ研究シ且其品行モ亦善良ナル者ナリ然レニ基督時代ニハ羅馬ノ苛政、駐在兵ノ橫行、收稅吏ノ聚斂及ヒ祭司長祭司等ノ貪欲、驕誇、陰謀、惡弊等種々ノ困苦ニ壓伏セラレ特ニ祭司等ニハ披ニ神服ノ禮式ヲ變更シ粗惡ノ者ト爲セシ耳ナラスベシ  
 アノ哲學ヲ舊約ノ教ニ混合シ雜駁ナル道ヲ以テ教導セラレタリ又エシプトニ住スルユダヤ人等ハ多クキリシヤノ哲學ニ沈迷セリ故ニ基督ハ其頃ノユダヤ人ヲ指シテ牧者ナキ羊ノ如シト云ヘリ(可六ノ卅四)抑モユダヤ人ハ驕慢ニシテ他國ノ人民ヲ蔑視シテ之ト交際セス又多クハ魔術占卜等ノ事ニ惑溺シ且外面ニモキリシヤノ律法禮式ヲ行フ耳ナ

以テ奉教ノ道ヲ盡セリト思ヒ舊約聖書ニ預言セシ所ノ將ニ來ラント  
 スル「メツシヤ」ノ述ニ降誕アリテユダヤヲ再興シ世界萬國皆ニルサレ  
 ムヨリ統御セラル、ニ至ルヲ確信セリ  
 教派 基督時代ニダヤ人ニ三種ノ教派アリ即チ「パリサイ」「サドカイ」及  
 ヒ「エッセイ」トス  
 (一)「パリサイ派」此派ハ舊約聖書ヲ悉ク信シ其教義ノ重要トスル所ハ  
 靈魂ノ不滅、肉体ノ復活、神ノ審判、未來ノ應報等ニシテ此等ハ皆「サドカ  
 イ」派ノ教義ト相反スル者ナリ此派ニテハ又遺傳即チ「タルムド」ナル者  
 ナ信シ舊約聖書ト全ク神聖ニシテ且權能アル者ト爲セリ抑モ此遺  
 傳トハ或説ニ古昔モ「セカシ」ト山ニ於テ神ヨリ受ケタル所ノ者ナ  
 レモ「セカシ」之ヲ書籍ニ記載スルヲ禁ゼラレタルニ由テ唯「アロン」  
 ニ口授シテ之ヲ暗誦セシメ「アロン」モ亦之ヲ其子ナル祭司ニ口授シ斯

ノ如クシテ長ク其子孫等ニ遞傳セリト云ヒ紀元百五十年頃ニ至ルマ  
 テ之ヲ記録セシ者ナク唯口碑ヲ以テユダヤ人ノ中ニ傳ハラレシモ之  
 ハ至ク眞正ナル神傳ニアラサルカ故ニ基督ハ此教徒等カ遺傳ヲ守ル  
 下ヲ譴責セリ(可七、九)却説此教徒ハ其員數モ尠ク、ラニ隨テ其勢力モ  
 盛大ナリシカ驕慢偏固ニシテ貪婪ナル耳ヲラス唯外面ニシテモ「セ  
 カ」建タル所ノ凡テノ律法禮式ヲ嚴守スルヲ以テ世ノ爲メ偽善者ト稱  
 セラレタリ蓋此偽善者ナル「ギリシヤ」語ノ原意ハ俳優ノ義ナリ  
 (二)「サドカイ派」此派ハ唯舊約聖書ヲノミ信シ敢テ遺傳ヲ信セス且舊  
 約聖書ト雖モ特ニ「モーセ」ノ五書ノミヲ信セシカ如ク此派ノ教義ニテ  
 ハ靈ナル者即チ天使及ヒ人類ニ靈魂アルヲ信セス人類ノ生氣ハ其肉  
 体ト與ニ消滅スル者ニテ應報ハ未來ニアル者ニアラス唯此世ニシテ  
 アリ即チ此世ノ幸福ハ神ヨリ受ケル所ノ應報ニシテ其愛苦モ亦神ニ

リ受クル所ノ刑罰ナリ蓋其幸福憂苦ハ自己ノ自由ナル能力ニ由テ之ヲ招ク者ト爲セリ故ニ此教徒ノ富者ハ貧民ヲ輕侮スルノ風習アリ但シ此派ノ教徒ハ至テ鮮少ナレトモ大概富豪ナル者ナリ

〔三〕エッセ子派 此派ノ教徒ハ大概人家ヲ離レ沙漠又ハ山林ニ蟄居セリ新約聖書中ニ其名ノ見エサルハ蓋基督及ヒ使徒等ト相會セサル故ナラン抑モ此派ハ玄奧教ヲ信シ其重要ナル教義ヲ舉ルニ人靈ハ聖所ヨリ此汚穢ナル肉体ノ中ニ墮落シ來リ其縛縛ヲ受ル者ナレハ斷食禁慾及ヒ沈思ノ力ニ由テ之ヲ脱スルヲ究求スルヲ要スト云ヘリ

因ニ云フ馬太傳廿二章十六節ニ「ロデ黨ナル者アリ此黨ハ一ノ政黨ニシテ教派ト稱スヘキ者ニアラス即チ「ロデ家ハバレンステン國ヲ管理スヘキ者ナリト唱道スル者ナレトモ其人員ハ甚僅少ナリ

六 サマリア人 列王紀零下十七章ヲ觀ルニ「イスラエルノ十支派既

ニアッシリアニ遷移セシ後アッシリア人モ亦此地ニ來リ僅ニ殘留セルイヌラエル人ト結婚シサマリア人ト稱スル一種ノ者ト爲レリ却說此人民ハ初メ偶像教ヲ奉セシ如クナレトモアッシリアヨリ歸國セシ一祭司カ真神ノ道ヲ教ヘシ以來遂ニ真神ト偶像ヲ耕祀スルニ至レリ然ルニエルサレムノ祭司マナセナル者サマリア王ノ娘ヲ娶リシカ爲メチヘミヤヨリ其國ヲ放逐セラレ(尼希十三ノ廿八)サマリアニ來リ其王ノ保護ニ由テ祭司長ト爲リエルサレムノ神殿ニ摸擬シケリシム山ニ一神殿ヲ建設シ又人民ニ教ヘ偶像ヲ捨テ真神ノミニ事ヘシメタリサマリア人ハモトモ七ノ五書ノ外ハ其他ノ舊約聖書及ヒ遺傳即チ「タルムド」ヲ知ラサレトモ其五書ヲ篤信スルヲハユダヤ人ニ超越シ基督時代ニハ「メツシヤ」ノ將ニ來ラントテ俟テリ(約四ノ廿五)然ルニユダヤ人ハ深ク此人民ヲ厭惡呪詛シ又其交際ヲ斷絶シユダヤ教ニ入ルヲ許サル耳ナラ

ス此人民ノ田圃ニ生スル菓實ト雖汚穢ナル者ト認メタリ彼ノ約翰傳八章四十八節ニ記載シタル汝ハサマリア人ニテ鬼ニ憑レタル者ト罵リタル如キモ亦其一証ナリ却説此サマリア人ハ今日ニ至ル迄猶ホ二百人許アリナブルスト稱スル一小區ニ居住シテ堅クモイセノ五書ヲ嚴守セリ蓋是レハ世界中最古最小ナル教法ト云フヘシ

以上各國教法ノ形狀ヲ諦觀スルニ基督時代ニ於テハユダヤ人サマリア人ヲ除クノ外ハ諸國皆ナ偶像教ニ沈迷シ其品行モ亦正シカラス且ユダヤ人サマリア人ト雖モ神ノ法律ヲ蔑視スル者ナレハ人類ハ舉テ冥暗世界ニ住セシ者ト云フモ可ナリ

第四節 教會建設ノ準備

基督ノ降世及ヒ其教會ノ建設ニ適セシムル爲メ神ク此世ヲ特別ニ整頓準備セシコト最モ緊要ナル者ナリ而テ其顯著ナル整頓準備ハ即チ

左ノ如シ

- (一)當時ローマ帝國ハ其版圖ヲ弘衍セシガ爲メ開化ヲ蕃民ニマテ及シ人民ノ交際ヲ繁雜ナラシメ又其律法モ倍ス完全ノ域ニ進ミ政治ノ方向モ亦正路ニ歸シ政治及ヒ教法ニ關シタル自由ハ其範圍ヲ擴充シ加之帝國内ハ至ル處大平無事ニ屬シタリ
- (二)ラテン語ハ西帝國ナル民間ノ用語ナレヒギリシヤ語ハ其頃最モ完全ナル者ト爲リテ遂ニ學術及ヒ官術ノ用語ト爲リタリ是ヲ以テ此語言ハ基督教ノ真理ヲ解釋シ又其傳播ヲ勉ムルニモ亦至要且輕便ナル器具ト爲レリ
- (三)ギリシヤノ哲學ノ進歩スルニ從ヒ博識ノ者ハ偶像教ヲ信セスシテ唯真理ヲ探求スルコトニ苦慮セリ然レモ其苦慮ハ水泡ニ屬シ當時ノ通語ニ真理ハ井中ニ潜伏スト云ヒシ如ク人類ハ到底其組織セル諸派哲

學ノカニ由テ真理ノ本性ヲ確定スルヲ能ハス是ニ於テ確實ナル天啓ノ真理ハ最モ緊要ナル者ト爲レリ

(四)ユダヤ人ハ交易及ヒ其他ノ事故ノ爲メ諸國ニ散居シ各其地ニ會堂ヲ建設シ安息日毎ニ聖書ヲ講義シ禮式ヲ施行シ神ノ存在ヲ証明セシニ由テ使徒等ハ福音ヲ播布スルノ便ヲ得タリ

(五)「バプテスマ」ノヨハチカ道ヲ講シユダヤ人ニ其頃「メツシヤ」ノ將ニ來ラントスルヲ想起セシメ又其他人民中ニモ其非凡ナル者ノ世ニ出ルヲ族シ者許多アリ即チ「ロマ」ノ著述家「スイト」ニウスタシトス等ノ如キ是ナリ

開闢以來數千年ノ間各國人民ハ隨意ニ種々ノ教法ヲ信シタレモ真正ノ救道ヲ得ル者ナク世ノ最モ開化ニ進ミ學問ノ最モ盛ナル頃ハ品行ノ最モ淫佚ニ流レシ時ト爲リ到底天ヨリ救拯ヲ下スニアラザレハ正

道ニ歸スルノ望ヲ絶ツニ至レリ是ヲ以テ基督降世ノ時代ハ實ニ滿期ノ日ト云フベシ(加拉四ノ四)

第一章 教會建設及ヒ其弘衍

第一節 教會ノ建設

一 四福音書 基督ノ行爲ハ四福音書中ニ充滿シ教會ノ爲メ最モ缺ク可ラサル者ナレハ聖靈福音記者ヲ感導シ各自特異ナル顯象ヲ以テ其行爲ヲ顯ハシ信徒中種々ノ分類アルニモ關ラス悉ク其望ヲ満足セシメタリ却說其顯象ハ次ノ如シ(一)馬太傳ハユダヤ人ノ爲メ著述セシ者ニテ舊約聖書ヲ引用シ基督ハ預言ニ所謂將ニ來ラントスルメツシヤ「ナル」ヲ顯彰セリ(二)馬可傳ハローマ人ノ爲メ著述セシ者ニテ基督ノ有力ナル行爲ヲ顯彰セリ(三)路加傳ハギリシヤ人ノ爲メ著述セシ者ニテ基督ノ人性即チ始祖アダム以來ノ世系、妊娠、降誕、成長、十字架ノ痛苦、昇天及ヒ神ノ右ニ坐セシコ等詳細ニ顯彰セリ(四)約翰傳ハ一般信徒ノ爲メ著述セシ者ニテ基督ノ神性即チ基督ハ太初ヨリ創造者ナルコト天

ヨリ人類中ニ降臨シ神其父ナルコトヲ語リタルコト及ヒ最初光ノ中ニ居リシコトヲ顯彰セシナリ

因ニ云ク第六世紀ノ頃羅馬ノ修道者ダイオニシウスナル者當今世ニ用キル所ノ基督降誕ノ年ヲ調査一定シ以テ歴史ノ中心トナシ其前後ニ起リタル社會凡百ノ事件ノ年數ヲ計算スル一法ヲ想起セリ抑モ此計算法タルヤ實ニ簡易ニシテ年數計算ノ錯雜煩勞ヲ省畧スル爲メ最モ善良ナル者ナレト惜哉其基督降誕ノ年ヲ調査一定スルニ方リ一大誤謬ヲ爲セリ蓋基督ノ降誕ハ此人ノ見定セル年數ヨリ其實凡ソ四年以前ニアリシ者ノ如シ

二 教會ノ基礎 四福音書ヲ觀ルニ基督ハ其身ヲ以テ教法ノ基礎即チ神ノ肖像ニシテ信徒行爲ノ模範ト爲セリ是ヲ以テ基督教ニ於テハ

其信徒回々教或ヒハ儒道等ノ徒弟ノ如ク唯其教義ヲ信スルノミナラ



大首トシテ基督ヲ信仰ス故ニ基督教ノ勢力ノ強且大ナルヲハ遠シ他  
 教ノ企テ及フ能ハサル所ナリ蓋基督教ノ此世ニ勢力アルヲハ唯教會  
 歴史ノミナラス普通歴史ヲ誦讀スル者ト雖モ其勢力ノ盛隆ナルヲ知  
 リ得ヘシ

基督ノ此世ニ在リシ頃ハ其徒弟ノ員數モ許多ナラス其傳道ノ準備モ  
 ナシ一冊ノ書籍モ著述セス其教導セシ人ハ平凡ナル者而已ニテ且基  
 督ノ昇天ノ頃マテハ其服心ノ徒弟ト稱スル輩モ未タ眞正ナル教義ヲ  
 了解スル能ハス諸事不整頓ナリシヲハ抑モ理由アリ是レ即チ聖靈ノ  
 榮光ヲ發顯スル爲ナリ故ニ聖靈ハ基督ノ昇天後ニ至テ其徒弟等ノ心  
 ナ開發シ基督ノ事蹟ヲ教示シ徒弟等ヲシテ福音ヲ弘布シ書籍ヲ著述  
 シ聖教會ノ基礎ヲ確立セシメタリ斯クシテ爾來聖靈ハ常ニ教會ノ上  
 ニ宿リ之ヲ保護且弘行セリ

三 使徒行傳

此書ハ四福音書ニ神子ノ行爲ヲ顯彰スル如ク聖靈ノ  
 行爲ヲ顯彰スル者ニテ各教會歴史中此書ヨリ緊要ナル者ハアラザル  
 ナリ夫レ使徒等カ聖靈ノ感導ニ由テ建設シタル教會ハ永ク諸教會ノ  
 模範ト爲レリ故ニ教會ノ建設、聖役、最初ノ議會、傳道ノ方法、說教、當時教  
 會ノ活動セシ現狀及ヒ其道德等ハ皆此書中ニ包含セリ

基督ノ昇天スルニ臨ミ其徒弟等ニ天ヨリ權力ヲ授ケラル、迄ハエ  
 ル  
 サレムニ留ルヘシト云ヒシ(路廿四ノ四十九)理由ハ次ノ如シ(一)徒弟等  
 ノ心開ケテ天國ノ現狀ヲ覺リ之ヲ弘布スルノ勇氣ヲ得セシムル爲メ  
 (二)エルサレムニハ當時諸邦ニ散亂セシユダヤ人等時々來會スルニ由  
 テ其機ニ乘シ基督教ヲ諸國ニ傳播セシムル爲ナリ  
 聖靈ノ五旬節ニ降臨セシ理由ハ蓋次ノ如クナラシ此日ハ基督ノ贖罪  
 ミリ七週日即チ完全日ニ當リ且古昔モ一セカシナイ山ニテ神ヨリ律

法ヲ授カリシ祭日ナルニ由テ聖靈ハ特ニ此時ヲ以テ新約ノ福音ヲ信  
徒ノ心底ニ銘セシ者ナリ抑モ此日ハ每年初實ノ穀ヲ神ニ獻スル日ニ  
方レルニ三千ノ信徒ノ教會ニ加ハリタルハ恰モ教會ノ初實ト爲リシ  
カ如シ

ユダヤ人ノ外始メテ道ヲ受ケシ者ハサマリア人ニシテ此地ニハビリ  
ボノ傳道ニ由テ許多ノ信徒起レリ(使八章)

異邦人ノ中ニ道ヲ傳ユル爲ニハ使徒ペテロ神ノ啓示シタル異象及ヒ  
其命令ニ由テ派遣セラレタリ却説ペテロノコルチリチ及ヒ其家族等  
ニ接手續ヲ施スニ方リ聖靈ハ既ニ之ニ先タチテ此等ノ人ヲ感化セリ  
故ニユダヤ教會ノ者ハ始メテ異邦人モ亦福音ヲ受クヘキ者タルヲ  
了知セリ(使十章)

使徒行傳ハ二大段ニ區別シ篇首聖靈降臨ノ章ニ次キ第一ニペテロノ

傳道ニ由テユダヤ人ノ中ニ教會ノ建設セシテ第二ニパウロノ布教ニ

由テ異邦人ノ中ニ教會ノ建設セシコトヲ記載セリ

四、使徒及ヒ最初ノ傳道者

(一)ペテロ古傳ニ據ルニ此人ハ初メパレスチン及ヒスリヤニ傳道シ  
後パウロト約シ(加二九)ユダヤ人ノ使徒ト爲リ又暫時、ヤビ族ニ傳  
道シ(前彼五ノ十三)パウロガ逮捕セラレ、ニ及ヒ之ニ代リ小アジアニ  
奔走シ後ロマニ入り迫害ノ起ルニ方テ遂ニ十字架ノ刑ニ處セラレタ  
リ此時ペテロハ將ニ殺カレンスルニ臨ミ我々主ナル基督ノ如クシテ  
テ死スヘキ價値アル者ニアラスト自ラ請フテ逆釘セラレタリ是レ  
或ヒハ信スヘキ説ナラン然レモ天主教徒ノ説ニペテロハロマニ於テ  
教會ヲ建設セシ後二十五年間自ラ其監督ノ職ヲ務メ教會一般ノ教王  
ナリシトハ一モ信スヘキ確證アリ

(三)ヨハネ 古傳ニ據ルニ此人ハ基督ノ母マリヤノ死セシ後小アジアニ至リシニ其地ニ居住シ第三世紀ノ季頃下エシアシ帝ノ迫害起ルニ及ヒ其命ニ由テロマニ繫囚セラレ又六島ニ流竄セラレシニ其島中ニ於テ傳道シ且默示録ヲ著述セリ其後テルウ帝ノ時信徒ノ流刑ヲ赦免シテ家ニ歸ラセラルニ及ヒヨハネハ復ニ就クニ居住ス既ニ高年ニ至テ約翰傳ヲ著ハシ行年凡百歳ニシテ眠ニ就クリ却説十二使徒ノ中ニ於テ天年ヲ以テ終リタル者ハ實ニ此人獨リアルノミ又著述家タルト云フニ書ヲ閱スルニヨハネハ下エシアシノ帝ノ論旨由テ其地ニ繫囚セラレシ時一日大鏡ニ油ヲ煎テ其中ニ投入セラレテ心ニ奇異ノ助授ニ由テ其死ヲ免シタリトアリ然レモ其真否未ダ知ルルカラス

(三)トマス 或古傳ニ據ルニ此人ハ嘗テペルシアニ至リ傳道シ其地ニ於テ死スト云ヒ又一説ニハ印度ニ傳道シ教會ヲ建設シ終ニ此處ニテ没スル云々冷案ズルニ印度ノ西部ニ於テ其地ニ教會ヲ稱スル者往古ヨリ存在スルヲ觀シヨハネハ蓋ペルシア及ヒ印度ノ兩國ニ傳道セシ者ナラシ其他十二使徒等ノ經歷ニ至テハ確實ニ知ラズルモヨハネハ

(四)パウロ 神ニ此人ヲ其徵召セラレタル聖職ヲ盡カシタルカ爲メ非常ノ準備ヲ爲セリ即チバビロンハ小アジアナルソト云ヘルルマニ以テ屬地ニ生レロマ人タルノ權利ヲ得シ者ニテ其未ダ郷里ニ在ルニ當テギリシヤノ學問ヲ脩メ又天幕ヲ製造スルコトヲ習ヘリ蓋此天幕ヲ製造スルコトハ後來傳道ノ日ニ至テ往々其生活ヲ補助ト爲セリ其後ハマテノ學者ニ就キテ舊約聖書及ヒ遺傳ヲ研究シ遂ニ聖靈ノ感

導ニ由リ奇異ナル改心ヲ爲セ且彼又哥林多後書十二章ニ記載セテ  
 其基督ニ於ル經驗ヲ如キハ實ニ奇異ナル者ト云フ可シ却説パウロハ  
 ママスコニ於テ「バゾテスマ」ト受ケシ後凡ソ三年ノ間ハアラビヤニ往  
 キ沙漠中ニ居住セリ蓋此間ハウロハ思テ凝ラヌ道ヲ學ビテ者ナラン  
 其後ウロハアシテオビヨル傳道ノ爲メ三タビ小アジアマタドニ  
 キリシヤヲ奔走シ許多ノ教會ヲ建設シ拔群ノ功績ヲ建タリ然ルニ其  
 後迫害ノ起ルニ及ヒエルサレムニ於テ捕縛シロマニ護送セラレニロ  
 童不明ノ裁判ヲ受ク一時ヲ放免セラレテ「マヨ」ト出ル雖モ後又或  
 教會ヲ訪問セシ際ニ方リ再ヒ逮捕セラレロマニテ裁判ノ季終ニ殉教  
 セリ(紀元六十四年頃)一説曰パウロヲ再ヒ逮捕セラレシヨハ「スバ」  
 「ニ」ニ起キシ時ナリトアリ

〔五〕マヨ等 或古傳ニ據ルニ「スバ」ハ嘗テアレキカンゾリヲ至リ教會

ヲ建設シ自ラ其監督ト爲リ其後其地方騒亂ニ際暴徒等ノ爲メ糾纏  
 シテ諸方ヲ繫扯セラレ遂ニ其創傷ニ由テ命ヲ落セリト其他ルカバル  
 ナバアボロ等使徒行傳中ニ見ヘタル傳道者ノ經歷ニ就テハ古昔ヨリ  
 種々ノ傳説ナキニアラサレハ皆矛盾唐突シテ信認スベキ者アラサレ  
 ハ茲ニ記載セズ

第二節 教會ノ弘衍

教會ノ沿革ヲ釋スルニ傳道者ノ盡力ニ由テ其非常ニ弘衍シタルコトハ  
 凡ソ三回ニシテ大抵教會歴史時代三紀ノ初メ毎ニ起レリ即チ基督昇  
 天後、中古及ヒ輒今ノ事ニ係レリ

一 最初ノ傳道

〔一〕使徒時代ノ布教地 第一紀ノ沿革ハ使徒ノ時ヨリ第四世紀マテノ  
 間ニシテ第一世紀即チ使徒在世ノ時ニ於テ教會ハ既ニ「ロマ」帝國内ノ

諸邦ノミナラス其他諸國ニモ弘行セシトハ實ニ其證據多ナルヲ以テ使徒等ノ自ラ建設セシ教會ノ數ハ幾許ナリシヤ得テ詳知スベカラズト雖モ其數ハ蓋シ尠カラカリシ者ナラン茲ニ使徒等傳道ノ方法ニ就テ一ノ考フヘキコアリ即チ使徒等ハ務メテ大概人民ノ繁殖セル大都府ニシテ傳道セシト是ナリ第二世紀ニ於テハ小アジアノ大守ビリニ著述セル書類ヲ觀ルニ基督教ノ倍ス盛大ナルニ從ヒ小アジアニ在ル偶像教ノ堂宇ハ殆ト廢頽ニ屬シ其頃犧牲ノ爲メ販賣セル獸類ヲモ購求スル者ハ實ニ稀少ナリト記載セリ第三世紀ニ於テハ著述家シユステン、マルタル(即チ殉教者)及ヒタルトリアンノ說ニ據ルニエトルセルマニ、ブリタン、リブニ等ノ人民ノ中ニモ基督教ノ弘行セリト云ヒ其他諸國ノ人民中ニ遺レル古傳等ニモ亦此說ニ符合スル者ナキニアラズ然レモ當時基督諸國ノ人民ハ皆大議會ノ時其首坐ヲ占メント欲

スルニ由テ其教ヲ受ケシ年代ノ前後ヲ爭フ習僻アリタレハ容易ニ其說ヲ信スベカラズ且古傳ノ斯クノ如クナルニ關セズ諸國ノ人民ハ猶ホ多ク偶像教ヲ奉セシ者ト見ヘテ歴史家キッボン、カコンスタンテン帝即位紀元三百零六年ノ事ヲ記載セシ書ニ羅馬帝國中ニテ人民ノ基督教ヲ奉スル者其廿分ノ一ニ居ルト云ヒ又ロビンソンハ五分ノ一ニ居ルト云ヘリ蓋此二說ヲ折衷スルニ其實際ハ十分ノ一許ニ居リシ者ナラン又最初ノ教會歴史家ユシピウスカ紀元二百五十年頃羅馬教會聖役ノ人數ヲ記載セシ書類ニ就テ推測スルニ當時羅馬ノ信徒ハ大凡六萬人許ナルヘシト想像セラル、ナリ

(二)亞弗利加

此國ニ教會ノ弘行セシハアレキサンデリア、ガルトヤノ兩地ヨリ始マレリ其概畧即チ次ノ如シ(一)アレキサンデリアニハマコ始メテ傳道シ神學校ヲ建設シ生徒ヲ養成シ且此處ヨリ傳道者ヲニシ

プロト國內及ヒスピアニテオピア等ノ諸國ニ派遣シテ傳道セシメ大ニ教會ノ興隆ヲ計畫セシニ由リ信徒漸次ニ増殖シ第三世紀ノ中頃ニハアレキサンデリアニ於テエジプト國內ノ監督等議會ヲ開クニ至レリ又紀元三百五十年頃エジプトノ監督アタチシウスハ傳道者フルメンシウスナル者ヲ派遣シアビシニアニ傳道セシメタルニ大ニ好結果ヲ得テ其國王及ヒ人民等皆教ヲ受ケ今日ニ至ルマテ猶ホ基督信徒ト稱セリ(二)カルテヤ及ヒララン語ヲ用ヰル亞弗利加西北ノ諸國ニハロマ教會ヨリ直ニ傳道セシガ亦其効アリ第三世紀頃監督シブリアンノ時既ニ八十七人ノ教師ヲ召集シカルテヤニ於テ議會ヲ開キシイアリ(三)シール此國ハ當今所謂フランスニテ其教會歴史ハ最モ緊要ナル者ナリ其理由ハ即チ次ノ如シ(一)此國ハララン帝國中ニ於テ最モ強盛ナル國ナリ(二)フランス教會ノ教師等ハ天主教ノ神學ヲ制定スルニ最

モ勢力アリシ者ナリ但シ其制定セシ教義ハ半「ビレギア」ニ類セリ(三)中古教法改革ノ萌芽ハ多ク此國ノ教會ヨリ發生セリ(一)シールニ始メテ基督教ノ傳播セシ眞説ヲ釋スルニ第二世紀ニ方リ傳道者ポルトアイヌス著述家イレニウス及ヒ數人ノ者小アジャヨリ此國ニ來リテ傳道シ若干ノ教會ヲ建設セシヲ以テ嚆矢トス且此等諸教會ハ漸次ニ増殖シ特ニリヨーンノ教會ノ如キハ最モ盛大ナル者ナリ然レニ其後迫害ノ起ルニ及ヒ大概ハ消滅シ其頃リヨーンノ監督タリシポルトアイヌスモ亦殺害セラレタリ因テイレニウスハポルトアイヌスノ職ヲ嗣キ監督ト爲レリ却説此イレニウスノ著述セシ書類ハ大概當時ノ異端者ニ對シテ著述セシ者ナルニ由テ當時ノ教會ノ形狀ヲ知ルニ足ル最モ貴重スベキ者ナリ第三世紀頃七人ノ傳道者バリ及ヒフランス西北ノ各地方ニ於テ許多ノ教會ヲ建設セリ其傳道者ノ長ヲダイオ

ニシウスト云フ後又迫害ノ起ルニ及ヒ此人モ亦パリニ於テ殉教セリ  
 因テパリノ人民ハ之ヲ祀リ其地ノ守護神ト爲シ且一般ニフランス人  
 ハ此人ヲ稱シテ聖デニト云ヘリ又或者ハ此人ヲ以テアレオ山ノデチ  
 スシオ(使十七ノ卅四)ナリト誤認セリ斯ク傳道者ノ盡力セルニ關セス  
 エールノ或州内ニ於テハ第四世紀ノ頃マテモ多ク偶像教徒アリシカ  
 其頃イタリヤヨリ來リタル傳道者マルテンノ布教ニ由リ偶像及ヒ其  
 堂宇ヲ破壊シ基督教ニ入リシ者許多アリ因テマルテンチエール人ノ  
 使徒ト稱スル者アリマルテンハ初メイタリヤノ陸軍ニ奉職セシカ修  
 道者ト爲リ此國ニ來リ其教會ノ盛ナル頃トウルノ監督ト爲リ後此聖  
 職ヲ罷メ復テ修道者ト爲リ此國ニ修道院ヲ建設シ陸軍ノ軍律ニ倣ヒ  
 嚴重ナル規則ヲ制定シ其徒弟ヲ統理セリ  
 フランスノ全ク基督教國トナリシ理由ハ即チ次ノ如シ初メカリイ種

族ノ酋長ニクロウス一名ルイト云フ者アリ數族ノゴール人ト戰鬥シ  
 タ之ニ克チ一王國ヲ建テタリ時ニ其妻クロテルダハ基督信徒ニシテ  
 屢ハ其夫ニ基督教ニ入ランコトヲ勸メタレモクロウスハ未タ之ヲ信セ  
 ス然ルニ其後アレマニト云フ強大ナル種族ト覺テ生シ戰ヲ接スルニ  
 及ヒテクロウスハ基督ニ誓ヒ尙我ヲシテ這回ノ戰ニ勝ツコトヲ得セシ  
 メナハ向後公然主ニ服従スヘシト祈禱セシニ果シテアレマニ人ニ勝  
 ツコトヲ得タリ因テクロウスハ遂ニ其兵三千人ト俱ニ「バプテスマ」ヲ受  
 ク是レ實ニ紀元四百九十六年ナリ此時リムスノ監督リミウウスハ  
 此等ノ人ニ其禮典ヲ施スニ嚴肅ナル式ヲ用キタルニ由テ傍觀者ノ之  
 ニ感動シ亦遂ニ基督教ニ入ル者許多アリ故ニフランス王ハ今日ニ至  
 ルマテ教會ノ嫡子ト稱シ又尊稱シテ基督教中ノ最貴王ト云ヘリ然レ  
 モクロウスハ既ニ「バプテスマ」ヲ受ケシ後ゴール人ニ向ヒテ我ハ此ク

ラノスノ兵ヲ卒キテ基督ノ十字架ニ釘ラレシ時エルサレムニ居ラント欲ス蓋ユダヤ人及ヒローマ人ヲ駢誅スルヲ得レハナリト語レキ由是觀之シロウイスハ未ダ基督教ノ真理ヲ知ラサル者ト云フヘシ然レモ此國人民カ苟モ偶像教ヲ廢シ基督教ニ入リタルハ實ニ道ヲ學フノ時ヲ得シ者ニテ決シテ無益トハ稱スヘカラス却説此國ハ其後紀元五百五十四年ナルデベルト王ノ布告ニ由リ悉ク國內ノ偶像等ヲ破壊セリ

二中古ノ傳道

(一)アイルランド 此國ノ使徒パテリクハ原名ヲスツガトスト云ヒスコトヲラノドノ人ナリ其父ハ全國ナル一教會ノ執事ナリシカ其原トハ恐クハ羅馬人ナリシヲラノ却説パテリクノ在世ニ就テハ確定ノ説アラズ一説ニハ大概紀元四百年代ノ人トアリ又一説ニハ行年百歳ニ滿テ第五世紀マテ存在セシ者トアリタリ初メスツガトス十六歳ノ時アイル

ランドノ海賊ノ爲メ掠奪シ其國ノ奴隸ニ販賣セラレ主家ノ羊ヲ牧養セシカ苟モ間暇アル時ハ常ニ其國語ヲ學ヒ國人等ト親密ナル交際ヲ爲セリ然ルニ後竊ニ其主家ヲ脱シ故郷ニ歸リシニ兩親ハ既ニ海中ニ溺死シ一人モアラサレハスツガトス悲歎ニ堪ヘス誓テ立テ修道者ト爲レリ却説此人ハ後世ノ有名ナル傳道者ノ如ク往々奇梵ヲ見異聲ヲ聞ク等ノ事アリ即チ一夜夢中ニアイルランド人乍チ其前ニ顯ハレ來リパテリクニ向ヒ來リテ我儕ト同行セヨト云フヲ聞キ覺メタル如キ是ナリ故ニパテリク自ラ以爲ラク是レ皆我カ郷里ヲ去リ他國ニ傳道スヘキノ前兆ナラント遂ニ志ヲ決シテエールニ至リ修道院ニ入り道ヲ學ヒ接手禮ヲ受ケシ後イタリヤニ遊ヒ暫クシテスコットランドニ歸リ全行者ヲ擇ヒテ傳道ノ爲メアイルランドニ至レリ時ニ紀元四百三十年ナリ此時アイルランドハ國內分裂シテ數國ト爲レルニ由テパテリ



クハ其諸國ヲ巡歴シテ道ヲ傳ヘ或ヒハ山野ニ露宿シ或ヒハ兇猛ナル酋長ニ遇フテ其迫害ヲ受ケシ等種々ノ困苦ヲ嘗メ又一日「アルイド」教ノ大祭日ニ方リ會マタラ岡ニテ火ヲ焚キ之カ爲メ斬害セラレントセリ蓋タラ岡ハ其國人ノ以テ聖丘トスル所ニシテ倘焚火等ノ事ヲ行フ者アレハ必ス焚殺ニ處スヘキノ國法ナリ然ルニ「パテリク」ハ幸ニシテ或酋長ノ救援ニ由テ其死ヲ免レ後或酋長ノ保護ニ由テ教會ヲ建設セシニ其數漸次ニ増加シテ三百六十五ノ多キニ至リ終ニ之カ爲メ監督一人長老三千人ヲ置クノ好結果ヲ得タリ因テ其後此國ノ基督教國ト爲ルニ及ヒ世人之ヲ指シテ聖人島ト云ヘリ天主教徒ニ傳ハレル古傳ニ據レバ「聖パテリク」ハ多クノ奇蹟ヲ行ヒ又聖書ニ背戻セシ謬妄ノ説ヲ信セシ者ノ如クナレド此人ハ實ニ聖書ニ合有スル教義ヲ播布スルヲ以テ傳道ノ大目的ト爲シ又修道院ヲ建テ許多ノ徒弟ヲ養成シ且其

國語ヲ以テ聖書ヲ翻譯スル爲メ一種ノ文字ヲ發明セシ者ナレハ天主教徒ノ説ハ蓋後世ヨリ附會セシ妄説ナラン却説「パテリク」カ建設セシ修道院ハ純粹ノ神學校ニシテ其後許多ノ傳道者及ヒ神學者此院ヨリ派出シ歐洲各國ニ傳道等ヲ爲シタリ

(二)「スコットランド」始メテ此國ニ渡來セシ基督信徒ノ一群ヲ「コルデル」ト云ヘリ「コルデル」トハ蓋二個ノラテラ語ニシテ敬神者ノ意ナリ古傳ニ據ルニ此人等ハ原ト「歐羅巴」南部ノ者ナリシカ第二三世紀頃世ノ迫害ヲ避ケテ此國ニ渡航シタリトアレド其眞否ハ明亮ナラサルナリ其後紀元四百三十一年「バルラデウス」ナル者「ロマナル」監督ノ命ヲ受ケ此國ニ來リテ教會ノ監督ト爲レリ又紀元五百六十五年「アイルランド」ノ修道者「コロムバナル」者其議論ノ國人等ト合ハサルカ爲メ其國ヨリ放逐セラレテ十三人ノ同志者ト共ニ此國ニ來レリ然ルニ「コロムバ」ハ此

國ノ或酋長ノ親族ナルヲ以テ之ニ請ヒ修道院ヲイオナ島ニ建設シ一  
 行者ト俱ニ其島中ニ居住セリ抑モ此イオナ島ト云ヘル所ハ其國ノ西  
 北ニ在リ長サ一里許リ幅サ七丁ニ過キナル一小島ニシテ修道院モ亦  
 極メテ矮陋ナル小舎ナリト雖モコロムバカ其修道院ノ院長ト爲リ許  
 多ノ徒弟ヲ養成シ又屢ハ一行者ト共ニスコットランドノ各地方ニ傳道  
 シ其後第六世紀頃ニモ此修道院ヨリ出タル者カイングランドニ傳道  
 シ其他神學者モ亦四方ニ派出セシニ由テ教會歴史中甚ク有名ナル者  
 ト爲レリ却說此國ニハ其後イオナ島ノ修道院ニ類似スル者許多起リ  
 シカ此等ノ修道院ハ皆天主教ノ修道院ト異ナリ修道者ハ家宅ヲ其院  
 内ニ構ヘ妻ヲ娶リ或ハ聖職ヲ以テ其子ニ讓ル者アリ且其院長ナル者  
 モ唯其會議ノ長又ハ長老ノ長タルニ過キカルナリ又或古傳ニ據リテ  
 コロムバノ教義ヲ觀ルニ人ハ聖靈ノ感導ニ由テ更生シ信仰ニ由テ基

督ニ義ト爲ラレ信仰ヲ以テ聖ナル生活ヲ爲ス等多ク聖書ノ教義ニ適  
 シタル者アリ斯クテ教會ハ此國ニ漸々興隆セシカ第八世紀頃イング  
 ランドノ修道者コロムバ教王ヲ援テ此教會ヲ蠶食セシメシニ由テ信徒  
 等ハ大ニ困迫ニ陥リテ蓋其頃ノ史乘ニ就テ此國信徒ノ形狀ヲ觀ル  
 ニ其信仰ハ當時大ニ稀薄ナリシ者ノ如シ其後第十世紀頃ニ至テ此國  
 ノ修道院ハ歐羅巴北部ノ人民ノ爲メ焚燬セラレ其教會モ亦紀元千百  
 七十年ニ至テハ悉ク羅馬教王ニ屬シタリ然レモ或說ニ古昔此國ニ渡  
 航セルコロムバ人ノ或部分ハ教王ニ服屬セス此國ノ西部ニ逃遁シ後  
 二三百年間僅少ノ人員ニテ殘留セリトアリタリ

(三)イングランドハ此國ハ基督時代ニハブリテント稱シ第二世紀頃ニ  
 ハ基督教ノ既ニ此國內ニ傳播セシコトハ證據尠カラス即チ第八世紀頃  
 イングランドノ著述家ビドノ英國教會歴史ニハ第二世紀ノ中葉イ

シグランド王メシウスカロマ帝ニ請ヒ傳道者ヲ聘シ紀元三百十四年  
 フランソノアルシスノ議會ニハイソグランドノ監督三人列席シタル  
 一ヲ記載セリ然レモ此國ハ第五世紀ノ初頃ロマ帝國ノ既ニ衰ヘテ遠  
 方ノ屬地ヲ治ムル能ハサルニ及ヒビソトスコット云ヘル二種族ノ者  
 北方ヨリ襲來シテ此國ヲ侵略シケレハ國民等之ヲ防禦スルヲ能ハス  
 ゼルマニ近傍ニ住スルアングロサクソン人ニ頼テ之ヲ驅攘ス時ニ彼  
 ノ兇惡ニシテ且偶像教ヲ奉スルアングロサクソン人等ハ此國ノ豐沃  
 ナルヲ觀テ奪略ノ志ヲ生シ遂ニ東ブリタシノ諸國ヲ掠略シヘブアル  
 キ七王國ヲ建設シ又其偶像教ヲ播布シタリ因テブリテン人等ハ其困  
 難ヲ避ケ西ブリタシニ移住シ大概ハウエーリスニ居住シ(現今ウエー  
 ルス人ト稱スル者)敢テ基督教ヲアングロサクソン人ノ中ニ播布セシ  
 ムル者アラサルニ由テ此種族ノ者ハ其後百五十年許ノ間猶ホ偶像教

ニ迷ヒ基督教ヲ聞ク能ハカリシナリ然ルニ紀元六百年頃ニ至テ教王  
 大グレゴリ傳道者ヲ此國ニ派遣シ好結果ヲ得タリ初メ大グレゴリカ  
 未タ教王ニ撰擇セラレサル頃一日ロマノ奴隸販賣市場ニ於テ顔色美  
 麗威儀端正宛モ貴人ノ如キ少年等アルヲ觀テ其生國ヲ尋テシニ或人  
 アングロ人ナリト答ヘケレハグレゴリ感歎シテ然リ實ニ「アングロ」  
 (「アングロス」即チ天使ナルギリシヤ語ノ轉訛)ナル哉ト云ヘリ然レモ  
 其人民等ハ未タ偶像教ヲ信シテ基督教ヲ知ラサル者ナリト聞キ自ラ  
 其國ニ至リ傳道セント欲シ奮テ其途ニ上リシニ未タ數日ナラスシテ  
 ロマノ監督ヨリ使ヲ以テ招還サレ其後教王ノ位ニ昇リ遂ニ其志ヲ達  
 スル能ハカリシ然レモ其志ハ片時モ忘ル、イナソアングロ人ニ學問  
 ヲ教ヘ後其國ニ歸ヘシ之ニ因テ傳道セント欲シラシスニ於テアン  
 グロ人ノ奴隸ヲ買入ル、イナ命シタリ此頃ヘブアルキ七王國ノ一ナ

ルケントノ國王エタルベルトナル者フランス王ノ女ベルタト云ヘル  
 基督信徒ヲ娶リタルハ教王之ヲ聞キ直ニ傳道者ヲ其王家ニ遣ハサシ  
 ト決心シロマナル修道院ノ長アウグステンヲ選抜シ四十人ノ同行者  
 ヲ携ヘ其國ニ趣カシム(紀元五百九十七年)時ニ旅中ニ於テ屢ハ猛惡ナ  
 ルアングロ人等ノ此一行者ヲ掠辱セントスル說アリケレハ一行者ハ  
 之ヲ聞キ深ク恐怖シ進行スルヲ欲セス因テアウグステンモ止ムコ  
 ナ得ス一行者ノ希望ニ從ヒ一時ロマニ歸リ其委任ヲ解カントテ請願  
 セシニ教王ハ頻ニ獎勵シテ敢テ之ヲ許サレハアウグステン遂ニ志  
 ナ決シ一行者ト共ニ再ヒロマヲ出テ途ニ上レリ斯クシテ此一行者ハ  
 既ニケントニ至ルニ及ヒ使ヲ遣ハシエタルベルト王ノ許ニ其來着セ  
 シト及ヒ其來着スル所以ヲ陳述セシニ國王ハ即チ出テ、アウグステ  
 ンニ對面シ其篤志ヲ感賞シ其身ハ未ダ教ヲ受クルヲ肯セサレト自由

ニ人民ニ傳道スルヲ許シ且其居宅ヲ與ヘ給養ヲ爲スヲ約セリ是  
 ニ於テアウグステンハ頽破荒廢セルロマ時代ノ會堂ヲ搜出シ一行者  
 ト共ニ其堂ニ於テ禮拜ヲ行ヒ講義ヲ務メ人民ヲ教導セシニ人民ノ之  
 ニ歸依スル者甚ク多クエタルベルト王モ亦遂ニ「パプアスマ」ヲ受ケ且  
 此頃其國內ニ存在セル偶像教ノ堂宇ヲ改メテ基督教ノ會堂ト爲スノ  
 結果ヲ得テリ抑モアウグステンハ教王大クゾルノ教ニ從ヒ一ノ貴  
 重ナル主義ヲ守レリ即チ人ヲ教導スルニ威力ヲ以テ強迫スルノ手段  
 ニ由ラサルコト是ナリ故ニエタルベルト王モ亦其主義ヲ体認シ國民ニ  
 信仰ノ自由ヲ許可セシカハ人民ノ偶像教ヲ棄テ基督教ニ入ル者續々  
 トシテ絶ヘス一年基督降誕ノ日ニ改心者ノ「パプアスマ」ヲ受クル者一  
 萬人ニ超ヘタリ斯クテアウグステンハ紀元六百〇二年ニ至リ終ニカ  
 ンタルベリン大監督ニ任セラシメタリ是レ即チカンタルベリン大監督ノ

權興ナリ其後大監督教人相尋テ其職ニ就キシカ此初代ノ大監督ハ其内最モ有名ナル者ナリ(ヨルソノ大監督ハ紀元六百廿四年頃ニ至テ始メテ設置セリ)

大監督アウグステンハ初メウエールズナル信徒ヲモ其權下ニ服屬セシムヘキ計較アリシニウエールズ人ハ深ク往昔アンソロサキンソノ人ノ詐略ニ懲リ又其復讐ヲ踏マンコチ疑ヒ始メハアウグステンノ意ノ如クナラサリシカ終ニ其勸諭ニ由テ試ニ其商議會ヲ開シコチ承知シ教人ノ教師ヲ選抜シ委員トナシ將ニカンテルベリニ派遣セシメントス時ニ委員等ハ未ダ發途セサルニ先クチ有名ナル修道者ニ往キ其委託セラレタルコトニ就テ其意見ヲ問ヘリ修道者云ク汝儕カ大監督ニ謁見スルコト方リ宜シク其作動ヲ觀察ス可シ彼倘其椅子ニ由リ敢テ接近セズンハ是レ即チ傲慢驕倨ノ證ナリト然ルニ委員等ハ既ニカンテル

ベリニ至リ大監督ニ謁見スルニ大監督ハ果シテ其椅子ニ據リ敢テ接近セサレハ商議終ニ整ハス委員等ハ國ニ歸リ自來數百年間ウエールズノ教會猶ホ孤立シタリ紀元六百〇五年大監督アウグステン眠ニ就キ全六百十六年エタルベルト王モ亦死シ嗣子エドバルド王其位ヲ嗣ケリ此エドバルド王ハ爲人放蕩ニシテ基督教ノ拘束ナルヲ嫌惡シ又再ビ偶像教ヲ其國中ニ興起セシニ國民等之ニ靡從スル者甚ク多カリケレハ基督教ノ監督等ハ大ニ失望シ其務ヲ捨テ他國ニ脱走スル者甚カラス大監督ラウレンスモ亦憂心焦慮遂ニ其職ヲ棄テ遁去セント欲セリ然ルニ其夜會堂ニ入り祈禱ノ際覺エス眠ニ就キシカ使徒ペテロ忽然其前ニ來テ其志操ノ怯弱ナルヲ遣責スルト親テ夢寐メラウレンス大ニ感シ斷然其志操ヲ改メ自ラ國王ノ許ニ至リ其夢中ノ事ヲ語リ且基督教ヲ奉セズンハ將ニ神ノ譴怒ニ觸レンコト切諭セシニエドバル

ルド王ハ之ヲ聞キテ深ク恐怖シ又偶像教ヲ棄テ放蕩ヲ止ムルヲ約セリ從是ケンドノ教會ハ倍ス鞏固ニ爲リ其隣國エツキスノ教會モ亦俄ニ盛大ニ爲リ基督教ハ殆ント七王國中ニ傳播セリ

ノルテウムベルランド王オスワルドナル者ハ初メ王子タリシ時其國ヲ去リ暫クイオナ島ナル修道院ノ中ニ居住セシカ其後國ニ歸リ王位ニ昇ルニ及ヒイオナ島修道院ノ長ニ教師ヲ派出シ其國ニ傳道セシヲ請ヒシニ由リ一人ノ教師イオナ島ヨリ來リテ少焉此國ニ傳道セシカ遂ニ修道院ニ歸リノルテウムベルランドノ人民ハ固陋ニシテ基督教ヲ受クルニ足ラスト告ケタリ時ニアイダシト云ヘル一修道者アリ此語ヲ聞キ感激シテ設令何等ノ固陋ナル人民ト雖モ何ソ基督教ノ福音ヲ受クルニ堪ヘサルモノアラシヤ我請フ其人民ニ道ヲ傳播セント云ヒ自ラ奮發シテ此國ニ來リ熱心ニ講義ヲ務メ柔和ナル行爲ヲ爲シ聖

潔ナル生活ヲ營ミシニ果シテ人民等ハ之カ爲メ感導セラレ基督信徒ト爲ル者許多アリ斯クテヘアタルキノ七國ハ第七世紀ニ至リ悉ク基督教國ト爲レリ

〔四〕ホルランド 此國ノ使徒ハノルテウムベルランド州ヨリ渡航シタル傳道者ウイリプロルドト云ヘル者ナリ此人ハ初メ十二年ノ間アイルランドノ修道院ニ居住セシカ其後此國ニ傳道セント欲シ十二人ノ同志者ヲ携ヘ紀元六百九十年頃此國ノ北フリランダ州ニ渡航セリ抑モ此國ニハ古昔ヨリ傳道ヲ試ミタル者ナキニアラサレヒ壹人モ能ク其功ヲ奏スル者ナク此回ウイリプロルドノ一行者モ亦種々ノ障害ニ逢ヒ特ニラドボドト云ヘル兇惡ナル國王ノ爲メ迫害セラレタリ此ラドボドハ營テ自ラ信徒ト爲ル可シト明言セシト有レト是レ當基督信徒ヲ愚弄セシ者ニテ或傳道者ハ實ニ此王ノ爲メ捕縛シテ偶像祭ノ

犧牲ニ供セラレ他一行者中ニハ迫害ヲ爲メ殺害セラル、者數人アリウイリプロルドモ亦死ニ濱セシ、コト勘カラスト雖モ更ニ屈撓スルノ色ナク力ヲ盡シテ傳道シケレ共信徒漸次ニ増殖シ遂ニ教會ヲ建設シ教師ヲ置シニ至レリ其後此人ハ羅馬教王ノ命ニ由テユテレントノ大監督ト爲リ始終其務ヲ奉セシ、五十年八十ノ高齢ニ達シテ永眠ニ就キシト雖モ其間ホルランドヲ離レ旅行セシ、ハ僅カニ三回ニ過キスト云フ

〔五〕ゼルマニ 此國ニ布教シタル傳道者中ニテ最モ有名ナル者ヲコロムバヌスホニフエスノ二人トスコロムバヌスハ初メアイルランド人ニシテ幼少ノ頃嘗テ一修道者ニ會セシニ修道者ハコロムバヌスニ向ヒ頻ニ基督教ノ榮光ヲ顯彰スル爲メ特別ニ偶像教徒ノ中ニ傳道セシコトヲ勸奨シケシハコロムバヌス大ニ感激シ是ヨリ修道院ニ入り熱心

ニ聖書ヲ研究シ遂ニ其修道院ノ教師ト爲リ徒弟群集シ聲名大ニ轟ケリ然ルニ三十歳ノ時傳道ヲ爲メ十二人ノ同志者ヲ携ヘ其國ヲ去レリ時ニ紀元五百九十年ナリ斯シテ此人ハ一行者ト共ニ始メテフランスニ至リ其國王ノ依頼ニ由テ其地ニ傳道スル、十二年アイルランドノ修道院ノ如キ者ヲ數個所ニ建設セリ其修道院ノ規則中ニ一ノ特異ナル者アリ即チ人間ノ身体ハ能力等ニ至ル迄都テ主ナル基督ノ賜與シタル者ナレハ種々ノ苦行ヲ爲シ之ヲ疲弱ナラシム可ラスト抑モ此國ニハ從來教師等ノ怠墮ナルカ爲メ未タ教ヲ聞クヲ得サル野民等許多アリケレハコロムバヌスハ常ニ其一行者ト共ニ此等野民ヲ教化シ又教會ノ信徒ト冒稱スル者ヲ勸奨シ教ニ適フヘキ生活ヲ營マシメント爲セシニ信徒等カ之ヲ喜ハサル耳ナラス教師等モ亦之ヲ忌嫌シケレハコロムバヌスハ大ニ其教師等ノ怠墮惡弊ヲ規諫セリ然ルニ國王及

ヒ在廷者大概ハコロムバヌスノ仇讐トナリ國王ハ之カ諫言ヲ容レヌ  
 却テ此一行者ヲ皆其國ヨリ放逐セリ是ニ於テコロムバヌス等ハセル  
 マニニ至リアレマニ州ニテ數年間傳道セシニ教會ハ漸次ニ興隆セシ  
 ト雖此一行ノ傳道者等ハ布教ニ熱心ナルカ爲メ或ハ偶像教ノ堂宇  
 ナ焚燒スル等ノ事ヲ爲シ之カ爲メ常ニ仇讐ノ迫害ニ遭ヒ危難ニ陷ル  
 一モ甚カラサリシカ兵亂ノ起ルニ及ヒ遂ニ又悉ク其國ヨリ放逐セラ  
 レタリ是時ニ際シガルスト云ヘル傳道者ハ會マ疾病ニ罹リ途ニ上ル  
 能ハス暫ク其地ニ殘留シ病ノ癒ルニ及ヒスウイツルランドニ至リ今  
 ノ聖ゴール務ニ於テ修道院ヲ建設セリ却説此修道院ヨリ後來傳道者  
 ヘルウイシア(スウイツルランドノ古名)各地方ニ布教セシ者許多アリ斯  
 シコロムバヌス等ハアレマニ務ヲ放逐セラレシヨクリヤニ至リボッピオ  
 ニ修道院ヲ建設シ終ニ其國ニテ永眠セリ時ニ歲五十六(紀元六百十五

年)此ボッピオ修道院ハ後年ニ至リテ甚ク有名ナル者ト爲レリ抑モ此人  
 ハ一ノ特異ナル性質アリ深ク聖書ヲ愛シ毎日之ヲ研究シ其教義ヲ玩  
 味シ又祈禱ヲ行フ爲メ數時間ヲ費シ或時ハ聖書ヲ携ヘ修道院ヲ出テ  
 靜寂ナル林間ニ至リテ之ヲ研究セシヤアリ

ボニフエスハセルマニノ使徒ト稱セラレシ人ニシテ中古傳道者ノ中  
 ニ於テ最大最美ノ結果ヲ得シ者ナリ抑モ此人ハブリテン人ニシテ其  
 舊名ヲウインフリドト云ヒブリテン教會ノ教育ヲ受ケ年甫メテ四歳  
 ノ時深重沈思ナルヲ以テ時人ノ爲メ稱譽セラレ此頃ヨリ既ニ修道院  
 ニ入ルノ志アリ遂ニ幼少ニシテ修道院ニ入リシカ其信仰及ヒ智慧ノ  
 深淵ナルカ爲メ聲名甚ク高ク成長ノ後其院ノ教師ト爲リ歲三十ニシ  
 テ接手禮ヲ受ケタリ此時徒弟ノ諸方ヨリ來リテ其教ヲ受クルモノ常  
 ニ充滿セシ故ニ永ク此地ニ止リ其務ヲ行ハ、拔群ノ功績ヲ建テ非常



ノ名譽ヲ博スルモ敢テ難キニアラサルニボニフエスハ更ニ之ヲ意ト  
 セス朋友親族ノ諫ヲ斥ク斷然志ヲ決シ傳道ノ爲メゼルマニニ渡航  
 セリ時ニ紀元七百十六年ナリ然ニ其頃ゼルマニニハ國內爭亂起リ道  
 ナ傳フヘキノ機會ヲ得サレハ轉シテイタリヤニ至リ教王ニ謁見シ自  
 ラ嚴ニ之ニ服従スルヲ誓ヘリ是ヲ以テボニフエスハ終身教王ニ服  
 從セシノミナラス其建設セシ教會ヲモ亦同シク服従ナラシメタリ斯  
 シテボニフエスハ其後教王ノ委任狀ヲ得テイタリヤヨリ再ヒゼルマ  
 ニニ往キ道ヲ傳ヘシニ其効大ニ顯ハレゼルマニ人ノ其講義ヲ聞テ感  
 化スルヲ宛モブリテシニ在リシ時ノ如ク僅十五年ノ間ニシテ「バアテ  
 スマ」ヲ受ケル者十萬人ニ超ヘ且此國ノ偶像教ノ堂宇ハ多ク廢頽シ基  
 督教ノ會堂ハ到處ニ建設セラル、ニ至レリ茲ニ「ヘッシア」カカノ或村落ニ  
 古キ一大榭樹アリ土人等之ヲ以テ「トールト」云ヘル雷神ノ神木ナリト

唱ヘ尙之ニ觸犯スレハ何人ニ關ハラス其神忽チ之ヲ擊殺スト信シ敢  
 テ接近スル者アラサリシニボニフエスハ之ヲ聞キ以爲ラク斯クノ如  
 キ妖樹ヲ存在スルトハ基督教ノ弘衍ヲ阻礙セン若カス之ヲ斬伐シ其  
 迷ヲ晴サシハト遂ニ志ヲ決シ自ラ其樹ヲ斬伐セリ其時群集スル異  
 教徒等皆喫驚シ且ボニフエスハ既ニ斬伐シ了レテ敢テ小恙ナカリケ  
 レハ始メテ其神ノ威力ヲキチ開悟シ遂ニ其木ヲ以テ一ノ會堂ヲ建設  
 セリ是ヨリボニフエスハ其他諸邦ニ基督教ヲ播布セシカサキソニハ  
 「ウリアヘッシア」ノ地方ニハ信徒特ニ多ク増殖シ紀元七百三十一年遂ニ  
 「ゼルマニ」ノ大監督ニ任セラレ其權下ヲ分チ數教區ト爲シ區毎ニ監督  
 ナ置キ其職務ヲ擔任セシムル如キ貴重ナル教權ヲ得タリ然レモ其身  
 ハ大概「ブルダ」ノ修道院ニ居リ質素淡泊ニシテ毫モ驕泰ノ色ナク紀元  
 七百五十四年七十五ノ頽齡ニシテ最後ノ傳道旅行ヲ爲セリ蓋這回ノ

旅行ハ自ラ其必ス生テ歸院セサルコト測リ殞衣ヲ携ヘテ途ニ上リ到處ニ道ヲ傳ヘシカ「バプテスマ」ヲ受クル者甚多ク「フリランド」ニ至ル頃其數既ニ數千人ニ及ヘリ斯クテ「ボニフェス」ハ其年ノ六月五日信徒等ニ堅信禮ヲ行ハントテ「フリランド」ノ「ブルダ河」ノ邊ニ在テ其來ルキ族ヲシニ偶像教徒不意ニ起リ其神ノ讐敵ナリト大呼シ之ニ襲撃ス因テ從者等力ヲ竭シ「ボニフェス」ヲ守護セント爲セシニ「ボニフェス」ハ之ヲ止メ云ク主ナル基督ニ頼テ剛健ナルヘシ我ハ今日ヲ族ツコ久矣ト遂ニ暴徒ノ爲メ撲殺セラル、マテ聖書ヲ其頭上ニ捧ケタリ抑モ此人ノ經歷ヲ按スルニ實ニ聖書ヲ信愛シ之ニ據リテ講義ヲ爲シ又始終熱心ニ祈禱ヲ行ヒ凡テ事ヲ執ルニ嚴格深密ナリ蓋是レハ「ボニフェス」カ世人ニ權能ヲ得タル機密ナルヤモ知ルヘカラス且此人ハ前文ニモ記セシ如ク教王ヘノ誓ノ爲メ終身束縛セラレ「ロマ」ヲ以テ現世ナル神

國ノ都府ト信シ其他溺迷セシコトモ勘カラサレモ荷モ教王ノ過失ヲ觀ル時ハ之ヲ諫争セシナリ

〔六〕デンマルク及ヒスウイデン

此ニ國ハ世人ノ歐羅巴北部ト唱ユル者

ニテ其使徒「アノスガルト」云ヘリ抑モ此人ハ「フランス」ノ貴族ノ子ニシテ紀元八百〇二年其地ニ生レ他ノ貴族ノ子弟ト共ニ「コルヘー」ノ修道院ニ入り教育ヲ受ケタリ其頃此修道院ニ「ハラドベルト」一名ハ「パスカソウス」ト云ヘル教師アリ神體變化ノ説ヲ唱道セシヲ以テ世ニ知ラレタリ「フランス」ハ十二歳ノ時其修道院ニ於テ誓ヲ立テ修道者ト爲リ其後サキソニナル「コルウエー」ノ修道院ノ教師ト爲リ傍ラ傳道ヲ爲シタリ却説此人ハ幼少ノ頃ヨリ深ク道ニ熱心シ又其修道院ニ在ル頃屢ハ奇夢ヲ觀タリ即チ一夕夢ニ神ハ赫奕タル光明ヲ發サテ出顯シ「アン」スガルヲ呼テ汝ハ他方ニ往キ殉教者ノ冕ヲ以テ我ニ還歸セヨト云ヒ

又一夢ニ祈禱ヲ捧ケ主ヨ我ニ何等ノ事ヲ爲サセ給フヤト尋テシニ聲アリ偶像教徒ニ福音ヲ傳ヘヨト告タリシ如キ等是ナリ因テアノスガ  
ルハ終身之ヲ記臆シ自ラ傳道者ト爲リ危難死亡ヲ顧ミス偶像教ニ沉溺セル他邦人ノ中ニ福音ヲ傳ヘント決心セリ時ニデンマルクノ國王  
ハロルド其國ヲ放逐セラレ(紀元八百廿八年)シヤレマン大帝ノ嗣子フ  
ラノス王ルキニ依ラント欲シ其家族及ヒ臣僚等ヲ携ヘ百艘ノ小船ニ  
テライン河ヲ溯リルキニ而會シ其救援ヲ需メシニルキ王ハハロルド  
ニ謂テ陛下尙基督教ヲ信奉セハ我必ス汝ヲ救援スヘシト云ヘリ因テ  
ハロルド王ハ遂ニ其語ニ從ヒ「バアテスマ」ヲ受ケタリルキ王ハ是ニ於  
テ傳道者ヲデンマルクニ派遣セシメントテコルウエーノ修道院長ト之  
ヲ協議セシニ院長ハアノスガルヲ舉ケテ其任ニ適當スルモノナラン  
ト答ヘタリ然レモ院長ハ其後歐羅巴北部ニハ當時海賊ノ頻リニ徘徊

シ行客ヲ困シムルト聞キアノスガルニ出足セサルヲ勸メタリ然レ  
モアノスガルハ大ニ其宿志ノ達スヘキ機會ヲ得タルヲ喜ヒ毫モ躊躇  
スル色ナシ益ス聖書ヲ研究シ又屢ハ祈禱ヲ爲シ一人ノ同志者ヲ携ヘ  
デンマルクニ至レリ此時アノスガルハ年二十五ナリ既ニシテアノス  
ガルハ此國ニ於テ教師ヲ養成スル爲メ其シレスウイグ勃ニ一ノ學校  
ヲ建設シ許多ノ子弟ヲ購求シテ其同行者ト俱ニ之ヲ教授セリ蓋此國  
ニハ其頃父母自ラ其子弟ヲ販賣シテ奴隸ト爲ス風習アリシニ由テナ  
リ然ルニ同行者ハ許干モナクシテ眠ニ就キ其後二年ヲ經テハロルド  
王モ亦再ヒ其國ヲ放逐セラレケレハ學校ハ遂ニ廢止スルニ至レリ時  
ニズウイデン等ニハ外國人ニ通商ヲ許スノ說アリケレハアノスガル  
ハ又數人ノ同行者ヲ携ヘズウイデンニ渡航セシニ(紀元八百廿九年)許  
多ノ海賊等俄ニ其船ニ襲來シ其荷物等ヲ掠奪シ船中ニアリシ者ヲス

ウイデンノ海岸ニ捐テ去レリ因テ一行者等ハ茫然トシテ爲ス所ヲ知ラス或ヒハ本國ニ歸ランコト勸ムル者アリト雖モアンスガルハ些少モ遂巡スルノ色ナク其地ヨリ直ニ陸行シテビルカノ塞砦ニ至リ國王ニ謁見セシニ王ハ厚シ之ヲ待遇シ其國內ニ於テ講義ヲ爲シ「パアテスマ」ヲ施スコトヲ許可シタルハ大凡一年半傳道ヲ爲シ僅少ノ改心者ニ「パアテスマ」ヲ施シ後ニ渡來スヘキ傳道者ノ爲メ其準備ヲ整頓シ紀元八百三十一年フランスニ歸レリ其後アンスガルハロマ教王ノ命ニ由テセルマニノ西北ナルハムブルグノ監督ト爲リ歐羅巴北部ヲ以テ其傳道區域ト定メラレケレハ其地ニ廣大美麗ナル會堂及ヒ修道院ヲ建設シ之ニ居住セリ然ルニ其頃歐羅巴北部ニハ一般ニ基督教ニ抵抗シ其會堂及ヒ修道院ヲ破壊スル風起リハムブルグノ會堂並ニ修道院ニモ亦火ヲ縱ナタル惡徒アリ其他到處ニ迫害ノ起リケレハ敢テスウイデ

ン等ノ地ニ至リ道ヲ傳ヘント欲スル者ナシ因テアンスガルハ自ラ其迫害者ノ爲メ或ヒハ殺害セラレノコトヲ察知シタルモ志ヲ決シ再ヒスウイデンニ至リ其國王オラフニ依リ傳道免許狀ヲ願ヘリ是ニ於テ國王ハ其事ヲ會議ニ附シテ討議セシメケルニアンスガルモ亦斷食祈禱シテ其議席ニ出テ毅然トシテ其請願ノ趣旨ヲ開陳シタリシカ其始メハ議論頗ル激烈ニ互リケレモ後ニ一老議員ノ我ハ國人ノ危難或ヒハ破船ノ時ニ於テ多ク基督ニ祈禱シ其神助ヲ得タル者アルヲ確信セリト演説セシニ由テ議員等ハ遂ニ基督教ノ傳播ヲ妨碍セサルコトニ議決シケレハアンスガルハ此國ニ足ヲ留メ傳道スルコト三年間爲ニ教會モ稍ヤ盛大ニ趣ケリ由テアンスガルハ又再ヒセルマニニ歸リ(紀元八百六十五年)後暫クシテ疾ニ罹ルコト四個月其將ニ永眠ニ就カントスルニ及ヒ父ヨ余レ我カ靈魂ヲ汝ノ掌中ニ托スト云ヒ遂ニ瞑目セリ按スル

ニアノスガルハ當時ハ有名ナル傳道者ノ如ク聖書ヲ信愛シ祈禱ヲ務  
メ且其品行モ非常ニ謙遜ナルヲ以テ世ニ高名ナリ

〔七〕ゴス人 此種族ハ黒海ノ北即チ今ノロシアノ南部ニ居住セシ者ニ

テ第二三世紀頃嘗テ小アジアギリシヤヲ侵略シ基督信徒ヲ囚ヘ奴隸  
トセシニ由テ此等信徒ヨリ教ヲ聞キシコナキニアラサレトモ特別ニ基  
督教ヲ受クルニ至リタルハ全クウルファイラスノ勳功ナリ此人ハ第四  
世紀ノ初頃ゴスニ生ラレトモ其祖先ハ原ト羅馬人ニシテ古昔此國人  
ノ爲メ掠略シテ奴隸ト爲サレタル者ナリ此人成長ノ後傳道者ト爲リ  
西ゴス人ノ中ニ傳道シ其人民ヲシテ聖書ヲ研究セシムル爲メ新クニ  
一種ノ文字ヲ制定シ之ヲ以テ聖書ヲ翻譯セリ然レトモ此人種ハ資性慄  
悍ニシテ常ニ戰鬥ヲ好ムニ由テ特ニ列王紀略ヲ省キ之ヲ翻譯セサリ  
シナリ蓋此譯本ハ最モ良巧ナル者ニテ今日マテ存在セリ却説此人ハ

久シク西ゴスニ於テ傳道セシカ後又東ゴスニ至リ傳道シタルニ由リ  
西ゴスノ酋長ハ深ク嫉妬ノ念ヲ懷キ遂ニ命令ヲ下シテ其地ノ信徒ヲ  
凌虐シ多ク之ヲ殺害セリ是ヲ以テウルファイラスハ其信徒等ヲ憐ミ之  
ヲ携ヘテダニユフ河ヲ渡リ羅馬國ニ遁逃セシニコノスタントン大帝  
厚ク此等ノ人ヲ保護シ且ウルファイラスカ此舉ハ宛モ在昔モ一セカエ  
ジプト人ヲ嚮導セシ事ニ彷彿スルニ因テ此人ヲ副稱シテモ一セト云  
ヘリ蓋ウルファイラスハ斯ノ如ク教會ノ爲メ苦心盡力セシ者ナレトモ惜  
哉其頃流行セシ「アリアン」派ノ異端ヲ信シ其教義ニ由リ傳道セリ然レ  
トモ基督敎ノゴス人中ニ於ケル勢力ハ鮮少ナラサルナリ即チ此種族ノ  
第五世紀頃羅馬ギリシヤヲ侵略セシ時ニ方リ其軍長アラリクハ羅馬  
ノ基督信徒カ其侵略ヲ避ケテ多ク會堂ノ中ニ逃避スルヲ觀テ異敎ノ  
人民ニハ掠奪ヲ擅ニシタレトモ基督信徒及ヒ其貨財等ハ毫モ掠奪セサ

リシ一例ヲ以テ知ルヘキナリ

〔八〕ベルシア 此國ニハ前文ニ記載セシ如ク使徒トマスカ管テ傳道セシ古傳ニアリト雖モ基督教ノ實ニ此國ニ傳播セシハ第二世紀頃ヲ始メトス後第四世紀頃ニ至テ教會ハ倍ス盛大ニ趣キ信徒ノ員モ甚カラス監督ノ數モ増加セシニ拜火教ノ祭司等ハ深ク之ヲ嫉惡シ且國王モ亦之ヲ以テ羅馬ノ基督信徒ト聯絡スル者ノ如ク疑ヒ信徒ヲ苛遇虐待シケレハ信徒等ハ常ニ痛酷ナル困難ニ沉落セリ却說此國ハ古昔ヨリ屢ハ羅馬國ト接戰シタレモ猶ホ未タ依然トシテ獨立セシニコノスタンテノ大帝其位ニ登ルニ及ヒ書簡ヲ此國王ニ贈リ基督信徒ヲ保護スヘキヲ勸メタリ然レモ其頃四十年間許ハ信徒大ニ迫害ヲ受ケ殉教スル者尠カラス第六世紀ニモ亦迫害ノ爲メ殉教セシ者許多アリ

〔九〕アルメニア 此國ハ黑海トカスピアン海トノ南ニ在リ第四世紀頃迄ハ管テ傳道ヲ試タル者ナキニアラサレモ全ク水泡ニ屬シ其効ヲ奏スル能ハカリシニ其頃クレオリナル者此國ノ使徒ト爲リ傳道シテ國人等ノ爲メオトステス(光ノ先導者ノ意)ト副稱セラレタリ蓋此人ノ經歷ハ或古傳ニ其盡力ニ由テ國王テリダテス及ヒ其國民モ多ク基督教ヲ信セシヲ僅ニ記載セシ耳ニテ他ニ詳細ナル者ナシ然レモ此國民ハ今日ニ至ルマテ深ク此人ヲ敬贊シテ忘ルハコナク且此國ニテ教師ニ接手續ヲ行フ時ハ此人ノ淵衷セル死手ヲ以テ之ヲ行フト云ヘリ其後第五世紀ニ方リ國王ノ書記官メスロブナル者大ニ基督教ノ傳播ニ盡力セリ此メスロブナル人ハ自ラ一種ノ文字ヲ制定シ之ヲ以テスリヤ語ノ聖書ヲ其土音ニ重譯セシ者ナリ却說古傳ニ據ルニ此國ハ蓋諸基督教國中ニ於テ最初ニ教國ト爲リシ者ナラン

〔十〕支那 泰西ノ古傳ニ據ルニ第二世紀ニ方リ既ニ傳道者ハ此國ニ入

リシ如クナシトモ基督教ノ實ニ傳播セシヨハ第七八世紀頃「テストリア」  
 ノ「派」傳道者カ布教セシヲ以テ始トス抑モ「テストリア」派ハ第六世  
 紀ニ起リ其派祖ノ名ヲ以テ派名トシ大概スリヤ地方ニ行ハレシカ其  
 後三百年ノ間廣ク其教ヲ諸國ニ弘布セシ頃支那ニモ亦許多ノ傳道者  
 ナリ派出セリ此支那派出傳道者ニテ有名ナル者ヲ「スプガル、イエスト」云  
 ヘリ此等ノ傳道者ハ會堂及ヒ修道院ヲ陝西省西安府ニ建設シ盛ニ其  
 近傍諸邦ニ傳道シケレモ其他僻遠ノ地ニ至リテハ弘行セシヤ否ヤ證  
 迹アラサルナリ其後第十三世紀ニ有名ナル「イタリヤノマルコ、ボロハ  
 久シク此國ニ遊歴セシカ其日記中ニ多ク其内地基督教ノ形狀ヲ記セ  
 シ者アリ然レモ古代基督教ノ此國ニ傳播セシ證據ノ今日マテ存在ス  
 ル者ハ唯一ノ景教碑文アル耳ナリ此碑文ニハ漢文ヲ以テ基督教ノ概  
 略ヲ記シ又其下ニスリヤ文ヲ以テ傳道者ノ姓名及ヒ其建設ノ年紀(紀

元七百八十一年)ヲ彫刻セリ(天道湖原中卷附録ヲ參觀スヘシ)

〔十一〕タルタル人(韃靼)

此種族中ニモ亦「テストリア」派ノ傳道者來リテ基督教ヲ弘布シ第十  
 世紀頃其酋長ハ「パテスマ」ヲ受ケ「プロステル、シヨン」(「プロステルト」ハ  
 長老ノ意)ト稱シ其後歷代ノ酋長等久シク其名ヲ襲用シ教會モ繼續セ  
 シカゼンギス、カウソ(成吉思汗)カ此地ヲ侵略スルニ及ヒテ遂ニ衰頽ニ  
 歸セリ

〔十二〕アラビヤ及ヒサラセン人

アラビヤニハ古昔ヨリ傳道者ノ布教  
 セント盡力セシ者尠カラスト雖モ遂ニ其功ヲ奏スル能ハカリシカ其  
 後回々教ノ起ルニ及ヒ其教徒ナルアラビヤ人等ハ其他ノ回々教徒ト  
 一致シテ「サラセン」人ト稱シ第七世紀頃北亞弗利加ニ航シ其國ニ割據  
 シ其地ノ教會ヲ滅却シ極メテ兇惡ナル者ト爲レリ然ルニ第十三世紀

頃此人種ヲ改心セシムル爲メ一ノ特異ナル作勳ヲ爲セシ者アリ即チ  
 レイムンド、ロル是ナリ此人ハ原トシメインノ東地中海ノバリアリク  
 島ノ人ニシテ歳三十マテハ其國ノ王家ニ事ヘ侍臣ト爲リ嗣後ニシテ  
 世事ニ通シ又戀歌ヲ以テ甚タ有名ナル者ナリ然ルニ一夜戀歌ヲ起草  
 スルニ方テ忽チ基督ノ十字架ニ釘ラレタル幻像朦朧トシテ其前ニ現  
 出シ筆ヲ擱ケハ乍ナ消ヘ筆ヲ把レハ又乍ナ現ハレ斯ノ如クナルヲ數  
 回ナルニ由テレイムンド、ロル深ク感激シ此後基督ニ服従スル志ヲ一  
 決スルマテハ毫モ其心ヲ安スル能ハサリシカ遂ニ堅固ナル目的ヲ立  
 テ且智能モ亦開發シ回々教徒ノ中ニ傳道セシトノ大望ヲ起シ其家財  
 ナ賣リ其金ヲ以テサラセン人ノ奴隸一人ヲ買ヒ之ニ就テアラビヤ語  
 ナ學ヒ又諸國政府ノ助援ヲ受ケバリアリク島ニ一ノ學校ヲ建設シフ  
 ラノスノ修道者十三人ヲ聘シアラビヤ人ヲ教授セシメ又自ラ基督教

ノ卓越セル事項ヲ考究シ普通學術ノ論法ニ倣ヒ一書ヲ著ハシ以テ世  
 ニ公ニセリ其論說ハアラビヤ語ナレトモ總テフランス語ニ參考シテ論  
 セシ者ニテ其中ニハ珍奇ナル說モ尠カラス特ニ三位一体ノ說ノ如キ  
 ハ最モ著顯ナル者ナリ其概略ニ云ク基督信徒ノ信スル神ハ回々教ノ  
 アルラ神ヨリ卓越ナル者ナリ夫レ神ハ無限慈愛ナル者ナレハ其慈愛  
 ナ満足セシムル爲メ無限慈愛ナル者存立セカルヘカラス即チ子はナ  
 リ又此父子ノ間ニ存スル所ノ慈愛ヲ完全ナラシムル爲メ父子共ニ慈  
 愛スル所ノ一物アラサルヲ得ス即チ聖靈是ナリ抑モ此三位一体ハ猶  
 ホ三角形ノ三線互ニ相聯接スルカ如シ又例ハ父ト母ノ愛ヲ完全ナラ  
 シムル爲メ子アルカ如シ云々却說レイムンド、ロルハ傳道ノ爲メ三回  
 亞弗利加ニ至リシカ迫害ニ遇フ一甚シク第二回マテハ奇異ニ其難ヲ  
 免レタリト雖モ第三回ニ至リ終ニ暴徒ノ爲メ磔殺セラレタリ是ヲ以



テ其地ニ基督教ノ弘衍セシヤ否ヤハ明瞭ナラサルナリ  
 因ニ云クイングラントノ歴史家ギッボン(今ヲ距ル百年許以前ニ出タ  
 ル不信者)ハ基督教ノ迅速ニ傳播セシ理由ヲ論究セシト即チ次ノ如  
 シ(一)基督信徒ノ嚴毅ナル熱心(二)天國地獄ノ教義(三)假作ナル奇蹟(四)  
 聖且嚴ナル德義(五)教會ノ一致及ヒ懲戒法  
 抑モギッボンノ論ニテハ唯世上ニ發顯セル教會ノ作動ヲ以テ社會ニ  
 勢力ヲ得タル原因ト爲レトモ教會ノ興起セシ理由及ヒ信徒ニ特別ナ  
 ル仁愛心アルトニ至テハ毫モ之ヲ論及セサリシ蓋是レハ全ク此人  
 ノ觀察ノ足ラサル所ナラン夫レ基督信徒ノ異教徒ニ超絶シテ特別  
 ナル仁愛心アルトハ異教徒ノ歴史家ト雖モ能ク知ル所ナリ又其教  
 會ノ興隆セシ理由ハ全ク福音ノ教義、人類ノ希望ヲ満足セシムルニ  
 因リリ倘其教義ノ之ヲ満足セシムルニ足ラサル者ナラハ設令ギッボ

ンカ云フ如キ理由アリトモ惡ク其功ヲ奏スルコトヲ得ンヤ且人能ク  
 此教ハ卑賤ニシテ聲名ナキ者ニ由テ起リ毫モ措紳大家ノ力ヲ假ラ  
 サル耳ナラス其残酷ナル迫害等ニ遭遇シタレトモ更ニ萎靡衰頽スル  
 コトナク却テ斯クノ如ク迅速ニ傳播セシ所以ヲ熟考スレハ實ニ此教  
 ハ人類ノ力ニ由ル耳ナラス真正ニ人類ニ超過スル所入者ノ援助ニ  
 由テ興隆セシコトハ明瞭ナラン

第二章 迫害

夫レ教會ハ其内外ニ起リタル異端迫害等ノ爲メ種々ノ傷害ヲ受ケシ  
 一ハ本書中處々ニ散見スルモノナレトモ其詳細ナル一ハ此章及ヒ  
 第六七章ニ記載セリ却説其迫害ノ起リタル理由ハ即チ次ノ如シ(一)ユ  
 ダヤ人ノ舊約聖書ヲ固守スル一(二)羅馬政府カ傲慢ニシテ世事ニ汲々  
 シ教法心ノ稀薄ナル一(三)回々教并ニ天主教徒ノ自義心アル一是ナリ

第一節 ユダヤ人ヨリ受ケタル迫害及ヒ其人ト共ニ受ケ  
 タル迫害

ユダヤ人ノ迫害ハ基督昇天後直ニ起リ彼ノ使徒行傳中ニ記載セシ如  
 シユダヤ人等ハ使徒ペテロヨハナヲ逮捕シテ獄舎ニ繋囚シ使徒ヤコ  
 ブ及ヒステパノヲ殺害シ其後又再ヒペテロヲ逮捕シ將ニ之ヲ斬害セ  
 ント謀ル者アリ(使四七、十二章)又基督ノ兄弟ヤコブハ神殿ノ廻廊ノ棟

上ヨリ墜サレテ死シエルサレム第二ノ監督シメオンハ殺害ニ逢ヒ其  
 後スムルナノ監督ボリカルプハ或ユダヤ人ノ爲メ殆ント焚殺セラレ  
 ント爲リ其他羅馬諸邦ニテ基督信徒ヲ讒訴スル者アリ或ヒハ擾亂ヲ  
 起シテ信徒ヲ迫害且殉教セシムル者アリ又四方ニ奔走シテ福音及ヒ  
 其教義并ニ信徒ノ一ヲ讒誣スル人モ無キニアラス特ニテベリヤ及ヒ  
 ハビロンニ在ルユダヤ教神學校ノ生徒ニ基督教ヲ憎嫉スヘキ一ヲ教  
 唆セシ者アリ又ユダヤ人ノ最モ尊信スル彼ノ「タルムド」書ニハユダヤ  
 人ノ基督教ニ轉移スル者ハ最モ恐怖スヘキ詛ヲ受ル一ヲ記載セリ  
 紀元七十年羅馬ヨリエルサレムヲ攻陥セシ後ハユダヤ人ノ基督信徒  
 ヲ迫害スル一ハ大ニ衰頽シタレヒ羅馬人ハユダヤ人ヲ凌虐スルニ方  
 リ往々基督信徒ヲ同一視シ共ニ之ヲ凌虐スル一アリ例ヘハ先是シラ  
 ウデナカイザル帝カ紀元五十二年ユダヤ人ヲ羅馬ヨリ驅逐スルニ方

リ基督信徒ヲモ亦共ニ驅逐セシカ如キ是ナリ  
 教會中ニ於テユダヤ教ノ教義ヲ篤信スル者等ハ種々ノ異説ヲ唱道シ  
 別ニ若干ノ教派ヲ起シ教會ハ之カ爲メ實ニ非常ノ傷害ヲ受ケタリ其  
 教派中ニテ最モ勢力アル者ハ「エビオン」及ヒ「ナザン」ノ兩派トス此「エビ  
 オン」派ト稱スル者ハ其派祖ノ名ヲ以テ派名トシ此派ニテハ基督ヲ以  
 テ眞正ニヨセフノ子ナリト云ヒ基督ノ神性アルヲ否ミタリ又「ナザ  
 ン」派ニテハモーセカ建テタル一切ノ律法禮式ヲ以テ基督信徒ノ嚴重  
 ニ遵奉スヘキ者ナリト教ヘタリ此兩派ノ「」ニ就テハ猶ホ委シク第六  
 章中ニ記載セリ

第二節 ロマ政府ヨリ受ケタル迫害

一 第一世紀 此世紀ニ起リタル迫害ハ三次ニシテ即チ次ノ如シ(一)  
 ニ「」帝ノ爲メ紀元六十四年ヨリ凡ソ四年間(二)「」帝ノ爲メ紀

元九十五年ヨリ凡ソ一年間

(一)「」帝 此帝ノ時ニ起リタル迫害ノ顛末ヲ釋スルニ初メ「」都  
 府ハ其市街十四區アリ繁華熱鬧諸國ニ冠絶セシカ此頃一大火災起リ  
 凡ソ六晝夜延焼シ其三區ハ全ソ焦土ト爲リ七區ハ殆ント焼滅ニ歸シ  
 實ニ非常ノ大火ナリシニ「」人等ハ之ヲ以テ「」帝ノ放火セシ者ナ  
 リト唱道シケレハ帝ハ之ヲ以テ基督信徒ノ爲ス所ナリト誣ヒ在府ノ  
 信徒ヲ逮捕シ大概十字架ニ釘ケテ之ヲ殺害シ其他或ヒハ獸皮ニ包藏  
 シ兇犬ニ噬噉セシムル等種々殘慘ナル刑ニ行ヒ甚シキニ至テハ帝嘗  
 テ夜宴ノ際信徒ノ身体ニ溼背ヲ塗リ禁苑ノ柱ニ綁着シ之ヲ燒殺シ以  
 テ松明ニ代用セシ「」アリ其迫害ノ爲メ殉教セシ者ノ數ハ今日ヨリ測  
 知スヘカラスト雖モ最モ尠カラサル者ナラン然ルニ歴史家「」トス  
 ハ此迫害ヲ評シ基督信徒ハ人類ノ仇讐ナルヲ以テ斯クノ如キ殘刑ニ

處セラレタリト云ヘリ蓋此時ノ迫害ハ多ク羅馬近傍ノミニ行ハレタル者ト見エ其他諸務ニ至テハ其行ハレタル証迹明ナラザルナリ且ユダヤ人等モ亦此時ノ迫害ヲ免レタリ是レ恐クハ常ニユダヤ人ヲ愛顧シタル當時ノ皇后ノ保護ニ由テナラン然レモ使徒パウロペテロハ此頃ノ迫害ニ於テ殺害セラレタリ斯クテニ羅馬帝ハ其後教會ヲ撲滅セシメテ衆ニ誇ラントテ馬車ニ乘シ凱旋ノ式ヲ以テ羅馬府内ヲ行軍セシメテアリ此等ノ事ニ由テ推測スルニ其頃教會ハ既ニ羅馬ニ盛大ナリシ者ナラン

〔二〕ドミシアン帝 初メ此帝ノ代ニ方リテ基督ハ將ニ此世ヲ占有セシ又基督ノ親族某氏ハ將ニ叛亂ヲ起シ羅馬ヲ侵奪セントノ兩説アリケレハドミシアン帝ハ之ヲ聞キ人ヲバレステンニ遣ハシ基督ノ兄弟エダノ孫二人ヲ逮捕シ羅馬ニ於テ之ヲ鞫問セシヨ二人共ニ平凡無學ナ

ル貧民ニシテ決シテ叛亂ヲ謀ルヘキ者ニアラス且此等ノ者ヨリ基督ノ所謂王國ナル者ハ此世ノ國ナラサルヲ上奏シケレハ二人共ニ放免シテパレスタンニ還サレタリ然レモ迫害ハ又此時ヨリ起リ政府ニテハ基督信徒ヲ以テ罪人ト認ムルヲ布告シ基督信徒ヲ以テ或ヒハ國疆ヨリ放逐シ或ヒハ死罪ニ處シ其貨財ヲ沒收スルヲ決セラレタリ彼ノ使徒ヨハナカバトモス島ニ流竄セラレオ山ノテオスシオカ殺害セラレタルモ此時ナリ却説此時ドミシアン帝ノ從兄執政フラウウスケレメノスナル者モ亦基督ヲ信仰スルニ由テ帝ノ爲メ殺害セラレタリ是レニ由テ推測スルニ當時基督教ハ唯平民ノ間ニ弘衍セシ耳ナラス既ニ指紳ノ間ニマテ波及セシ者ナラン

二 第二世紀 此世紀ニ起リタル數次ノ迫害中ニ最モ著明ナル者ハ三次アリ即チ次ノ如シ(一)タレシアン帝ノ爲メ紀元百〇六年ヨリ數年

間(二)マルクス、アウリ、ウス帝ノ爲メ紀元百九十九年ヨリ凡ソ五年間

(三)セプティムス、セウルス帝ノ爲メ紀元百九十九年ヨリ凡ソ五年間

(一)タレシアン帝、此帝ノ時小アシヤナルビテニア竊ノ大守小ピリニ

ハ其領内ニ基督信徒甚ク多ク増殖セシニ偶像教ノ者等ハ深ク之ヲ憎

嫉スルヲ以テ書簡ヲ上マツリ其所置ノ方法ヲ尋問セシニタレシアン

帝之ニ令シテ官ヨリ特ニ基督信徒ヲ搜索スルニハ及ハサレモ尙其告

訴セラル、ニ方テ信徒カ國神ヲ拜セサル者アラハ之ヲ罪科ニ處スヘ

シト云ヒ且其頃秘密集會禁止ノ布告ヲ頒行シケレハ迫害ハ又盛ニロ

マ各州ニ起リ基督信徒ハ公然集會スルヲ得サルノミナラス此布告ノ

爲メ大ニ困却シ羅馬ノ首府ニ居ル信徒等ハ此頃ヨリ「カタコム」中ニ

隠遁セリ

抑モ此「カタコム」ナル者ハ羅馬ノ衢街及ヒ其近傍ニ在ル洞穴ニシテ

原トハ建築ニ用ユル石財ヲ採掘セシ擴洞ナリト雖モ迫害ノ起リシ

以還基督信徒ハ多ク此中ニ來リテ其難ヲ脱シ第二三世紀迫害ノ最

モ烈シク且屢ニ起ルニ及ヒ信徒ノ此中ニ隱匿スル者益ス多ク爲ニ

其洞穴ヲ擴拓シ門戸ヲ構ヘ集會場ヲ設ケ以テ其中ニ棲息シ又多ク

就眠者ノ爲メ墳墓ヲ作ルニ至レリ或說ニハ此洞穴ノ長サヲ悉皆計

算スルニ凡ソ二百里アリ信徒ノ洞中ニ於テ稍々安逸ニ生活スル者

モ尠カラサリシト云ヘリ然レモ其頃軍兵等往々洞穴ニ突入シ信徒

ヲ殺害セシニ由テ有名ナル信徒モ之カ爲メ殉教シタリ却說此洞穴

中ニハ今日ニ至ルマテ銘文等ヲ彫刻セシ墳墓ノ猶ホ存在スル者アリ

リ此等ヲ觀ルニ當時基督信徒ノ信仰ヲ測知スルニ足ル者アリ

タレシアン帝ノ時代ニハ基督信徒ヲ拷問スルニ種々ノ苛酷ナル方式

ヲ用キ高貴ナル婦人ト雖モ其苛責ヲ脱スル能ハス且此時ノ迫害ハ廣

シロマ<sup>ニ</sup>全國<sup>ニ</sup>行ハレ或地方<sup>ニ</sup>テハ之カ爲メ擾亂ヲ惹起セシ<sup>テ</sup>モ無キ  
 ニアラヌ又ロマノ人民等ハ偶像教ノ祭司<sup>ニ</sup>教唆セラレ祭典又演劇ノ  
 日<sup>ニ</sup>方リテ基督信徒ヲ觀レハ其基督信徒ハ獅子<sup>ニ</sup>授與スヘシト嘲罵  
 シ種々ノ迫害ヲ爲セリ此時殉教セシ者ノ中<sup>ニ</sup>ハ有名ナル信徒モ少カ  
 ラサレ共就中基督ノ親戚ナルエルサレムノ監督シモンハ百歳ノ高齡  
 ニシテ迫害者ノ爲メ十字架<sup>ニ</sup>釘殺セラレアンテオケノ監督イグナチシ  
 ウスハロマ<sup>ニ</sup>テ猛獸<sup>ニ</sup>噬殺セシメラレタリ然ルニ其後紀元百十七年  
 アデリアン帝ノ時凡テ罪科ヲ定ムルニハ必ス公平ノ裁判<sup>ニ</sup>據ルヲ要  
 スト云フ布告出ルニ及ヒ信徒ハ暫ラシ迫害者ノ殺戮ヲ免レタリ  
 (二)マルクス、アウリ、ウス帝 此帝ハストイシ<sup>ニ</sup>派ノ折學ヲ修メ世<sup>ニ</sup>哲  
 學者ト稱セラレタル者ニテ其志原ト他ノ學派及ヒ教法ヲ傷害セント  
 欲スル者ニアラサレモ其頃エテオビヤ地方ヨリフランス地方<sup>ニ</sup>方リ

疫疾大ニ流行シ又ロマ<sup>ニ</sup>ハ處々<sup>ニ</sup>於テ屢ハ大地震大火災アリ目ロマ  
 ノ府内ヲ貫流セルライベ<sup>ル</sup>河<sup>ニ</sup>ハ洪水漲溢セシニ國民等ハ此等ノ災  
 害ヲ以テ悉ク基督信徒<sup>ニ</sup>歸シ増殖セル基督信徒ハ人類ノ仇讐ナルカ  
 故<sup>ニ</sup>神ノ寵怒セシ者ナリト云ヒ大ニ喧躁シケレハマルシス、アウリ、  
 ウス帝ハ國民等<sup>ニ</sup>悖フ能ハス遂<sup>ニ</sup>布告ヲ出シ裁判官<sup>ニ</sup>拷問ヲ以テ基  
 督信徒ヲ白狀セシムル<sup>ヲ</sup>許セリ是<sup>ニ</sup>於テ又迫害起リ小アジアヨリ  
 漸次<sup>ニ</sup>ロマ<sup>ニ</sup>東部諸州<sup>ニ</sup>波及シ多ク殺害セラレシカ東部<sup>ニ</sup>テ最モ有名  
 ナル殉教者ハスムルナノ監督ポリカリプロマニテハシヨステン、マル  
 テルナリ却說此時スムルナノ大守ハ敢テポリカリプロヲ殺スノ意アラ  
 サル<sup>ニ</sup>由テ之<sup>ニ</sup>勸メ其基督教ヲ信奉スル者ニアラサル<sup>ヲ</sup>答ヘシメ  
 ント爲セシニポリカリプロハ肯テ之ヲ聽カズ我ハ八十六年間主<sup>ニ</sup>事ヘ  
 唯恩惠ノミヲ受ケタル者ナレハ此老邁<sup>ニ</sup>及ヒ今更之ヲ棄ル能ハスト

答へ遂ニ殺害セラレタリ小アシヤ人ノ古傳ニ據ルニボリカルプハ既ニ殺害セラレ、ニ方リ焚殺ノ火ハ焰々トシテ其身邊ニ燃揚スレモ敢テ其体ニ及ハサリケレハ獄卒遂ニ槍ヲ揮テボリカルプヲ刺倒シ之ヲ殉教セシメシニ火ハ其流血ノ爲メ消ヘタリト又シヨステン、マルテルハ迫害者ノ爲メ逮捕シテ鞭撻セラレ、ニ方リ我ハ主ナル基督ト俱ニ苦ヲ受クルハ是ノ最モ願フ所ナリト云ヒ遂ニ亦殺害セラレタリ其後紀元百七十七年エールニ於テ迫害大ニ起リリヨーンウイエンノ教會ハ之カ爲メ殆ント滅亡スルニ至レリ此時リヨーンノ辰初ノ監督ボルタイヌスハ九十ノ高齡ヲ以テ裁判所ニ於テ殘酷ナル拷問ヲ受ケシ後闇室ニ下サレ其翌日遂ニ死去セリ其外慘酷ナル困苦ヲ受ケ殉教セシ者抄カラサレモ就中愍然ナル者ハ奴隸フランデナ婦人及ヒ其弟ナリ初メ此婦人ハ其弟ノ年甫メテ十五ナル者ト俱ニ種々ノ拷問ヲ受ケ其弟

ハ數日ニシテ遂ニ死亡セシカフランダナモ亦其後網ニ捲キ兇猛ナル巨牛ノ爲メ數回其角ニテ地ニ輪轉セラレテ死去セリ然ルニ迫害者等ハ基督信徒復活ノ説ヲ無ニセンカ爲メ又此二人ノ死骸ヲ焚燒シ其灰燼ヲ以テロイン河中ニ棄テタリ却説其頃基督教ヲ憎嫉スル者ハロマ帝國諸州ニ於テ又種々ノ醜惡ナル讒言ヲ流布セシメタリ其重要ナル者ヲ舉レハ即チ次ノ如シ(一)信徒ハ孩兒ノ肉ヲ啗食スル、是レ恐クハ晚餐ノ事ヲ誣ユル者ナラン(二)信徒ハ其親戚ト奸淫スル、是レ恐クハ信徒互ニ兄弟姉妹ト稱スルヨリ起リタル誣説ナラン(三)人類ノ仇讐、是レ即チ基督教ニテ原罪ノ説ヲ唱道シ又異教徒ヲ嫌忌スルニ由テ起リタル者ナラン(四)不信仰、是レ信徒ハ有形ノ神ヲ拜禮セサルニ由テナリ此頃哲學者等モ亦大ニ基督教ヲ駁撃セシカ就中セルス、カ如キハ其最モ有名ナル者ナリ又ルシアンハ諷語ヲ以テ基督教ヲ嘲弄セリ且其

頃大ニ勢力ヲ得タル所ノ彼ノ「ノスタッ」派ノ哲學者ノ爲ニハ非常ノ傷害ヲ蒙ルリケレハ基督信徒モ亦其辨明書ヲ著述シテ此等ノ説ヲ反駁シ且基督教ノ教義ト其尊貴トヲ記載シテ世ニ公ニセリ蓋此等辨明書ノ今日マテ遺存スル者ハ「ジョステン、マルテル、アテナゴラス、テシアン」ノ著書ノミナリ

〔三〕セプテムス、セウイルス帝 此帝ノ爲メ起リタル迫害ハ盛ニエシプロナルアレキサンデリアニ行ハレ信徒ハ種々ノ方式ヲ以テ殺サレタルニハ大概火ト劔トヲ以テ殺サレタリ却説其殉教者中ニテ有名ナル者ハ彼ノオリゼンノ父リオニダス是ナリ

三 第三世紀 此世紀ノ迫害ハ三次ニシテ即チ次ノ如シ(一)マキシムス帝ノ爲メ紀元二百卅五年ヨリ凡ソ三年間(二)デシウス、テレギアン帝及ヒガルス帝ノ爲メ紀元二百五十年ヨリ凡ソ三年間(三)ウエリオリアン

帝ノ爲メ紀元二百五十八年ヨリ凡ソ三年間 此等諸帝ノ迫害ハ大概相尋ヰテ起リタル者ナレトモテシウス、テレギアン帝ノ爲メ起リタル迫害ハ最モ激烈ナルニ由テ特ニ其激烈ナルトノミヲ記載スヘシ初メデシウス、テレギアン帝ハ布告ヲ出シ其國民ニ必ス國神ニ敬事セシメ若シ此法令ヲ違奉セサル者アレハ死刑ニ處セシ故ニ迫害ハ恰モ颶風ノ颺起スル如ク一時ニ羅馬全國ニ行ケレハ信徒ハ普通歴史中ニモ記載アル如ク其迫害ノ激烈ナルニ恐怖シ其迫害ヲ脱レン爲メ或ヒハ偶像ニ供物ヲ奠シ或ヒハ其祭壇ニ炷香ヲ燒キ或ヒハ職吏等ニ由テ保證書ヲ需ムル等種々ノ方法ヲ用ヰル者許多アリ由テ此等ヲ綽號シテ獻供者、燒香者又ハ依証書者ト云ヒ且教會ニテハ此等背教者ヲ總テ「ラプシイ」即チ墜落者ト稱シ其教會ヨリ放逐セリ然ルニ信仰ノ堅固ナル信徒ハ幼稚ノ者ニ至ルマテ毫モ屈撓スルコトナシ



能ク其殘酷ナル拷問ヲ忍ビ或ヒハ焚殺ニ逢ヒ或ヒハ猛獸ノ餌食ト爲  
 レモ大概從容トシテ死ニ就ケリ却說此頃ノ風習ニテ信徒ハ基督教ノ  
 爲メ殉教スルヲ以テ其願望スヘキ事ト爲シ殉教者ノ死日ヲ以テ其誕  
 生日ト稱シタリ且テルトリアンカ其頃嘗テ迫害者ニ贈リタル書簡ハ  
 大ニ信徒ノ間ニ貴重セラレ之カ爲メ其後裁判官ニ自首スル者許多ア  
 リラルトリアンノ書簡ノ概畧ハ我儕ノ身体ヲ燒燃スル焰々タル火烟  
 ハ我儕カ美服即チ捷利ヲ得タル服又我儕カ坐スル所ノ燃々タル積薪  
 ハ我儕ノ捷利ヲ得タル馬車ナリト然ルニ此等自首セシ所ノ信徒モ其  
 後拷問ノ甚シキニ堪エヌシテ終ニ背教スル者モ亦尠カラサレハ教師  
 等ハ信徒ニ自首セサルヲ勸奨セリ却說此頃迫害ノ激烈ナルニ由テ  
 信徒ハ之ヲ避クヘキヤ否ニ就テ議論起リ有名ナル教師中ニモ其迫害  
 ヲ避クヘキヲ主張シ之ヲ信徒ニ教ヘ又自ラ行フ者アリ即チカルテ

ヤノ監督シブリアンノ如キ是ナリ然レモ此人ノ迫害ヲ避ケタルハ敢  
 テ其卑怯ナル心情ヨリ出タルニアラサルヲハ後殉教セラル、ニ臨ミ  
 吾ハ我カ肉体ノ鎖ヨリ離ル、ハ神慮ニ適フタルヲ感謝スト云ヒタ  
 ル語ヲ以テモ推知セラル、ナリ然レハ此時基督信徒及ヒ偶像教徒ハ  
 多クシブリアンノ傍ニ在リテ之ヲ觀シカ基督信徒ハ涙ヲ流シテ我儕  
 ナ彼ノシブリアント共ニ死ナシメヨト云ヘリ時ニ紀元二百五十八年  
 ナリ其後ウァーリアン帝ノ崩シテヨリ教會ハ凡ソ四十年ノ間迫害ノ  
 憂ヲ免レタリ

四 第四世紀

此世紀ニ起リタル迫害ハ一次ナリ

ダイオクリシアン帝 此帝ノ時代ニ方リ羅馬國ニ於テ最後ノ大迫害  
 起リ紀元三百〇三年ヨリ凡ソ十年間連續セリ抑モ此ダイオクリシア  
 ン帝ハ天資純良ニシテ武官ヨリ出身セシ者ナレハ敢テ基督教ヲ迫害

セント欲スル志ハアラスト雖モ其頃基督教ノ益興隆スルニ由テ偶像  
 教ノ祭司等之ヲ嫉ミ帝ノ女婿ガリ、ウス帝ヲ教唆シ全帝ヲシテダイ  
 オクリシアン帝ニ勸メ基督教徒ヲ困苦スル布告ヲ出サシメタリ蓋ガ  
 リ、ウス帝ハ偶像教ヲ信仰セシニ由テナリ其布告ハ即チ次ノ如シ(一)  
 基督教ノ會堂ハ盡ク破壊シ其經典ハ皆焚燒スヘシ(二)教師ノ獄舎ニテ  
 國神ニ供物ヲ献セサル者アラハ死刑ニ處スヘシ(三)基督教徒ハ國神ニ  
 供物ヲ献スヘシ若シ之ヲ否ム者アラハ強迫シテ行ハシムヘシト此頃  
 ヨリ信徒ヲ拷問スルニ炮烙ノ刑及ヒ目睛ヲ抉リ釘ツケル等ノ殘酷ナ  
 ル方式ヲ用キ又信徒ヲ殺害スルニ或ヒハ其居宅内ニ鎮シ之ト共ニ焚  
 燒シ或ヒハ繩ヲ以テ許多ノ信徒ヲ連鎖シ海中ニ投入スル等無慘ナル  
 方式ヲ用キ其他市街ニ販賣スル菓物及ヒ葡萄酒等ニ偶像教ノ祭壇ノ  
 灰ヲ交混シテ販賣セシムル等ノ事ヲ爲シ教會ハ實ニ之カ爲メ非常ノ

困苦ニ陥リ殆ント衰微スルニ至リケレモ偶像教ハ之ニ反シ盛大ニ起  
 キ莊嚴ナル祭典ヲ行ヒケレハ其祭司等ハ既ニ宿志ヲ達シタリト思惟  
 シ基督教徒ノ消滅ト彫刻セル勅章ヲ鑄造シ之ヲダイオクリシアン帝  
 ニ贈呈セリ然レモダイオクリシアン帝ハ紀元三百十二年自盡シテ崩  
 シ其後久シカラスシテガリ、ウス帝モ亦病ニ罹リ崩セシカ其病ノ危  
 急ナルニ及ヒ深ク良心ニ悔悟セリ一説ニハガリ、ウス帝ハ死ニ垂ン  
 トスルニ及ヒ嚮キノ布告ヲ廢シ教會ニ祈禱ヲ願フタリト云ヘリ却説  
 教會ニテハ信徒ノ此迫害ニ方リ經典ヲ官ニ納メタル者ヲ降服者ト稱  
 シ皆教會ヨリ放逐シタリ之ニ由テ見レハ其頃教會ノ懲戒嚴重ナリシ  
 ナ推知スヘシ  
 基督ヨリコンスタンタン大帝ノ時ニ至ル迄各地方ニ起リタル迫害ハ  
 其數甚ク多キカ故ニ或人ハ之ヲ臆測シ其數都合十次ニテ宛モモトセ

カエジプトノ十難ニ類似シ又默示録怪獸ノ十角(默十七)ニ稱ヘリト云  
 ヘリ然レモ其實迫害ノ數ハ十次ニ超過セシナラン  
 ロマ諸帝ノ中ニテ或帝ハ基督教ヲ默許シアレキサンテル、セウニス(紀  
 元二百卅五年死ス)ハ基督ノ像ヲ以テ著名ナル故人ノ像ト共ニ其家廟  
 ノ中ニ併置セリ又或帝ハ其頃ノ人ヨリ實ニ基督教ヲ信セシ者ノ如ク  
 疑ハシタル者モアリタリ

コンスタンテン大帝ノ小傳

教會ト政府トノ關係ハ第四世紀ノ初頃コンスタンテン大帝位ヲ履  
 ムニ及ヒ甚タ密接ナル者ト爲リシカ教會ニハ却テ之カ爲メ種々ノ  
 弊害ヲ醸生シ其危殆ナルヲハ迫害ノ時ヨリモ一層増加セリ抑モ第  
 四世紀頃マテ帝國ニハ四人ノ皇帝アリ彼ノ教會ヲ迫害セシダイオ  
 シリシアン帝ハイタリヤ等東ロマ諸帝ヲ領有シコンスタンテン帝

ノ父コンスタンニウス、シロルス帝ハブリランゴールス、ペイン等西  
 ロマ諸帝ヲ領有セシカ此人ハ天資怯弱ニシテ果斷ニ乏シト雖モ神  
 ヲ信シ教會ヲ保護セシ者ノ如シ却說コンスタンテンハ弱年ノ頃嘗  
 テ東ロマノガリ、ラス帝ニ隨行セシカ其身軀長高ニシテ英偉豪邁  
 ナルヲ以テ滿廷ノ者皆其後來非常ノ豪傑ヲラシコトヲ察シ政治ノ  
 機密ニ干預セシメサル耳ナラス其舉動ニ注目シ或ハ之ヲ暗殺セ  
 ント謀ル者アリ然レモコンスタンテンハ之ヲ察シ奇異ニ其厄ヲ脱  
 レブリテンナル其父帝ノ許ニ逃歸セシカ其後紀元三百六年其父帝  
 崩スルニ及ヒブリテン駐戍ノ武官等唯喝采ノミヲ以テコンスタン  
 テンヲ皇帝ニ選立セリ此頃東ロマニハダイオシリシアン帝既ニ崩  
 シライシニウス帝其後位ヲ嗣キコンスタンテン大帝ト帝統ヲ爭ヒ  
 屢ハ戰ヒテ接セシカコンスタンテン大帝遂ニ之ニ克テ又他ノ諸帝

ヲ征服シ羅馬帝國ヲ一統シ紀元三百廿一年都ヲコンスタンテノブルニ移セリ抑モ此地ハ原トビザンシウムト稱セシ邑落ナリシカ帝ノ此地ヲ開擴シ都ヲ移シ其名ヲ更ムルニ及ヒ帝國ノ首府ト爲リ後年ニ至リ教會歴史ニ關シ有名ナル者ナリ先是コンスタンテン大帝ハ紀元三百十三年頃兵ヲ帥キテエールユリイタリヤニ往クニ方リ空中ニ十字架顯ハレ又聲アリ是レニ由テ克ツヘント云ヘリ因テ帝ハ基督ナルギリシヤ字ノ頭字二個ヲ取リ✕或ヒハ✱ノ如キ形像ニ連續シ旌旗ニ着ケ以テ其軍標ト爲セリ是ヨリ以來向フ所服セサル無ク戰フ所勝ヲサルナク未タ嘗テ一次モ敗北ヲ爲サ、リシナリト帝ノ臆股ニシテ其機密ニ參預セシユシビウスナル者証據ヲ爲セリ然レモ或者ハ帝ヲ疑ヒテ其教會ノ爲メ盡力セシハ其太后ノ欸心ヲ得ノ爲メナリト又帝ヲ以テ偽善者ト認メ恰利ナル政治家ニシテ偶

像教ノ衰運ヲ察セシニ由テナリト云フ者アリ然レモ太后ハ帝ノ勸獎ニ由テ基督教ヲ信セシコトハ明白ナル証據アリ且其頃基督教ハ猶ホ微弱ニシテ教師等モ流竄又ハ殺害ニ逢ヒ會堂ハ焚燒セラレ信徒等モ或ヒハ背教シ或ヒハ他國ニ脱走シ羅馬ニ住居スル者ハ公然之ヲ信仰スルヲ得サル等ノ勢ナレモ偶像教ハ之ニ反シダイオシリシアン帝ノ保護ニ由リ其勢甚々強盛ニシテ敢テ衰運ニ屬セシコトアラサレハ帝ノ教會ノ爲メ盡力セシコトハ奈何ナル思考ナリシヤ明亮ナラサルナリ却說帝ハ其後國內ノ稍ヤ靜定スルニ及ヒ布告ヲ出シ國民ニ信仰ノ自由ヲ許シ相尋キテ偶像教祭司等ノ俸給ヲ奪ヒ又基督信徒ノ流竄ヲ免シ會堂ヲ修繕シ且新タニ宏大偉麗ナル會堂ヲ建設シ種々ノ物品ヲ施與シ盛大ナル拜禮ヲ行ヒ教會及ヒ監督ヲ保護シ其地位ヲ高貴ナラシメタリ蓋是レハ重モニ貴顯ノ者等ノ改心ヲ促

ス爲メナリシナラン紀元三百廿五年遂ニ基督教ヲ以テ羅馬帝國ノ國教ト定メ且ニシニアニ大議會ヲ開設シ親ヲ其會ニ臨場セリ然レモ帝ハ其頃流行セシ「パプテスマ」ヲ受ケタル後ニ犯シタル罪ニハ恐ルヘキノ應報アリトノ説ヲ信シ晩年ニ至ルマテ此禮典ヲ受ケサリシナリ

五 背教者シユリアン帝

コンスタンテン大帝其位ニ昇リシ以還教

會ハ凡ソ五十年ノ間稍ヤ平穩ナリシト雖モ其後シユリアンカ帝位ニ即クニ及ヒ紀元三百六十一年ヨリ凡ソ二年ノ間又々迫害ニ逢ヘリ蓋此迫害ハ瑣小ニシテ廣ク行レサリシナリ抑モシユリアン帝ハ所謂背教者ト稱スル者ニシテ最初ハ教會ノ教師タラシ爲メ神學ヲ修メ教務ヲ行ヒタルモ暫クニシテ之ヲ棄テ「新アレント」派ノ説ヲ信シ武官ト爲リ遂ニ帝位ニ昇レリ帝ハ嘗テ凡テノ教法ヲ以テ皆同一ナル真理ナリト

稱シタレモ基督教ヲ憎惡セシ「ハ實ニ明瞭ナル者ニテ親ヲ偶像教ノ神前ニ供物ヲ献シ又其教法ヲ回復スル」ニ盡力セシ耳ナラス其祭司等ノ爲メ種々心ヲ盡シテ之ヲ保護シタリ而テ基督教ノ會堂及ヒ學校ハ之ヲ閉止シ或ヒハ教師ノ俸給ヲ奪ヒ或ヒハ異端者ヲ煽動シ且之ヲ補助シ又教會ヲ迫害スル爲メ苛酷ナル布告ヲ出シ倘其法ヲ遵奉セサル者アレハ慘酷ナル刑法ヲ以テ之ヲ殺害セリ然レモ其帝位ニアル「久カラスベルシヤ」ト戰ヒテ遂ニ戰死セリ茲ニテオドレントト云ヘル者ハ嘗テ帝ニ隨ヒベルシヤニ至リシカ其著書ニシユリアン帝既ニ崩セントスルニ臨ミ自ラ其血塊又ハ塵芥ヲ攫ミ天ニ投テテガリヤ人ニ汝捷矣ト云ヘリト記載セリ然レモ此人ハ多ク想像ヲ以テ事實ヲ記載スル習僻アレハ其眞否ハ測知スヘカラス

第三節 回々教及ヒ其猖獗

回々教ノ祖モハムメドハ紀元五百七十年アラビヤナルメッカノ豪族ノ  
 中ニ生レタレヒ其家甚ク貧困ニシテ且幼少ノ頃其兩親ヲ喪ヒタレハ  
 貧困ナル親族ニ寄テ養育セラレ成長ノ後或隊商ニ服事シ履ハスリヤ  
 ニ往來シ二十五歳ノ時又或富豪ナル隊商ノ寡婦ニ事ヘ其職ヲ營ミ後  
 遂ニ之カ贅婿ト爲レリ然ルニモハムメドハ嘗テスリヤニ往來セシ頃  
 兩約聖書ノ教ヲ聞キ感激スル所アリ偶像教ニ迷溺セルアラビヤ人ヲ  
 開悟セシメントノ大望ヲ發セシニヤ是ヨリ屢ハ其家ヲ去ル一里許ナ  
 ル岩窟ノ中ニ入り數日沈思又祈禱ヲ行ヒ其間或ヒハ一月ノ久ニ互ル  
 ヲアリ其四十歳許ノ頃自ラ揚言シテ我嘗テ岩窟ニ在リシ時天使ガブ  
 リエル現出シテ神ノ命令ヲ傳ヘ我ヲシテアラブヲハムノ教ヲ新クニイ  
 シマエルノ子孫ナルアラビヤ人ノ中ニ布クヲ命シ且ガブリエル其  
 他ノ天使ヨリ天啓ノ教ヲ受ケ神ノ預言者ト爲リ古昔ノモ一七及ヒ基

督ノ如キ者ナレヒ最終ニシテ且最大ナル者ト云ヒ公然其說ヲ以テ其  
 部下ノ者ニ教ヘ新クニ一種ノ教法ヲ建テントセリ(後來回々教徒ノ「コ  
 ーラノ」ト稱シ其經典トスル者ハ即チ教徒等カモハムメド死後其說ヲ  
 記載セシ者ナリ)然ルニ其家族親戚并ニ其地ニ羈寓スル行客等ハモハ  
 ムメドカ新教ヲ信仰スト雖モメッカノ土人等ハ皆之ヲ厭惡シテ敢テ信  
 仰セサルノミナラス遂ニ徒黨ヲ結ヒ之ヲ暗殺セント企圖セリ因テモ  
 ハムメド之ヲ推知シ其家族等ヲ脅キテメデナニ遁逃セリ時ニ紀元六  
 百廿年ナリ回々教徒ノ者ハ此年ヲ以テ其教徒ノ紀元ト定メアラビヤ  
 語ニテ之ヲ「ヘザヤイラ」ト云ヘリ斯クテモハムメドハメデナニ移リシ  
 後部下倍ス増加シケレハ自ラ僭シテ王ト稱シ又諸國ニ書翰ヲ贈リ其  
 預言者タルヲ告ケ倘之ヲ承諾セサル者アレハ直ニ兵ヲ帥キテ之ヲ  
 征伐シケレニ奇異ニ捷利ヲ得テ僅々間ニアラビヤ全國及ヒ亞非利加

ノ過半ヲ平ケタリ且モハムメドハ敵國ヲ征スルニ方リ叙ト教法ノ二  
 個ヲ用キ敵人ヲシテ其一ヲ擇撰セシメ強迫手段ニ依テ其教法ヲ弘布  
 セシニ人民ノ之ニ感服スル者甚ク多ク急ニ諸國ニ弘行セリ却説此等  
 ノ教徒ハアラビヤ一種族ノ名ニ因リ凡テ之ヲ総稱シサラセン人ト云  
 フ又其教法中ニ神ニ服従ス可シトノ一大教義アリコ因リ「イブラム」即  
 チ從神者ト稱シタリモハムメドハ紀元六百三十一年ニ死シ(一説ニモ  
 ハムメドハユダヤノ一婦人カ其真正ナル預言者ナルヤ否ヤヲ試ミノ  
 トテ毒ヲ飲マシメシニ由テ死セリ)ケレモ其教徒等ハ猶ホ相尋キテペ  
 ルシヤ小アジアスリヤ及ヒ亞非利加北部ノ諸國ヲ侵襲シ遂ニ蠶食シ  
 テ印度ニ至リ其他歐羅巴ノスペインニ於テモ久シク其地ニ割據シ雄  
 大ナル一王國ヲ建テ又嘗テフランスニモ侵入セシカナヤレス、マルテ  
 ルナル者ノ爲メ大ニ敗績シ其國疆ヨリ驅攘セラレタリ却説コンスタ

ンテノアルハ其頃マダ峙立シテ久シクサラセン人北侵ヲ防禦スルノ  
 堡障ナリシカ第十五世紀頃トルキ人カ東ロマ帝國ヲ滅スニ及ビ遂ニ  
 回々教徒ノ手ニ落テタリ其後回々教ハ猶ホモ歐羅巴ニ侵入スルノ勢  
 アリシカ遂ニアウストリヤニ至リテ止マノリ抑モ基督信徒ノ回々教  
 徒ノ爲メ受ケタル傷害ハ實ニ算シ盡ス可ラサル者ニテサラセン人ノ  
 向フ所ハ教會忽チ枯槁スルニ至レリ即チ亞非利加北部ノ諸教會ハ之  
 カ爲メ滅亡シ其他諸國ノ基督信徒モ或ヒハ虜掠セラレ或ヒハ殺害セ  
 ラレ東教會ノ如キハ殆ント滅亡セントセリ且教會ノ中心ハ嘗テ地中  
 海ノ近傍ニ在リシカ此頃ヨリ歐羅巴西北ニ轉移セリサラセン人ハ初  
 メ無學昧ノ野蕃ニシテ學問ヲ厭惡シ至ル所書庫及ヒ藏書等ヲ滅却  
 シ諸國之カ爲メ實ニ回復スヘカラサル傷害ヲ受ケシカモハムメドノ  
 死後二三十年ノ頃ヨリ稍ヤ學問ヲ好ミ學校ヲ起シ教育ヲ務メシニ由

第二章

テ文人學士相尋キテ輩出スルニ至レリ且又此教徒等ハ大ニ「アリスト  
タル」派ノ哲學ヲ尊重セリ

第三章 會例

第一節 禮拜所

一 最初ノ禮拜所 最初ノ教會ハ貧困ニシテ且屢ハ迫害ノ起ルカ爲  
メ適當ノ會堂ヲ建築スルヲ能ハス或ヒハ信徒ノ住宅ニ集會シ或ヒハ  
他ノ住宅ヲ借用若クハ購求シ其禮拜所ニ充テタリシカ迫害ノ倍ス盛  
ナルニ及ヒ其探偵ヲ避ケノ爲メ前章ニ記載セシ「カタコム」ノ如キ洞穴  
巖窟塚壙等凡テ人跡ノ容易ニ達シ難キ處ニ密會シ又ハ早曉黄昏ノ頃  
ニ集合スル等勉メテ他ノ耳目ヲ避ケタリシカ其後第二三世紀頃迫害  
ノ稍ヤ中止シ即チ第三世紀ノ季頃四十年間ノ時ノ如キ頃ニ始メテ所  
所ニ會堂ヲ建築セリ蓋此頃マテハ怡モユダヤ教ノ會堂ノ如キ者ヲ建  
築シ猶ホ世ノ耳目ヲ憚レリ然レモ其後迫害ノ再ヒ起ルニ及ヒ此等ノ  
會堂モ皆迫害者ノ爲メ破壊セラレタリ

第三章



二 最初ノ會堂及ヒ其附屬物 教會ハコンスタンテン大帝ノ時ニ至

テ初メテ其面目ヲ一新シ自由ニ會堂ヲ建築スルヲ得タルハ所々ニ於テ之ヲ建築スル者アリ其間或ヒハ廣大莊嚴ナル會堂ヲ建築スル者モ尠カラス又或ヒハ殉教者ノ墓所ニ就キテ之ヲ建築シ号シテ殉教堂ト云ヘル者アリ却説此頃流行セシ會堂ノ建築法ハ大概羅馬ノ裁判所「パシリカ」ニ倣ヒシ者ニテ會堂ノ前面及ヒ左右兩側ハ共ニ長方形ニシテ後面ノミハ半月ノ形ヲ爲シ堂内ノ柱ハ皆數行ニ並立シ其奥室ニハ晚餐臺、監督席、長老ノ座及ヒ唱歌臺ヲ設置シ此室ヲ稱シテ聖所又ハ「ベマ」ト云ヘリ「ベマ」トハ裁判所ノ名稱ヲ摸ヒシ者ナリ又其前室ノ廣濶ナル所ヲ指シテ「テロウ」即チ船舶ト稱号シタリ蓋此名ハノアノ方船ノ如ク人ヲ救拯スルノ義ヨリ出タル者ナラン却説此廣室ヲ區分シテ兩席ト爲シ與席ヲ既ニ「パ」テスマ」ヲ受ケシ者ノ席ト爲シ前席ヲ生徒又

ハ悔改者ト稱スル者ノ席ト定メ與席ニ在ル者ハ凡テ安坐シ前席ニ居ル者ハ皆跪坐セシメタリ又狂者等ノ爲メ其庇側ニ於テ別ニ一席ヲ定メタリ蓋是レハ其頃患狂者甚タ多カリシニ世人ハ基督ノ名ニ因テ其病ヲ愈サ、ル者ノ如ク思惟シ多ク會堂ニ携ヘ來リタレハナリ然ルニ其後ニ至テ會堂建築ノ方式稍ヤ一變シ會堂ヲ以テ十字架ノ形象ニ構造シ其中央ニ圓形ノ尖塔ヲ建築スルヲ始マリ爾來數百年間流行セリ  
 コンスタンテンノブルノ有名ナル聖ソフィアノ大會堂モ此法ニ倣フテ建築セリ蓋此會堂ハ初メコンスタンテン大帝ノ建築セシ者ナレ其後「ミステニア」ノ時ニ至テ之ヲ改造セリ其會堂ノ廣サハ縱橫共ニ四十間ニシテ其中ニ用サタル蠟石ノ柱百十七基ハ古昔偶像教ノ堂宇ノ材料ナリシカ移轉シテ此會堂建築用ニ供セシ者ナリ尖塔ノ高サハ十八丈ニシテ其頂上ニ建タル黃金ノ十字架ハ重サ六十斤アリ之ニ

各種ノ寶玉ヲ象嵌セリ其他堂中ノ飾飾及ヒ諸器具等ハ皆金銀寶玉ヲ以テ之ヲ彫刻鑄陶シ其結構ノ美觀ナルヲ當時其右ニ出ル者ナシ然ルニ其後トルキ人カコンスタンテノブルチ攻陷スルニ及ヒ此會堂ノ体裁ヲ改メテ回々教ノ堂宇ト爲セリ第四世紀頃ヨリ會堂ノ側ニ「バプテステリ」即チ「バプテスマ」施行所ヲ設置スルヲ始マレリ蓋此舍中ニハ唯一ノ「バプテスマ」盤ヲ置ク耳ナレト此施行所ノ中ニハ甚々廣大ナル者アリ或會堂ノ「バプテステリ」ニテハ嘗テ議會ヲ開キシヲアリ其廣大ナルヲ推テ知ルヘシ會堂ニ畫像ヲ用ヰルヲハ古昔ヨリ行ハレタルトモ頗ル古昔ヨリ行ハレタルヲナレト十字架ノ聖像ヲ用ヰルヲハ第七世紀ヨリ起レリ會堂ニ附屬ノ書庫ヲ建築シ聖書及ヒ其註釋歴史文章等重要ノ書籍ヲ貯蓄保存スルヲハ古昔ヨリ流行セシ者ニテ彼ノ

聖ソフィアノ書庫ニハ藏書十二萬卷アリト云ヒ又エルサレムカイザリア等ノ會堂ニモ亦書庫ヲ備ヘタリ會堂ニ鐘及ヒ鐘樓ヲ用ヰルヲハ第七世紀ノ初頃ヨリ始マレリ蓋是レハ羅馬ノ監督サビニアスノ創設セシ者ナラン然レトモ東教會ニテハ其後久シク之ヲ用ヰスエシプトニテ信徒ヲ集ムル時ハ喇叭ヲ吹キ又或國ニテハ鉄板ヲ敲キ以テ其報知ヲセリ會堂ニテ風琴ヲ用ヰ聖歌ニ和セシムルヲハシヤレマン大帝始メテ之ヲ爲サシメケルカ其後漸々流行シ諸教會大概之ヲ用ヰルニ至レリ會堂ノ建築法及ヒ凡テノ會例等宏莊美觀ナル者ト爲リシヲハ多ク教王大グレゴリノ勢力ニ由ルナリ却說教會ノ信徒等ハ紀元一千年ニ近ク頃世ハ既ニ終末ニ迫レル者ノ如ク思惟シ敢テ會堂等ヲ修繕スル者ナク其圯廢ニ放任セシカ既ニ此窮迫ナル時期ヲ經過スルニ及ビ風潮一變シ諸國一般ニ會堂修繕ニ熱心シ歐羅巴ニテ會堂及ヒ大

會堂ヲ建築スル者許多アリ且歐羅巴西北ノ地方ニテハゴスノ建築法ニ從ヒ會堂ヲ樹木ノ鬱結セル光景ニ摸シテ構造スル者アリ又第十一世紀頃ヨリ石造ノ會堂流行シ石工等ノ修道院中ニテ其建築法ヲ研究セシ者ハ唯其同職中ノ親友ニノミ傳授シ深ク之ヲ秘シタリフランドニテ會堂ヲ建築スル時信徒ハ貴族平民ヨリ婦人子女ニ至ルマテ非常ニ熱心シ皆自カラ力役ヲ務メ遠方ノ地ヨリ材木礫石等ヲ運搬シ職工ノ業ヲ補助シタリ歐羅巴諸國中ニテ最モ廣大ニシテ且有名ナル者ハ羅馬ノ聖ペテロノ大會堂ナリ此會堂ハ紀元一千五百〇六年ヨリ其建築ヲ始メ其後百廿年ヲ經テ奉堂式ヲ施行セリ

第二節 集會

一 集會ノ時期 最初ノ信徒ハ耶穌基督ノ復活ヲ覺ユル爲メ一週間ヲ第一日ヲ以テ主日ト稱シ之ヲ以テ集會ノ定日ト爲セシカ唯ユダヤ

教ヨリ轉シタル信徒ノミハ第一日ノ集會定日ノ外ニモ一セノ律法ニ從ヒ其第七日ヲモ集會ノ定日ト爲セリ蓋信徒ハ凡テ以上定日ノ集會ノミナラス其他一週間ニ於テ數回ノ集會ヲ爲セシ者ナリ然ルニユンスタンテン大帝ハ布告ヲ出シ一週間ノ第一日ヲ以テ國中一般ノ安息日ト定メ以テ職人等休業ノ日ヲ一定シタリ

二 集會ノ式 最初ノ信徒ノ集會ハ第七世紀以後ノ如キ一定ノ拜禮式ハアラサレヒ其集會ニハ先ツ聖書ヲ讀ミ祈禱ヲ爲シ聖歌ヲ唱ヒ又或時ハ勸獎ノ說話ヲ爲シ終ニ晚餐ヲ行ヒ了式ノ後「アガベ」即チ愛ノ筵席(猶十二節)ヲ爲シタリ最初教會ニテ聖書ヲ讀ム者ハ段落ヲ追ヒ順次ニ讀下セシ者ナレヒ今日ノ如ク其章節ヲ截定シ讀者ノ便ヲ爲セシトハ全ク後世ノ事ナリ又聖書ヲ講義スルコトハ基督及ヒ使徒等モ固ヨリ舊約聖書ノ經文ニ據リテ之ヲ爲シ最初ノ教會ノ者モ亦其方式ニ倣ヒ

講義ヲ務メザリト雖モ是レハ唯聖書中處々ノ經文ヲ引照シテ教義ヲ  
 演述セシ者ニテ後世傳道者ノ聖書中一兩句ヲ拔萃シ演題ト爲ス者ト  
 ハ同シカラサルナリ又經解法ハ既ニ第一世紀ノ末頃ヨリ行ハレタル  
 者ナレトモ第四世紀ノ教師キリソストム最モ此術ニ有名ナリ其他聖書  
 ナ講義スルニ長遠ナル論辨法ヲ用ヰルコトハ第三世紀頃ノ教師オリゼ  
 シアレキサンデリアニ於テ始メテ之ヲ行ヒ其後雄辨ナル教師ハ大概  
 之ニ倣ヘリ教會ノ講義ニ演說又ハ演劇等ノ風習ヲ傳染シ拍手喝采等  
 ナ用ヰルコトハ第四世紀ヨリ起レリ教會ニテ炷香ヲ焚キ始メタル理由  
 ニ就テハ或說ニ許多ノ信徒集合スレハ空氣ノ腐敗スルカ故ニ之ヲ清  
 潔ニスル爲メ焚クナリト云ヒ又或說ニハ古昔ノユダヤ教若クハ偶像  
 教ノ禮式ニ摸シテ之ヲ焚クト云ヒ其他種々ノ說アレトモ恐クハ第二說  
 ノ如クナラン「アガベ」即チ愛ノ筵席ハ使徒時代ヨリ行ハレ其後教會ノ

慣例ト爲リシ者ニテ信徒ノ集合スル時ハ麵包及ヒ葡萄酒等ヲ携ヘ來  
 リ其會ノ了式ヒシ後信徒一般ニ相會シテ飲食セリ是レ信徒相愛ノ情  
 誼ヲ起ラシメ信徒ハ凡テ基督ニ因テ一家族タルコトヲ證シ又此頃迫害  
 ノ爲メ其財產ヲ喪ヒ貧困ニ陥リシ信徒多キカ故ニ此等ノ貧者ヲ救恤  
 スル爲メ設ケシ者ナリ是ヲ以テ「アガベ」ノ時ニハ信徒等ハ食物及ヒ金  
 錢衣服等ヲ携ヘ來リテ會中ノ貧者ニ施與スルコト一般ノ慣例ト爲リタ  
 レトモ其後迫害ノ衰ユルニ及ヒ此慣例モ亦漸々衰微シ遂ニ廢絶セリ

第三節 聖禮典

一 「バプテスマ」

(一) 施行者 或說ニ據ルニ最初ノ教會ニテ轉教者ニ「バプテスマ」ヲ施行  
 スルコトハ其聖役員タルト否ニ關ハラス唯其初メ轉教者ノ入會ヲ周旋  
 セシ者ヨリ之ヲ行ヒタリトアレトモ斯クノ如キ規則ハ決シテ證據ナキ

ノミナラス此禮典ヲ施行スルコトハ監督ノ職ニシテ特ニ都會ノ監督タル者ノミ之ヲ施行スルコトヲ得タリ蓋田舎ノ監督及ヒ長老傳道者ト雖モ尙都會ノ監督ノ許可ヲ受ル時ハ之ヲ施行セリ然ルニ此法ハ其後遂ニ教會ノ慣例ト爲レリ

(三) 受領者

轉教者カ「バプテスマ」ヲ受領セシ時ハ其家族タル者ハ勿論轉教者ト共ニ其教會ノ權下ニ服屬セシ者ト認定セラレタリ夫レ聖書中ニ記載セシ「バプテスマ」ニ關スル事ハ其頃ノ慣例及ヒ舊約ノ轉教者ニ關スル規則ニ由テ解釋スヘキ者ナリ今此規則ニ據レハ轉教者ノ子ハ其親ニ隨ヒテ「バプテスマ」ヲ受領セシコト明白ナリユダヤ人ニテ有名ナル神學者マイモニデスノ説ニハユダヤ人ハ常ニ異邦人ヲ以テ汚穢ナル者ト爲セシ故ニ異邦人ノユダヤ教ニ轉教スル時ハ「バプテスマ」並ニ割禮ヲ施シ又神ニ供物ヲ獻セシムト又ユダヤ人ノ遺傳ナル「タルム

ド」書ニモ異邦人ノユダヤ教ニ轉スル者ハ「バプテスマ」ヲ受ケシムルコトヲ記載セリ由之觀之ハ轉教者ニ「バプテスマ」ヲ施スコトハ基督以前ヨリ行ハレタルコト明白ナリ又轉教者ノ子女「バプテスマ」ヲ受クルコトニ就テノ理由ハ即チ次ノ如シユダヤ教神學者ノ説ニ人ノ知ラサル時ニ特權ヲ與ユルハ固ヨリ善ナリト雖モ其知ラサル時ニ之ヲ禡フコトハ爲スヘカラスト又「エルサレム、タルムド」書ニ異教徒ノ子女滿三年六個月以前ニ轉教スル者ハ其年齡以後ニ轉教セシ者ノ受クル能ハサル所ノ特權ヲ受クルト記載セリ子女轉教ノ年齡ニ關シタル規則ニハ男子ハ十三年一日女子ハ十二年一日マテハ其親ニ從ヒ轉教スルコトヲ得ルト記載セリマイモニデスノ説ニユダヤ人尙異教徒ノ孩兒ヲ養ヒ轉教セシムル爲メ「バプテスマ」ヲ施ス時ハ其孩兒ハ真正ナル轉教者ナリト又イングラントノ有名ナル神學者ライトフトノ説ニ子女ニ「バプテスマ」ヲ

施ス「ハユダヤ教モ基督教ニ異ナラスト由之觀之ハ基督ノ其使徒等ニ命シテ萬國人民ニ「バプテスマ」ヲ施シ徒弟ト爲スヘシト云ヒシ意味ハ其頃ユダヤ人ノ中ニ行ハレタル習慣ニ從ヒタル者ナルヲ測知セラル、ナリ是ヲ以テルテヤ(使十六ノ十五)獄吏(全十六ノ卅六)ステバノ(前哥一ノ十六)ハ當時ノ慣例ニ從ヒ其家族ト與ニ「バプテスマ」ヲ受ケシ者ナリ又「バプテスマ」ハ信徒ノ更生ヲ証スト云フ「ニ就キ其論說次ノ如シ「エルサレム、タルムド」書ニ人改心シテ轉教スレハ更生スル者ニテ即チ孩兒ノ如シト又轉教者ハ新母ニ由テ產生セシ者ノ如シト記載セリ基督及ヒ使徒等ハ此更生ナル語ヲ慣用シ其後遂ニ教會一般ノ用語ト爲リ古昔ノ教會歴史家ノ書中ニ此語ヲ使用セシ者鮮カラス例ヘハ第二世紀シヨスタノ、マルテルノ說ニハ我儕ハ更生セリ蓋父子聖靈ノ名ニ入レ水ヲ以テ洗ハレタレハナリト又我儕ノ朋友數人ノ者ハ幼少

ノ頃ヨリ既ニ教ニ入り聖潔ニ其身ヲ保チタリト又イレニウスハ幼童ノ「バプテスマ」ヲ受クルヲ指シテ幼童ノ更生ト稱シオリゼンノ書中ニハアレキサンデリア教會ニテハ古昔ヨリ幼童ノ「バプテスマ」ヲ受ケシル慣例アリト記載セリ且此人ハ幼少ノ時既ニ「バプテスマ」ヲ受ケシナリ古昔教會ノ著述家中ニテ「バプテスマ」ハ人尙「バプテスマ」ヲ受ケタル後惡業ヲ行ヘハ其禮典ノ効ハ之カ爲メ消滅スル者ナリト唱道シ幼童ノ「バプテスマ」ヲ受クルヲ否ミタリ又第三世紀ノシプリアンカガルテ「バプテスマ」ニ監督タリシ時其地ノ議會ニ於テ子女誕生後八日以内ニ「バプテスマ」ヲ施ス「ニ就キ紛議起レリアウグステンハ「ドナテラスト」派ノ說ヲ排駁シテ幼童ノ「バプテスマ」ヲ受クル「ニ就キ神ノ命令ヲ釋スルニ教會ハ最初ヨリ之ヲ施行セシ故ニ使徒以來相尋キテ其例ヲ襲ヒタリト信スルハ敢テ不適當ニアラスト云ヘリ抑モ最初ノ教會ニハ種々ノ異

端蜂起セシカ幼童ノ「バプテスマ」ヲ受クルコトニ至テハ之ヲ否ム者アラ  
 スト見ヘユビコフニウス(紀元二百七十四年)ハ嘗テ八十ク條ノ異端ノ説  
 チ臚列シタルニ幼童ノ「バプテスマ」ヲ否ム説ヲ擧ケス又アウグステン  
 ハ我ハ幼少ノ頃ニ「バプテスマ」ヲ施行スルコト否ム者アルヲ知ラスト云  
 ヘリ此等ノ説ニ據リテ考フルニ新約聖書中ニ幼者ノ「バプテスマ」ヲ受  
 領スルコトヲ記載セサル者ハ其頃ユダヤ人ノ慣例ニ從ヒ子女ハ其親ト  
 共ニ之ヲ受領セシコト由テナラン故ニ哥林多前書七章十四節ニ幼少ナ  
 ル者ハ其親ノ信徒ナルコト因テ聖潔者トセラル、意ヲ顯ハセリ

(三)施行法 最初「バプテスマ」ヲ施スニハ浸禮、注禮、洒禮ノ三法ヲ用キシ  
 カ此三法ハ孰レモ舊約時代ノ清潔式ニ模擬セシ者ナリオリゼンハ其  
 注釋ニ於テエリヤノ命ニ由テ彼ソカエメル山ノ祭壇ニ水ヲ傾注セシ  
 コトヲ以テ「バプテスマ」ト云フ(列上ノ十八)ト解セリ又ラウレンスノ傳記

ニハ此人ノ將ニ殺害セラレント爲ルニ方リ或兵卒ハ水罎ヲ携ヘテ其  
 前ニ來リ「バプテスマ」ヲ受領セシコト願ヘリト(紀元百二十八年)記載セ  
 リ其他第二世紀ノ中葉ニ著述セシ「使徒ノ教訓」ニ「バプテスマ」ニ就キ記  
 載セシコト即チ次ノ如シ「バプテスマ」ハ父子聖靈ノ名ニ入レテ流水ヲ以  
 テ施スヘシ然レモ流水アラサレハ他ノ水ヲ用キルモ可ナリ又冷水ニ  
 入ル、能ハサレハ微温湯ヲ用キルモ可ナリ倘此等ノ水モアラサレハ  
 父子聖靈ノ名ニ入レ其頭ニ水ヲ三回注シ可シト記載セリ又病人コハ  
 注禮或ヒハ洒禮ノ法ヲ以テ「バプテスマ」ヲ受ケシコト最初ノ教會ノ書類  
 等ニ散見セリ蓋最初ノ教會ニテ「バプテスマ」ヲ施スニハ大概浸禮ノ法  
 チ用キタルニモ時機ニ由テハ輕便ナル法ヲ用キシト見ヘ其水ニ一定ノ  
 量アリシ証據アラサルナリ又此頃「バプテスマ」ヲ施スニハ大概父子聖  
 靈ノ名ニ入レ三回之ヲ行ヒタリト見ユ

〔四〕施行ノ時期 使徒行傳ニ據ルニ最初ノ教會ニテ「バプテスマ」ヲ施スニハ一定ノ式日ナシ或ヒハ夜間ト雖モ之ヲ施セシ者ノ如シ然レモ其後漸次ニ基督復活日及ヒ五旬節ニ於テ施行スル者流行シ遂ニ此兩日ノ中間ニ於テ行フヲ以テ教會一般ニ適當ナリト認定スルニ至レリ蓋イソングランドニ於テハ古昔ヨリ基督降誕日ヲ以テ「バプテスマ」ヲ施行スルノ吉日ナリト爲リ

〔五〕副式 最初ノ「バプテスマ」ハ其法極メテ單純ナル者ナリシカ後世ニ至テ漸次ニ種々ノ禮式ヲ副加セリ即チ第二世紀頃ヨリ既ニ「バプテスマ」ヲ受領スル者ハ信仰ノ個條ヲ言顯ハシ又其罪惡、惡魔、矜夸ヲ絶念スルヲ証明シ及ヒ十字架ノ印表ヲ受シルヲ起リ其後三世紀ヨリ「バプテスマ」ヲ受シル者ハ聖靈ノ「バプテスマ」ヲ顯彰スル爲メ其身ニ塗膏シ又更生ヲ顯彰スル爲メ牛乳及ヒ蜂蜜ヲ嘗メ且驅魔者ハ受領者ノ爲メ

嚴肅ナル一定ノ語言ヲ以テ其全ク惡魔ノ權下ヲ離レタルヲ顯彰シ然ル後ニ受領者ハ白衣ヲ着シ冕ヲ戴キ家ニ歸ルヲ以テ定式ト爲シタリ且此頃「バプテスマ」施行所ニハ不信者等ノ入ルヲ許サ、リシナリ第四世紀頃ニハ信徒ニシテ死ニ垂ントスル頃マテ「バプテスマ」ヲ受ケサル者許多アリ蓋是レハ其頃「バプテスマ」ニ由テ其罪惡ヲ洗淨スルトノ說專ラ流行セシニ起因スル者ニテ後世天主教ノ懺悔法ハ即チ之カ爲メ創設セシ者ナリ又此頃ヨリ「バプテスマ」ハ教會一般ニ基督復活日及ヒ五旬節ノ前夜ニ於テ授與スルノ習慣ト爲レリ且「バプテスマ」ヲ受領スル者ハ其約束ヲ顯彰スル爲メ食鹽ヲ嘗ムルヲ始マレリ又此頃血ノ「バプテスマ」ト云ヘル說大ニ流行セリ其說ニ「バプテスマ」ハ救拯ヲ受シル爲メ必要ノ者ナレハ彼ノ基督ト全時ニ十字架ニ釘ラレタル倫盜及ヒ其後未ク「バプテスマ」ヲ受領セズシテ殉教セシ者等ハ凡テ自ラ



其血ヲ以テ「バプテスマ」ヲ受ケタリト云ヘリ

〔六〕保管者 此者ハ「バプテスマ」ヲ受ケル者ノ代理ト爲リ其承諾ヲ代證スル者ニテ此法ハ「羅馬」ノ監督「イグニウス」始メテ之ヲ定設セシカ其後急ニ弘衍シ教會一般ノ慣例ト爲レリ或説ニ此法ハ「羅馬」ノ風習ニテ約束ヲ行フニ保証人ヲ要セシヨリ移轉シタル者ナリト雖モ實ハ小兒又ハ奴隸等自ラ答辨ヲ爲ス能ハサル者ノ爲メ代理ヲ爲スニ過キサル者ナラン又保管者ハ別名ヲ保證人、神父、神母、靈父、靈母等ト稱シ受領者一人ニ必ス二三人ヲ要スル者ニテ其姓名ハ「バプテスマ」受領者ノ帳簿ニ記載セシナリ

二 主ノ晚餐及ヒ「マス」ノ禮典 最初ノ教會ニテハ此禮典ヲ守ルニ監督ハ信徒ガ「アガベ」ノ用ニ齋ヲシ來リタル物品中ヨリ麵包葡萄酒ヲ取リ祈禱シテ之ヲ祝シ信徒等ニ配分セシ者ニテ尙疾病等ノ爲メ其會ニ

列スルヲ得サル者アレハ之ヲ贈寄シタリ第三世紀頃此禮典ヲ以テ聖且秘密ナル者ト爲シ不信者等ノ都テ會堂ヨリ退散セシ後ニ於テ之ヲ守リ且之ヲ稱シ「マス」ト云ヘリ蓋「マス」トハ「ラテン」語ノ「ミッサ、エスト」即チ散會ノ略言ニシテ天主教徒ハ今日ニ至ルマテ猶ホ此禮典ヲ守レリ晚餐ノ時間ハ地方ニ由テ同シカラス或教會ニテハ夜間ヲ以テ適當ノ時期ト爲シ或教會ニテハ正午ヲ以テ適當ト爲シ又或教會ニテハ午前ヲ以テ善トセリ晚餐ノ度数ニ就テハ種々ノ異説アリ第四世紀ニハ安息日毎ニ之ヲ守ル耳ナラス一週間ニ二三回宛之ヲ守レリ且此頃ノ信徒ハ晚餐ヲ以テ救拯ヲ得ルニ必要ナル者ト信セシヲ以テ幼少ノ者ト雖モ皆之ヲ守ラセタリ然レド此習慣ハ其後幾干モナクシテ廢絶セリ其頃ヨリ殉教者及ヒ通常ノ死者ノ爲メ又「マス」ノ禮典ヲ行フヲ起リ天主教徒ハ以上ノ「マス」ト共ニ今日マテ之ヲ守レリ且此頃ヨリ基督ノ揚舉

セラノシ(約十二ノ卅二)ヲ顯彰スル爲メ晚餐ノ麵包葡萄酒ヲ信徒ノ前ニテ神ニ捧上シ之ヲ拜禮スルヲ起レリ且其麵包葡萄酒ヲラテノ語ニテ「ホスタア」即チ犧牲ト稱シ又其麵包等ノ机ヲ稱シ祭壇ト云ヘリ後世行ハル所ノ神体變化説ハ蓋是レニ起因スル者ナラン教王大クレヨリノ時(紀元六百年)「マス」ノ禮式ヲ改良シ尊嚴華麗ナル者ト爲シ諸教會ニ之ヲ守ラシメタリ第八世紀頃監督獨リニテ「マス」ノ禮典ヲ行フヲ起レリ蓋亦前説ニ起因スル者ニテ神ニ犧牲ヲ捧上スルハ信徒ノ在不ニ拘ラズ監督獨リニテ足レリト信セシニ由テナラン却説神体變化説ハ初メテ起リシ以來數百年ヲ經テ漸々發達シ遂ニ第九世紀ノ初頃ニ至リフ랑스ノコルベト修道院ノ有名ナル修道者ラドベルト此教義ヲ完結シテ「マス」ノ麵包及ヒ葡萄酒ハ基督ノ血並ニ肉ト變化セシ者ナレハ之ヲ受領スル者ハ其時ヨリ聖潔ニ爲リ且復活ノ準備ヲ爲スナ

リト云ヘリ蓋此教義ニ信服スル者其初メ甚タ僅少ナリシカ其後漸次ニ諸教會ニ傳播シ第十一世紀頃有名ナル神學者ニテフランスナルトウルノ教師ベレンガリウスハ此教義ニ抵抗シテ「マス」ノ麵包葡萄酒ハ唯基督ノ表號タルニ過キサレナリト論辨セシカ爲メ教會ノ紛議ト爲リ此人ハ遂ニ羅馬ニ於テ教王三代ヨリ繼キテ譴責ヲ受ケタリ紀元千二百十五年教王イシノセント第三ハ布告ヲ出シ此教義ヲ以テ信仰ノ簡條ニ加ヘタリ紀元千四百十五年イタリヤナルコンスタンスノ議會ニ於テ信徒ニ「マス」ノ葡萄酒ヲ飲マシムルヲ禁シタリ

因ニ云ク禮典ノ數ニ就テハ中古頃ヨリ種々ノ説アリ或ヒハ其數十ニナリト云フ者アレド第十二世紀頃有名ナル神學者ニテパリノ大監督タリシピトタル、ロムバルドハ「バプテスマ」晚餐ニ堅振、告解、最期品級、婚姻ノ五禮典ヲ加ヘ七禮典アリト唱ヘタリ(堅振以下ノ譯語ハ

天主教ニ用キル聖教初學要理ニ因ルニ其後教王此説ヲ以テ信仰ノ箇條ニ加ヘ永シ天主教ノ禮典ト爲ソリ

第四節 祈禱

最初ノ信徒ハユダヤ人ノ風習ニ從ヒ午前九時十二時及ヒ午后三時ヲ以テ祈禱ノ時期ト爲シ其他夜間拂曉ハ更ナリ食時ノ前後旅行ノ首途等緊要ノ事ニ臨ム毎ニ必ス祈禱ヲ行ヘリ是ヲ以テ其頃ノ諺ニ信徒ノ生涯ハ祈禱ナリ家長ハ家族中ノ祭司ナリト云ヘリ却説信徒ノ祈禱ヲ爲スニハ或ヒハ立チ或ヒハ跪キ或ヒハ平伏シテ之ヲ爲セリ蓋平伏シテ祈禱ヲ爲スハ大概斷食ノ時ニシテ是ヲ行フ者ハ兩手ヲ直伸シ其身ヲ以テ十字架ノ形象ニ表スルナリ最初教會ニテハ信徒カ祈禱ヲ爲スニハ自由ニ其意ヲ謹述セシ者ニテ成文祈禱ヲ爲スノ定式ハ未ダアラザリシナリ故ニシヨステン、マルテルハ祈禱ハ其人ノ才智ニ由テ之ヲ

第五節 聖歌

爲セリト云ヘリ然レモ第一世紀頃ニモ往々成文ノ祈禱ヲ用キシ者アリタル證據尠カラス即チロマノ監督クレメントモ其中ノ壹人ナリ  
聖歌ハ基督及ヒ使徒等モ既ニ之ヲ謳ヒシ者ニテ最初ノ信徒モ亦同シシ之ヲ謳ヘリ今日マテ傳來スル聖歌ノ中ニテ最古ナル者ハ凡ソ第二世紀ノ初頃ノ作ヲ以テ最モ古作ナリトス但シ此著者ノ姓名ハ詳カナラズ古昔聖歌ノ題號ハ基督降世及ヒ其復活昇天並ニ聖靈降臨等ニシテ大概神ヲ頌讚シ基督ヲ讚美スル者ナリ又古昔ノ著述家ニシテ聖歌ヲ著述セシ爲メ有名ナル者ハアレキサンデリアノケレメント(第三世紀)小アシヤノクレゴリナゼアンゼン(第四世紀)スリヤノエラタイム(全上)等ナリ第四世紀ニ於テ北イタリヤナルミランノ監督アマブロスハギリシヤ小アシヤノ音調ヲ用キテ當時歐羅巴ニ行ハル、聖歌ヲ改良

シ又新クニラテノ語ヲ用キテ雅麗ナル聖歌ヲ著作セリ故ニ此頃行ハ  
 レタル聖歌ハ音調甚ク拙劣ニシテ實ニ聞クニ堪ヘサル者ナリト雖モ  
 是ニ於テ巧妙優雅聞ク者ヲシテ感動セシムルニ至レリ又教王大クシ  
 ヒリモ嘗テ聖歌ヲ著作セシカ其中ニハ高妙優雅ナル者鮮カラス其他  
 聖歌著作者ニテ有名ナルハヒトデト云ヘル(第八世紀)イシグランド  
 修道院ノ教師ナリ第四世頃ヨリ漸次ニ基督ノ母マリヤヲ讚美シ之ヲ  
 以テ神母、聖女帝等ト尊崇シ遂ニ神ノ如ク敬禮スルニ至レリ故ニ中古  
 ノ聖歌ニハマリヤヲ讚美セシ者モ甚カラサルナリ

**第六節 斷食及ヒ祭日**

斷食ハ教會ニテ最初ヨリ行ハレタル此頃ハ未ク一定ノ規則ナク唯  
 信徒ノ隨意ニ任放セシカ第二世ノ季頃ヨリ大概「ノステク」派ノ所謂惡  
 ハ肉体ニ歸シ惡魔ハ肉体ニ憑リテ人ヲ管理スルトノ説ニ基キ漸次ニ

其規則ヲ設定シ教會一般ニ守ル者ト爲レリ第三世紀ニハ土曜日ヲ以  
 テ斷食ノ定日ト爲シ此日ハ凡テノ飲食物ヲ斷遏シタルニ其後規則ノ  
 嚴苛ニシテ信徒ノ守ルニ堪ヘサルカ爲メ肉類及ヒ葡萄酒ノ外ニ之ヲ  
 食スルコトヲ許シテ四旬齋ハ最初ノ教會ニテハ其定期僅カ四十時間  
 ニシテ之ヲ守ルコトハ信徒ノ隨意ニ任セシカ其後漸ク變更シ教王大ク  
 ノゴリノ時代ニ至リ遂ニ其命令ニ由テ四十日ト定メテ最初ノ教會  
 ニテハ基督復活日及ヒ五旬節ノ兩日ヲ以テ祭日ト爲セリ此兩祭日ニ  
 就テハ或説ニ使徒等モ既ニ之ヲ守レリト云ヘリ但シ使徒等カ實ニ此  
 日ヲ守リタルヤ否ハ明亮ナラサレモ要スルニ教會ニテハ其頃ヨリ既  
 ニ之ヲ守リシ者ナラシ然ルニ第二世紀ヨリ又基督死去日、基督昇天日  
 ノ兩日ヲ以テ之ニ加ヘ祭日ト爲セリ基督復活日ニ就テハギリシヤラ  
 テノ兩教會即チ東西教會ノ間ニ於テ意見ヲ異ニシ西教會ニテハ此

日ハ安息日ヲ以テ守ルヘシト主唱シ東教會ニテハ何日ニ關ラズ滿月ニ從ヒテ守ルヘシト云ヒ紛議久シク一決セザリシガニシア第一ノ大議會(紀元三百廿五年)ニ於テ西教會ノ説ヲ採リユヅヤ人祭日ヲ決スル法ニ從ヒ凡ソ四月ノ滿月后ノ安息日ヲ以テ基督復活日ト定メタリ基督降誕日ハアレキサンデリアノケレメシトノ著書ニ或人ハ嘗テ五月三十日ヲ以テ其定日ト爲サント欲セリト記載セリ(第三世紀)然レモ第四世紀頃迄此日ヲ以テ祭日ト爲シタル者アラサルナリ東教會ニテハ第四世紀ヨリ一月六日ヲ以テ基督降誕日ト爲シ西教會ニテハ全世紀ノ中葉頃ヨリ十二月廿五日ヲ以テ基督降誕日ト定メタリ其理由ハ明亮ナラサレ種々ノ説明アリ即十次ノ如シ(一)春期ニハ多ク異教徒ノ祭典アルニ由テ特別ニ冬期ニ選定セリ(二)此祭日頃ハ太陽ノ冬至線ニ達スルニ由テナリ(三)此日ハ恰モ偶像教ノ祭ニ方リ甚ク熱鬧雜沓スル

第七節 偶像及ヒ畫像

ニ由リ信徒等モ亦多ク之カ爲メ蹟ク者アレハ之ヲ避クル爲メ特ニ此日ニ定メタル者ナリ  
 教會ノ信徒ハ第二世紀頃ヨリ殉教者ノ生日ヲ守ルトテ其日ニハ殉教者ノ墓所ニ參詣シ或ヒハ其墓所ニ就キテ會堂ヲ建築シ又ハ之ヲ崇祀シテ其地ノ守護神ト爲スコ流行シ其後相尋ニテ又其畫像偶像ヲ以テ會堂ニ安置スル者アリ第五六世紀頃ニ至テハ其數稍ヤ増加シ且既ニ其像ヲ安置スレハ又隨ヒテ之ヲ禮拜セント欲スルハ人情ノ然ラシムル所ニシテ稍ヤ之ヲ拜禮スル者アリ第六世紀ニ至リ教王大クレゴリノ勢力ニ由テ教會ニ殆ント偶像等ヲ拜禮スルコト爲レリ然ルニ第八世頃ヨリ偶像破壞ノ騷亂起リ其後百年ノ間連續セリ初メ東ローマノリオ帝ノ時回々教徒等ハ基督教ノ信徒ガ偶像ヲ用ヰルヲ觀テ大ニ之ヲ

誹議セシカハ帝ハ之カ爲メ遂ニ志ヲ決シ紀元七百二十六年國內ノ會堂及ヒ路傍等ニ安置セシ所ノ偶像ヲ破壊セシム時ニ人民等ハ久シク偶像拜禮ノ習慣ニ馴染セシ者ナレハ之ヲ見聞シ大ニ驚愕シ或ヒ悲慟シ或ヒハ周章シ中ニハ帝ノ命令ニ悖リ兵士ノ或偶像ノ首ヲ斧斫セシ者ヲ劫殺シテ之ヲ裂殺セシ者アリ國內ノ騷動實ニ鼎ノ湧クカ如シ然レニ帝ハ毫モ畏憚スル色ナク遂ニ其初志ノ如クコンスタンテノアル近傍ノ偶像等ヲ破壊シタリ其後東ローマニハ偶像等ヲ用ヰルヲ欲セシテ皇帝教人相尋キテ起リ之ヲ廢滅セシト起圖シ又大議會ニ於テモ偶像ヲ用ヰルヲ撥斥セリ然ルニ教王ハ却テ此等ノ者ヲ罪シ其東ローマ諸帝及ヒ大議會ニテ偶像ヲ撥斥セシ者ヲ擧ケテ教會ヨリ放逐セリ蓋此頃ニ於テモ東ローマノ二帝及ヒ東教會ニテ有名ナル著述家ダマスコノシヨシノ如キハ皆偶像ヲ拜禮スル說ヲ主張セシ者ニシテ其勢

カモ亦強クニシテ第二ノ大議會(紀元七百八十七年)ニ於テハ再ヒ偶像ヲ用ヰルヲ決議セリ然レニ教會ニテ多クハ其決議ニ信服セス其後フラスノ或議會ニ於テモ亦偶像ヲ用ヰルヲ撥斥シ其他シヤレマシ大帝ノ如キモ自ラ神者靈也ト題スル書ヲ著ハシ偶像ヲ用ヰルノ非ナルヲ論辨シタリ然レニ西教會ニテハ遂ニ第九世紀頃ヨリ一般ニ偶像ヲ拜禮シ東教會ニテモ亦其頃ヨリ一般ニ畫像ヲ拜禮スルヲ行ハシタリ

因ニ云ク右ニ記載セシ禮典ノ副式等ノ教會ニ流行セシ理由ニ就テハ種々ノ考案ヲ下シ之ヲ論辨スル者鮮カラサレニ要スルニ左ノ三條ニ出テス(一)無學ノ者ヲ教悔スル爲メ即チ無學ノ者ニ基督ノ死去及ヒ聖靈ノ感導ヲ示スニ十字架、塗膏等種々ノ形象ヲ用ヰテ之ヲ顯彰シ且中古頃ニハ聖書ノ事迹ヲ以テ演劇ニ造リ俳優等ヲシテ演セ

シメシコアリ此等ノ爲メ幽遠無形ナル基督教モ變シテ明顯有形ナル者ト爲レリ(二)偶像教徒ニ諂諛スル爲メ即チ偶像教徒ハ嘗テ莊嚴ナル禮式ヲ以テ國神ニ拜禮セシ習慣ニ馴染シ常ニ基督教ヲ以テ質朴ナリト爲スカ故ニ教會ノ教師等ハ此等偶像教徒ヲ轉教セシムルニハ玄奧ナル教義ヲ説キ宏大ナル禮式ヲ用キルコソ便利ナリト思惟シ教會ニ偶像教ノ禮式ヲ用キルコソ許可セリ是ヲ以テ中古以還ノ教會ハ偶像教混合ノ者ト爲レリ(三)舊約聖書ノ教義ヲ誤解セシカ爲メ即チ新約ノ表号ナル舊約ノ禮式等ヲ以テ教會ノ必ス守ルヘキ者ト信セシ故ニ教師ヲ以テ祭司ト稱シ又祭服、香壇、犧牲等ニテ教ノ禮式ノ如キ者ヲ漸々教會ニ用キルコソ至レリ

第四章 政治

第一節 最初ノ政治

最初教會ノ政治ハ長老ニ由テ行ハレタル者ニテ使徒行傳廿章ノ十七節及ヒ廿八節ヲ參觀スレハ長老ハ又一名ヲ監督ト云ヘリ蓋長老ハ階位ヲ指シ監督ハ其職掌ヲ指ス名稱ナリ却説此長老ナル者ハ每教會ニ數人アリ唯一人ニ限ル者ニアラス(使徒十四ノ廿三、十六、四、廿ノ十七多一ノ五雅五ノ十四前彼五ノ一)且每教會ニ皆長老ノ一班アリテ其政治ヲ掌トルコハケレメントイレニウスセロム等ノ著書ニモ記載セリ提摩太前書五章十七節ニ據ルニ長老ニハ教會ヲ管理スルト講義ヲ爲ストノ兩種ノ別アリ甲ノ長老ハ專ラ教會ノ政治ヲ掌トレトモ乙ノ長老ハ教會ノ政治ヲ掌トルノミナラス特ニ講義ヲ務ムルノ任アリ然レト又提摩太前書ノ三章二節全後書二章ノ廿四節ヲ觀ルニ長老ナル者

ハ凡テ講義ヲ爲スヘキ器量ヲ有セサルヘカヲサル者ノ如シ執事ハ教會ノ貧者及ヒ病人等ヲ救恤スル爲メ設置セシ者ナリ(使六ノ一至七前提三ノ八至十三)抑モ基督教會ノ政治ニ就キテ研究スルハ愛ニ讀者ノ宜シク記憶スヘキ一事アリ即チ基督教ノ教會ハ諸處ニ建設セルニダヤ教ノ會堂ニ象リテ建設セシ者ニテ舊約ノ神殿ニ象リタル者ニアラズ是ヲ以テ教會ノ聖員ハユダヤ教ノ長老ニ類似シ神殿ノ祭司ニ類似スル者ニアラサルナリ故ニ新約聖書ニハ信徒ヲ以テ祭司ト稱セシコハアラサルナリ且(前彼二ノ九)ハアレヒ聖役員ヲ以テ祭司ト稱セシコハアラサルナリ且長老監督ノ名稱ハ使徒以還百年間許リ互ニ交用シテ敢テ區別ナキコハ證據明白ナル者ナリ

**第二三世紀中政治ノ沿革** 第二世紀ニ方リテアレキサンデリア教會ニ於テ講義ヲ爲ス能ハサル者ヲ選舉シテ長老ニ任セシコアリ又此頃

ヨリ始メテ長老ト信徒ノ區別ヲ定メ其教會ニ於テ講義ヲ爲シ長老會ノ議長ヲ務ムル者ヲ指シテ監督ト云ヘリ蓋是レハ各教會ニ唯一人ト止ル者ナリ長老タル者ハ凡テ講義ヲ爲サハルヘカヲサル職務ナレト漸次ニ其勢ノ變遷スルニ及ビ特別ニ講義主任ノ長老ヲ撰擧シ之ニ講義ヲ委任セリ是ヲ以テ講義主任ノ長老ハ他ノ長老ヨリ優等ノ地位ヲ占メ遂ニ特權ヲ有スルニ至レリ第二世紀ノ季頃ヨリ始メテ監督ヲ以テ祭司ト稱シ第三世紀頃ニハ信徒等多ク之ヲ以テ舊約ノ祭司ノ如ク神人兩間ニ中保スル者ト信セリ羅馬ノ監督ケレメントハ此説ヲ開發セシムル爲メ大ニ辨論ヲ勉メテ抑モ監督ハ第一第二世紀頃マテハ唯教會ノ牧師タルニ過キサリシカ祭司ト稱セシ以來遂ニ神ニ對シ信徒ノ保惠師ト爲リ晚餐ノ麵包葡萄酒ヲ以テ犧牲ト稱シ其机ヲ祭壇ト稱スルニ至リタルハ勢ノ止ム能ハサル所ナリシナラシ却説監督ハ是



ヨリ怡モユダヤ教ノ祭司ノ如シ華麗ナル祭服ヲ着シ高位ヲ占メ大ニ  
 人民ノ崇敬ヲ受ケタリ第三世紀ニハ信徒等三種ノ聖役ヲ以テユダヤ  
 教ニ比較シ監督ハ祭司長長老ハ祭司執事ハ利未人ニ準スル者ノ如ク  
 思惟セリ然レモ此頃此等ノ聖役員ヲ任スルニハ信徒一般ノ公選ニ由  
 テ之ヲ舉ケシヨハ證據多カリシカ之カ爲メ選舉毎ニ屢ハ紛議ヲ生シ  
 或ヒハ人命ヲ傷害スルコトモ鮮カラス特ニ羅馬ノ如キハ其弊最モ盛ナ  
 リシカ其後此法ヲ一變シ聖役員ヲ補欠ヲ爲ス時ハ先シ聖役員中ニテ  
 協議シ其人ヲ選舉セシ後信徒等ニ報告シ其承諾ヲ得ルコト爲セリ故  
 ニ西教會ニテハ選ニ教會ノ政治ヲ舉テ聖役員ヲ專有ニ歸セシメ信  
 徒ハ至リ其權ヲ失フニ至レリ第三世紀頃ヨリ教會ニハ其事務ヲ整理  
 セシムル爲メ種々ノ屬員ヲ設置セリ即チ次々如キ(一)下執事(二)即チ執  
 事ヲ補翼スル者(三)埋葬者(四)即チ死者ヲ埋葬スル者(五)讀者(六)即チ書類

ヲ騰寫シ又會堂ニテ朗讀ヲ爲シ且書庫ヲ掌トル者(四)同答教師 即チ  
 生徒ニ問答書ヲ以テ教授スル者(五)驅魔者 即チ惡魔ヲ驅逐スル者(六)  
 「アコライテ」ハ即チ監督ニ隨從スル者チリ然レモ其他監督以上種々ノ  
 聖役ニ至リテハ此後ニ設置セシ者ナリ

第二節 監督政治ノ興起

監督政治ナル者ハ漸次ニ世ヲ逐テ發達セシ者ナリ抑モ最初都會ノ  
 地ニ起リタル教會ハ大概使徒等ノ建設セシ者ナルニ田舎ノ教會ハ多  
 シ都會ノ教會ヨリ出タル傳道者ノ盡力ニ由テ建設セラレタル者ナレ  
 ハ此等ノ教會ハ常ニ都會ニ在ル所ノ教會ニ依賴シ其周旋忠告等ヲ受  
 ケタリ是ヲ以テ都會ノ監督等ハ自ラ監督ノ首席ヲ占有シ又財産ノ富  
 饒ナル等ヲ恃ミ田舎ノ監督及ビ教會ヨリ上告スル所ノ紛議ヲ措置セ  
 シカ故ニ後年ニ至リテモ都會ノ監督等ハ此等ノ權力ヲ放棄スルニ忍

ヒス之ヲ維持スルニ汲々ヲリシナリ然レニコンスタンティン大帝ハ此政治ヲ擴張シ羅馬帝國内ノ教會ヲ大別シ四大教區ト爲シ羅馬アレキサン德里アアンテオクコンスタンティノブルノ四監督ヲ以テ此諸教區ノ長ト爲シ之ヲ「ペテリアルク」即チ師父ト稱シ又其大教區ヲ分チ若干中教區ト爲シ區毎ニ大監督ヲ置キ又其中教區ヲ分チ若干小教區ト爲シ區毎ニ監督ヲ置キ以テ教會ヲ整理セシメシカ此時監督ノ數既ニ數千人アリ但シ此監督ナル者ハ牧師ノ上ニ位スル者ナリコンスタンティン大帝ハ教會内部ノ事務即チ教化禮式管理法等ハ凡テ教會ノ聖役員ニ委託シタル也其外部ノ事務即チ監督ノ教區出納及ヒ監督ノ給料等ニ至リテハ皆親之ヲ裁定シ而シテ教會ニ從事スル者ハ清素自ラ守リ敢テ斯クノ如キ世事ニ干渉スヘカラスト云ヘリ

第三節 教王政治ノ興起

教王政治ナル者ハ監督政治ヨリ漸次ニ變遷興起セシ者ナリ蓋既ニユダヤ教ノ祭司ヲ以テ基督教監督ノ表号ト爲ス時ハ基督教ニモ亦ユダヤ教ノ祭司長ノ如ク教會ヲ一統スルノ監督長ナル者無ルヘカラスト思惟スルハ教ノ免レサル所ナリ是ニ於テ羅馬監督ハ其地ノ歴世帝王ノ都ニシテ且富饒開化勢力等ノ淵藪ナルヲ特ニ諸教會ノ監督等ヲ凌駕シ自ラ其首長ヲラント起念セリ然レニ監督ケレメントノ著書ノ如キハ敢テ其身ヲ以テ特別ニ他ノ監督等ヨリ優等ナル者ト爲セシ證據ハアラサルナリ例ヘハ其コリント教會ニ贈リタル書簡ニモ敢テ命令ノ語ヲ用キス唯其兄弟ニ贈ル者ノ如ク羅馬教會ノ名ヲ署シテコリント教會信徒ノ一致協同シテ互ニ相愛センコトヲ勸奨セリ且古昔ノ著述家ハ羅馬監督ノ事ヲ記載スルニ多ク尊崇ノ辞ヲ用キタル也之ヲ以テ特別ニ他ノ監督ヨリ優等ナル者トハ爲サ、ルナリ又カアルテザノ監督

シリアンハ監督政治ヲ主張スル者ナレモ亦羅馬監督ヲ以テ諸監督ノ首席ト爲ヘシト云ヒシ耳ニテ敢テ之ヲ以テ特別ニ尊敬スルコトヲ欲セサリシナリ却説アンテオケカルテ等ノ監督ハ數百年ノ間羅馬ノ監督ト並等ノ權力ヲ有テ羅馬ノ監督カ屢ハ其身ノ他ノ監督等ヨリ優等ナルコトヲ主張シ此等ノ監督ヲ服從セシメント盡力シタレモ監督等ハ之ニ抵抗シ敢テ服從セサリシナリ

教王權力ノ增長

羅馬教王ノ權力增長セシ理由ハ三個ニシテ即チ次

ノ如シ(一)羅馬人ハ古昔ヨリ教法ノ教師ヲ尊敬スル風習アリ故ニ基督教ノ流行スルニ及ヒ信徒等ハ從來異教ノ教師ヲ敬崇セシ心ヲ轉シ教會ノ教師ヲ尊崇シ且都會ニ居ル監督ノ勢力祭服等ノ顯赫華美ナルヲ觀テ教師ノ長ト尊稱シ大ニ之ヲ敬禮セリ(二)羅馬ノ監督ハ都會ノ監督ナルヲ以テ諸教會ヨリ紛議ノ起ル毎ニ之ニ上告セシニ由テナリ

羅馬帝國ヲ分ナテ四大教區ト爲シ各自ニ獨立セシムルコトハ既ニニシ  
 アノ大議會(紀元三百廿五年)ニ於テ之ヲ議決シタレモ其後羅馬教王カ  
 自ラ其身ヲ以テ特別ニ高貴ナル者ト爲シ各教會ヲ以テ其權下ニ服從  
 セシメント主張セシコトハ何世紀頃ニ始マリタルヤ其起原明白ナラサ  
 ルナリ第五世紀ノ初頃羅馬ノ監督インノセント第一ハ羅馬ノ教廳ハ  
 使徒ノ建設セシ者ナレハ諸監督ノ勢力ノ根本ナリ且各教會ノ上告ヲ  
 受クヘキ者ナリト主張シ又其勢力ヲ特ニ「ピレヤアン」派ノ説ヲ擯斥セ  
 リ然レモ諸教會ノ者ハ之ヲ以テ不當ノ事トシ敢テ肯諾セサリシナリ  
 却説教王ノ權力著シク增長セシコトハ凡ソ四次ニシテ即チ左ノ如シ  
 (一)第一次ハ大リオ(紀元四百四十年至全四百六十一年)ニ由テ擴張セシ  
 者ニテ尙教王教會ヲ發起セシ者アリト仮定セハ實ニ此人ヲ以テ發起  
 者ト云ハサルヘカラス却説此人ハ固ヨリ羅馬ノ生レニシテ監督選舉

ノ時唯信徒等ノ喝采ノミニ由テ選舉セラレタル者ナリ此頃羅馬帝國ハ既ニ衰運ニ傾キ將ニ滅亡セントシ又東教會ニハ教義ニ就キ大ナル紛議起リ且ゼロムアウグステン等有名ナル教師ハ皆死去シ舉世人物ニ乏シク所謂暗時代ト稱セシ時ナルニ大リオハ獨リ其才幹、權力ヲ恃ミ大ニ教會ノ禮式ヲ改良シ宏莊ナル者ト爲シ且ラテン語ヲ以テ拜禮ノ儀式上ニ使用シ又聖書ノ講義ヲ爲セリ却說此人カ基督ヲ以テ中心ニ建テ講義セシコハ痛シク羅馬ノ弊風ヲ規諫セシ者ニテ其論說甚ク巧妙ナレハ今日マテ傳レリ然レモ此人ハ自ラ羅馬教王ハ聖ペテロノ法裔ニシテ其盤上ニ教會ヲ建設セシ者(太十六ノ十八)ト主唱シ遂ニ羅馬帝ウレノテニアン第三ニ勸メ帝ヲシテ羅馬ノ教廳ハ他ノ諸教會ノ爲メ法律ヲ制定シ且之ニ據リテ各教會ヲ綜理スル者ナリトノ布告ヲ出サシメタリ又「アリアン」派及ヒウングル族ノ紛亂ニ乘シ「阿弗利加」ノ

諸教會ヲ併呑シ又其權力ヲ擴張シ東教會ノ三教區ニ迄弘衍シ東西教會ニテ大議會ヲ開設スル時ハ「ロマ」ヨリ其大使ヲ派遣シ其議長ト爲サシメタリ却說此人ハ嘗テ「ホン族(匈奴)ノ酋長アッテラカロマニ侵入セシ時親ラ祭服ヲ着ケテ其陣營ニ至リ之ヲ説キテ其兵ヲ回旋セシメタルニ由テ「ロマ」人ノ爲メ大ニ尊崇セラレタリ

「ポーア」(父ノ意即チ教王)ノ名稱ヲ用キシ時代ヲ釋スルニアレキサンデリアノ監督ニテハ古昔ヨリ之ヲ用キタレモ「ロマ」ノ監督ニテハ第六世紀頃ヨリ始メテ之ヲ用キタリ抑モ古昔ノ教王ハ信徒一般ノ選舉ニ由テ其位ニ登リシニ第十一十二世紀頃ヨリ今日ノ如ク「カルデナル」即チ教宰ヨリ選舉セラレト爲レリ古昔ノ教王ハ大概「ロマ」ノ貴族ヨリ出テ巨大ナル不動產ヲ所有セシ故ニ「ロマ」人ハ大ニ之ヲ尊敬シ恰モ君主ノ如ク思惟セリ

〔二〕第二次ハ教王大グレゴリ(紀元五百九十年至紀元六百四年)ニ由テ擴張セリ抑モ此人ハ天資執迷ニシテ信徒ノ遺物ヲ貴重スル僻アリト雖モ其爲人敬虔ニシテ熱心ナル信仰ヲ有シ仁愛ノ志深ク貧者ヲ救恤スルニ方テハ其財産ヲ吝ムコトナク又人ニ向キテモ施捨ヲ爲スコト勸ムルノ特質アリ且此頃歐羅巴ニハ西羅馬帝國既ニ滅亡シ諸大國ハ未タ興起セス諸邦皆戰鬪搶奪ヲ事トシ文事ニ阻勉スル者アラサルニ獨リ此人ハ卓越ノ英才ヲ以テ文章學問ニ通達セシカハ世人ノ爲メ最後ノ有名ナル能文著述家ト稱セラレタリ却說其教會ヲ整理スルニ及ヒ極メテ方正ナル政治ヲ行ヒ教會ノ拜禮式ヲ改良シ高雅ナル聖歌成文祈禱及ヒ「マス」ノ式例書等ヲ著述セシカ其中ニハ重ニ信徒ノ行フヘキ愛徳祈禱及ヒ喜捨等ノ事ヲ記載セリ且此人ハ教王在職中ニ於テ其力ヲ以テ嘗テ或人ノ主唱セル煉獄ノ說ヲ信仰ノ個條ニ加入セリ蓋其一世

中功業ノ大ナル者ヲ舉クレハ教會ト政府トノ關係ヲ斷テシコト是ナリ初メ大リオハ處々ニ分裂セシ教會ヲ以テ其權下ニ一致スルコトヲ得クレモ未タ政府ト教會ノ關係ヲ分離セシムルニ至ラザリシカ大グレゴリハ其權力ヲ以テ政府ト教會ノ關係ヲ解キ各自獨立ノ者ト爲セリ是ヨリ以來教會ニテハ數百年ノ間其獨立ヲ鞏固ナラシムル爲メ盡力シ遂ニ其功ヲ奏スルニ至レリ却說此人ノ時羅馬ノ都府ヲ別テ十四教區ト爲シ又之ヲ小分シ三十小教區ト爲シ六十六人ノ祭司ヲ置キシカ其後數百年ヲ經テ十四教區ニ一人宛ノ教宰ヲ置ケリ是レハ一教區内ノ地頭職ノ如キ者ニテ各其區内ヲ管理スル者ナリ故ニ或者ハ大グレゴリヲ以テ教王ノ世事ニ干涉スル濫觴ナリト云ヘモ其証據ハ明亮ナラサルナリ蓋教王ノ權力ハ此時ヨリ大ニ増加シ教會ノ政治ハ全ク其掌握ニ歸シ例ヘハ大議會ヲ開キ教務ヲ議スルコトヲ廢セシ(信徒ノ自由

チ妨害ス等ノコチ行ヒタレニ當時一人モ之チ支梧抵抗スル者アラズ  
 リシナリ又此頃報告全書ナル者チ頒行セリ此書ハ古昔ヨリ教王ノ權  
 カニ由テ大議會ノ時決議セシ所ノ報告チ蒐輯セシ者ニシテ中ニハ眞  
 偽錯雜セシ者ナキニアラサレニ要スルニ大ニ教王ノ權力チ鞏固ニス  
 ル者ナリ且此書中ニテ最モ有名ナル者ハ著述家イシドルノ書ナリ第  
 九世紀頃羅馬ニ於テ古昔コンスタンテン大帝カロマ及ヒイタリヤ諸  
 國ノ地チ以テ教王シルヴェステル第一ニ授與シ之カ爲メ其都チコンス  
 タンテノブルニ遷セシコト及ヒ其授與セシ所ノ證書チ發見セル等ノ說  
 アリ教法改革後ニ至ルマテ此說チ信セシ者アリシカ其後ニ至テ此等  
 ハ全ク後人ノ偽造セシ者ナルコト明瞭ニナリタリ紀元七百五十五年フ  
 ランスノピハンナル者其侵畧セシロンバルド等ノ地チ以テ教王ニ授  
 與セシカ紀元七百七十四年ニ至テシヤレマン大帝ハ此事チ批准セシ

耳ナラス更ニ又其他ノ地チ以テ教王ニ授與セリ故ニ或者ハ教王ノ世  
 事ニ干渉スルハ此頃ヨリ始マリシ者ナラント云ヘリ

(三)第三次ハ教王ヒルデブランド即チグレゴリ第七(紀元千〇七十三年

至今千〇八十五年)ニ由テ擴張セリ此人ハイタリヤナルトスカニノ工  
 匠ノ子ニテ若年ノ頃フランスノ有名ナルシルニノ修道院ニ入り神學  
 チ修メ學問該博ニシテ且羅馬人ノ氣風アルコト大リオ大グレゴリニ似  
 タリ其後教王ニ選舉セラル、ニ及ヒ數人ノ學者チ招聘シ以テ其參與  
 議員ト爲セリ又嘗テ教會政治チ論セシ說ニ教會ハ都テ神ノ管轄スル  
 者ナレハ神ハ即チ教會ノ君主ニシテ教王ハ其代理チ爲ス者ナリ聖ペ  
 テロハ唯教會ノミナラス萬國チ舉テ管轄スル者ナレハロマ教王ハ固  
 ヨリ世界萬國ニ君臨スヘキ權利アリト又其權力ニ由テ教宰ノ教王チ  
 選舉スル方法チ制定セリ蓋此教宰ナル職員ハ紀元千〇五十八年教王

ニコラス第二ノ時始メテ設置セシ者ニテ原トハ其人員僅少ニ過キカリシカ其後漸次ニ増加シ七十人ト爲シ又之ヲ區別シ教宰監督教宰長老教宰執事ノ三職ト爲セリ時ニトスカニ女侯マテルダナル者ハ其地ヲ以テ教王ニ授與セリ先是教會ノ政治ハ大ニ廢頽シ金錢ヲ以テ教會ノ聖役ヲ賣買シ又祭司ニシテ妾ヲ蓄ヘ之ヲ以テ嫡妻ト認ムル等ノ惡弊アリケレハヒルデブランドハ其權力ヲ恃ミ此等ノ惡弊ヲ矯正セシト爲セシニ信徒等ハ之ニ服従スト雖モ祭司等ハ抵抗ノ念ヲ起シ又諸國君長ノ中ニモ此人ニ服従スルヲ欲セサル者アリ遂ニ侵迫シテ教王ヲサレルノ地ニ幽囚セリ然ルニヒルデブランドハ配所ニ於テ將ニ死セントスルニ臨ミ我ハ常ニ義ヲ愛シ惡ヲ嫉ミタルヲ以テ幽囚ノ中ニ死スルト云ヘリ

〔四〕第四次ハ教王インノセント第三紀元千九百九十八年至全千二百十六

年ニ由テ擴張セリ是レ教權ノ極度ニ達セシ時ナリ初メ此人ハロマノ貴族ニシテロマ及ヒフランスノバリニ於テ神學ヲ脩メ後遂ニ教王ニ選舉セラル其品行ハ純清潔白ナレモ粹然タルロマ人ノ氣象アリ教王ヒルデブランドノ遺説ヲ守リ常ニ世事ニ干涉シ教權ヲ擴張セントノ大望ヲ抱キ教王ニ選舉セラレシ以來其權力ヲ恃ミ諸大國ノ政治ニ干渉シ例ヘハ或國王ヲ廢シ其國ヲ以テ他ニ授與スル等ノ事ヲ行ヒタリ然レモ諸國ノ君主大臣等尙其指揮ニ從ハサル者アレハ忽チ其國內ヲ制禁シ「バプテスマ」ヲ行フノ外教會一切ノ禮式ヲ行フヲ停止シ會堂ヲ閉チ公同ノ祈禱ヲ禁シ禮式ヲ以テ死者ヲ埋葬スル等ノ事ヲ許サレサルヲ以テ諸國ノ人民等ハ大ニ畏懼絶望シ其權下ニ服従スル者二億萬人ニ超過シ教王ノ權力ハ實ニ此時ニ於テ其隆盛ヲ極メタリ

此頃詰問所、大學校、巡歴派教師ノ三大定例起レリ此等ハ皆歐羅巴歴史

中ニ於テ最モ顯著ナル者ナリ

因ニ云ク教王政治ノ利害即チ教王ハ必要ナルヤ否ノ問題ニ就キテ  
論スルニ古昔學者カ多ク教王ヲ以テ自由ノ發達ヲ妨ケ凡テノ人情  
ニ害アリシ者ト云フハ實ニ妥當ノ論理ナレモ又退ヒテ考按スルニ  
教王ノ勢力強盛ナルニ由テ文學ノ進歩ヲ補翼シ又國王貴族等ノ歷  
制ヲ防キ平民ヲ保護セシ等ノ事アルニ由リ實ニ中古時代ニ必要ナ  
ル者ニシテ全ク無益ナリトハ云フヘカラス蓋其已ニ服從セサル信  
徒及ヒ教派ヲ凌虐セシ事ニ至テハ其惡害掩フヘカラサル者ナリ  
教王ハ聖ペテロヨリ今代ノ教王ニ至ルマテ百五十四世連綿セリ教  
王ニ三個ノ法冠アリ是レハ預言者祭司及ヒ王者ノ職ヲ表号セシ者  
ナリ

第五章 教會ノ生命及ヒ道德

第一節 愛德

一 施捨 基督在世ノ頃各國皆道德腐敗シ仁愛ノ心ハ殆ト地ヲ拂ヒ  
ニダヤ人ノ如キハ舊約聖書ノ教ヲ守レハ固ヨリ施捨ヲ行フヘキ者ナ  
レモ亦久シク其教ノ主意ヲ誤解シ設令貧民孤兒寡婦及ヒ旅客等ヲ救  
恤スルヲアレモ多クハ世ノ名譽ヲ博セント欲スル利己心ニ過キカル  
耳然ルニ基督信徒ハ最初ヨリ相愛ノ道ヲ守リ勉メテ仁愛ノ作動ヲ爲  
セリ當時教會中ニ流行セル愛ノ筵席ハ蓋ユダヤ人カ親戚朋友ヲ招キ  
會宴スル時賓客ノ將ニ退散スルニ方リ主人ヨリ麵包及ヒ葡萄酒ヲ饗  
シ祝辭ヲ爲ス風習ニ倣ヒタル者ナラノ最初ノ教會ニテハ其貧民等ヲ  
救恤スル爲メ別ニ執事ナル職員ヲ設ケ(使六)又教會中ノ孤兒ハ教會ノ  
帳簿ニ記載シテ之ヲ養育シ特ニ殉教者ノ孤兒等ハ信徒ノ中ニテ已ノ



眞實ナル子弟ノ如ク認メテ之ヲ養育セリ又斷食ノ式ヲ守ル爲メ無用ニ屬スル者アレハ皆之ヲ貧民等ニ施與シタリ第二世紀頃羅馬ニ劫盜ノ横行セシ時其地ノ教會ノ執事ラウレンスハ其會堂ニ貯蓄セシ所ノ金錢ヲ以テ盡シ貧民等ニ施捨シ暴徒等カ或日會堂ニ襲來シ其金錢ヲ強奪セントシケレハラウレンスハ三日間ノ猶豫ヲ求メ再ヒ暴徒等カ來ルニ及ヒ許多ノ老人孤兒及ヒ善者等ヲ出シ之ニ示シテ汝曹我カ財寶ヲ觀ルヘシト云ヒ遂ニ暴徒ノ爲メ焚殺セラレタリ第三世紀ノ中葉羅馬ノ教會ニテハ千五百人ノ貧民ヲ救助シ第四世紀アンテオケノ教會ニハ貧民ノ外、娘女寡婦等三千人ヲ養育シアレキサンデリアノ教會ニテハ二千五百人ノ貧民ヲ救助シ其他有志者中ニテ自ラ金錢等ヲ擲テ教會ノ執事ニ由ラスシテ貧民ヲ救助セシ者許多アリ然レモ教會及ヒ有志者ニテ貧民ヲ救助スルニハ一個ノ規則アリ即チ其貧民ハ悉ク

其力ニ堪ユル勞役ヲ爲スヲナリ抑モ教會ニテ斯クノ如ク貧民ヲ救恤セシ理由ヲ釋スルニ一ハ此イタリヤ地方ニハ古昔ヨリ貧民ノ多少輻輳セシ所ナルヲ以テ著述家タシトスカ營テ大都會ノ禍福ハ風力ニ由テ發生スト云ヒシ如クエシプト地方ヨリ此イタリヤニ向キ食糧ヲ運漕スル船舶ノ倘不時ノ風波ノ爲メ速ニ來着スル能ハサル時ハ貧民等困窮甚シク爲メニ騷擾ヲ起スト甚カラサルニ由テナリ實ニ此騷擾ノ爲ニハ彼ノカイサル、アウグスト帝ノ如キ者ト雖モ其猖獗ヲ怖レ自殺セント欲セシコアリタリ却説教會ニテ施捨ヲ爲ストニ就テハ古昔ノ教會著述家モ多ク之ヲ記載シ偶像教徒ノ者モ亦屢ハ之ヲ感賞セシ所ナリ然レモ或者ハ營テ教會ノ救恤ヲ以テ他ノ邪惡ノ爲メ感セラレテ行フ者ナリト誹謗セリ故ニテルトリアンハ之ニ答ヘテ我儕ノ救恤ハ汝曹ニマテ普及スル者ニテ唯教會ノミニ止ラサルナリ抑モ我儕カ道

路ノ者ノ爲メ施捨スル金額ハ實ニ汝曹カ偶像ニ奉スル金額ニ超倍セ  
 リト云ヘリ蓋此人カ斯ク述ヘタル所以ハ偶像教徒ニテモ固ヨリ道路  
 ニ彷徨スル子女ヲ救恤セサルニアラサレトモ此等ハ其後ニ至リ大概娼  
 妓俳優等ノ者ニ販賣セラルレトモ教會ニテ救恤セシ者ハ後來皆國家ノ  
 良民ト爲リタルニ由テナリ第三世紀頃アレキサンデリアニ大ニ疫病  
 ノ流行セシニ方テ偶像教ノ者ハ其傳染ヲ恐レ疫病ニ罹ル者アレハ親  
 戚朋友ト雖モ之ヲ棄テ逃避シ或ヒハ其病ニ罹リタル者ノ尸骸ヲ捨棄  
 シテ狗糞ノ餌食ト爲シ致テ顧ミル者ナク或ヒハ其病人ヲ舁ケテ巷街  
 及ヒ公園ノ中ニ捨去ル者アリ其殘忍無慚ナルヲ實ニ名狀スヘカラス  
 之ニ反シテ教會ノ者ハ教師長老ヨリ一般信徒ニ至ルマテ深ク之ヲ憐  
 恤シ晝夜病者ノ傍ニ群集シ心ヲ盡シテ看護ヲ爲シ尙死亡者アレハ禮  
 式ヲ以テ埋葬セリ是ヲ以テ信徒ノ中其疫病ニ傳染スル者モ亦鮮カラ

サルナリ其頃カレテザニモ亦疫病流行セシニ教會ノ者ハアレキサン  
 デリアノ教會ノ者ノ如ク晝夜心ヲ盡シ偶像教ノ患者ヲ看護セシカ却  
 テ偶像教徒ノ爲メ告訴ヲ受ケ大ニ迫害セラレタリ其他第四世紀頃ニ  
 於テ諸方ノ教會ニ此等ノ所業ヲ爲セシト許多アリ

二 施療院

或說ニ支那ニテハ

基督以前ヨリ既ニ此定例ノ行ハレタ

ルコト唱フレトモ或學者嘗テ深ク其實事ヲ探究セシニ之ハ全ク普通ノ  
 病院ニシテ施療院ニアラス真正ナル施療院ハ即チ第四世紀ニカバド  
 キアナルカイザリヤノ監督大バシル及ヒスリヤナルエデッサノ修道者  
 エフライムノ建設セシ者ヲ以テ嚆矢トス大バシルハ紀元三百七十年  
 始メテカイザリヤニ於テ施療院ナル者ヲ建設セリ抑モ亞細亞西部  
 ノ諸國ニハ古昔ヨリ癩病ニ罹ル者甚ク許多ナリシニ其地方ノ者ハ此  
 等ノ者ヲ逐フテ市街ニ隔遠シタル寂漠タル寒僻ノ村舎ニ遷移シ敢テ

他人ト交通スルヲ許サズ實ニ惘然ノ形狀ナリケレハ監督大バシルハ  
 深ク之ヲ憐憐シ施療院ナル者ヲ建設シ此等ノ者ヲ入院セシメ親ラ之  
 ナ訪問シ治療セシメタリ又エフライムハ其頃スリヤニ饑饉大ニ行ハ  
 レ餓死スル者道路ニ相望ミケレハ深ク之ヲ憐恤シエデツサノ公園内ノ  
 休息所ニ於テ三百許ノ臥榻ヲ設ケ餓死セントシケル者ヲ療養セシメ  
 ヲリ然ルニ其後教會ニテハ施療院、貧院等ヲ建設シ病人、老人、小兒、旅客  
 等ヲ救養スル者相尋キテ諸處ニ起リコンスタンテノアルノ監督キリ  
 ソストムハ其地ニ於テ若干ノ施療院ヲ設置シ當時ノ女帝及ヒ教會並  
 ニ貴族ノ婦女ヲ施療シタルヲアリ其後處々ノ修道院ニテハ修道者心  
 ナ盡シ貧且病アリテ自ラ養療スル能ハサル者等ヲ救恤セシテ以テ修  
 道院ハ恰モ貧民ノ逃避所ノ如ク爲レリ

三 出納 信徒ノ教會ニ寄附スル金額ハ固ヨリ其隨意ニ任セシニ由

テ信徒ハ每週又ハ毎月ニ其力ニ應ジ之ヲ寄附シ使十一ノ廿九前哥十  
 六ノ二)中ニハ巨大ノ金銭ヲ出ス者アリ即チ彼ノマルシオンノ如キハ  
 嘗テ羅馬ナル教會ニ四千餘圓ノ金ヲ出セシコアリ蓋此人ハ或歴史ニ  
 瞭然タルカ如ク其後ノステツ「派」ニ入り教會ヨリ放逐セラレシテ以テ  
 其金モ亦返却セラレタリ其他又傳道者或ヒハ教師等ノ聖役ニ就ント  
 欲スル者ハ彼ノバルナバ(使四ノ卅六七)ノ如ク特別ニ其財産ヲ以テ盡  
 シ教會ニ寄附スル者アリ然レモ此等ノ金銭等ハ凡テ義捐金ト稱シ第  
 四世紀ノ初頃マテハ隨ヒテ集マレハ隨ヒテ費ヤセシテ以テ教會ノ財  
 産ナル者ハアラカリシナリ然ルニコンスタンテノ大帝以後ニ至リ諸  
 方ノ教會又ハ修道院ニ於テ許多ノ財産ヲ貯蓄スルヲ始マレリ蓋コン  
 スタンテノ大帝以後ト雖モキリソストムノ如ク教會ニ財産ヲ貯蓄ス  
 ルコト否ニ教會ノ費用ハ凡テ主ニ由テ需ムヘキ者ナレハ義捐金ニ集

マルニ隨ヒ消費スヘシト論辨セシ信徒モ亦擲カラサルナリ却説最初ノ教會ニテハ斯クノ如ク其財産ヲ擲テ貧民等ニ施捨セシニ由テ偶像教徒モ多ク轉教シテ教會ニ加入セリ

四 愛德ノ波及

教會ニ行ハレタル愛德ノ其頃羅馬ノ法律定例及ヒ

著述家ノ論說ニ波及セシコトハ實ニ鮮少ナラサル者ナリ今茲ニ其一班ヲ記載センニ古昔羅馬ノ學者等ハ德ノ定義ヲ解釋スルニハ唯誠實、正直、純正等ノ語ヲ用キ未タ嘗テ相愛ノコトニ及フ者アラザリシニ彼ノ第一世紀使徒パウロト同時ニ出タル學者セニカハ其著書ニ自然ハ我儕ノ爲メ相愛ノ規則ヲ制定スル者ナリ人ハ凡テ他人ヲ以テ聖潔ト爲ルヘシ即チ人タル者ハ他人ヲ愛セサルヘカラスト記載シタリ蓋是レハ不信者ノ斯クノ如キ説ヲ唱道セシ始メナリ又第二世紀ノ學者エピクトラスハ我儕ハ凡テ兄弟ナリト云ヒマルシス、アウリ、ウス、アントナ

イヌスハ我ハ羅馬人ニテ我國ハ羅馬國ナリ人類トシテハ世ヲ愛スルト云ヒ且仁愛ヲ以テ神体ナリト想定シ一祠ヲ建テ之ヲ祀レリ以上諸學者ハ斯クノ如キ説ヲ主張スト雖モ遂ニ不信者ヲ以テ了レリ又コンスタンティン大帝以前ニ教會ノ良俗羅馬帝國ノ法律等ニ波及セシコトヲ舉レハ從來此國ニテハ人民其子女ヲ殺害スルノ惡弊アリシニ政府ハ此惡弊ヲ禁止シ又第二世紀頃ニ至テハ較技者カ武具ヲ裝フテ決闘スルコト及ヒ人民ノ其奴隸ヲ殺害スルコトヲ禁止シ奴隸ト雖モ法律ノ保護ヲ受ケシメタリ却説此奴隸ノコトニ就テハキリソストムカ嘗テ使徒ノ之ヲ論及セサル理由ハ人ヲシテ靈魂ノ自由ヲ貴重スヘキコトヲ知ラシメシカ爲メナリト陳述セシ如ク最初ノ教會ニテ古來ノ習慣ニ任セ取テ之ニ干渉スルコトヲ專ラ福音ノ眞理ヲ宣布センコトヲ勉メタリト雖モ福音傳播已後奴隸ノ苦役セラル、形狀ハ一般ニ寛裕ニ趣キタルカ

如シ其他政府ガ貧民ノ其子女ヲ養育スル能ハサル者ヲ扶助シ又恩惠  
 學校ヲ設ケ貧民ノ子女ヲ就學セシムル等ノ如キモ亦教會ノ勢力ニ由  
 テ起リタル者ナリ且彼ノ背教者シユリアン帝ハ其在位中嘗テ教會ノ  
 施捨法ニ倣ヒ法律ヲ以テ人民ニ恩惠ヲ施サシメント起圖セシヨアリ  
 蓋是レハ遂ニ其志ヲ達スル能ハサリシナリ

第二節 懲戒

一 最初ノ懲戒 最初ノ教會ニテハ設令幾回重罪ヲ犯セシ者ト雖モ  
 倘其罪惡ヲ悔改スル時ハ教會ニ復歸スルコトヲ許可セシカ第二三世紀  
 頃ヨリ或教會ニテハ重罪ノ爲メ放逐ヲ受ケタル者ハ全ク復歸スルコ  
 トヲ禁セリ然レモ或教會ニテハ斯クノ如キ者ト雖モ年ヲ經テ悔改ノ實  
 功既ニ顯ハル、時ハ其復歸スルコトヲ許セリ此頃教會中ニ教會ノ放逐  
 ハ天國ノ擯斥ナリト云ヘル説流行セシカテルトリアンハ罪惡ノ種類

ヲ區別シ二個ト爲シ一ヲ應死罪即チ靈魂ノ滅亡スル者一ヲ應恕罪即  
 チ靈魂ノ未ク滅亡ニ至ラサルモ甚シキ傷害ヲ蒙ル者トセリ(天主教  
 問答書罪惡ノ個條ヲ參觀スヘシ)蓋此説ハ放逐ノ嚴重ナルカ爲メ起リ  
 タル者ナラン第三世紀ノ末頃ヨリ悔改者復歸ノ順叙ヲ定メ四級ト爲  
 ス即チ次ノ如シ(一)流涕者 即チ會堂ニ入ルヲ許サレス唯其廊下等ニ  
 平伏或ヒハ跪座シテ信徒ノ代求ヲ請フ者(二)聞者 即チ會堂ノ入口ニ  
 至リ講義拜禮等ヲ見聞スルヲ得レモ自ラ信徒ト共ニ其式ニ列スルヲ  
 得サル者(三)跪者 即チ信徒ト共ニ拜禮等ノ式ニ列スレモ會堂ニテ常  
 ニ跪坐スル者(四)傍觀者 即チ凡テノ會堂ノ儀式等ニ預ルコトハ敢テ信  
 徒ニ異ラサレモ唯晚餐ノ禮典ニ預ルヲ得サル者ナリ却說悔改者カ教  
 會ニ復歸セント欲スル時ハ常ニ規則ニ從ヒ一切ノ粧飾ヲ爲サス唯粗  
 末ナル布衣ヲ着シ又常ニ粗食ヲ食ヒ病者ヲ看護シ死者ヲ埋葬シ一切

ノ世事ヲ放棄シ凡ソ十年間上文ノ如キ順叙ヲ蹈ミ後教會ニ於テ其罪惡ヲ懺悔シテ赦免ヲ請ヒ教會ノ者ハ此時其救拯ヲ需ムル爲メ聖歌ヲ謳ヒ然ル後始メテ信徒ノ中ニ復歸セシムル者トス然レモコンスタンチン大帝以後即チ第四世紀ノ末頃ヨリ教會ノ聖役員等ハ多シ此規則ヲ蔑視シ豪族勢家ノ者ナレハ設令重大ノ罪惡ヲ犯セシ者ト雖モ之ヲ許容シ敢テ放逐ヲ行ハサリシナリ然シ或教會ニテハ尙ホ嚴ニ此規則ヲ守リ罪惡ヲ犯セシ者ハ國王ト雖モ憚ル所ナシ之ヲ行フアリ例ヘハ彼ノミランノ監督アムプロスノ如キハロマノテオドシウス大帝ヲ教會ヨリ放逐セシニ方リ帝ノ爲メ諫言請願恐喝等ヲ以テ其赦免ヲ需ムル者許多アリタレモアムプロスハ敢テ之ヲ許サス其後八個月ヲ經テ帝カ親テ懺悔スルニ及ヒテ始メテ赦免セシカ如キ是ナリ第五世紀ニ大リオハ信徒カ教師ノ前ニ於テ竊カニ其隱罪ヲ懺悔スルヲ許セリ

又其後懺悔ノ書ト云ヘル者世ニ出タリ是レハ懺悔ノ方法ヲ詳記セシ者ニテ其書數種アリ就中最モ有名ナルハ第七世紀頃カントラベルノ大監督テオドルノ著述セシ者ナリ

二 別派 此教派ハ懲戒例ノ施行ニ關シ教會ト其異見ヲ異ニセシカ爲メ分離セシ者ニテ其數三派アリ即チ左ノ如シ

(一) ノウエシアン派 此教派ハ第三世紀頃ロマノ教師ノウエシウスノ權カニ由テロマ教會ヲ離レ別派ト爲リ其名ヲノウエシアン派ト云ヒ又一名ヲ「カタリ」即チ純粹者ト稱シ東西教會ノ中ニ弘衍シ第五世紀頃マテ連續セリ抑モ懲戒施行ニ關シ此派ノ主義ハ迫害ノ爲メ墮落セシ信徒ハ神ノ恩惠ヲ蒙ムルコトハ測知スヘカラスト雖モ教會ニテハ必ス放逐シテ復會セシム可ラサルコトナリ

(二) ミリシアン派 此教派ハ紀元三百〇六年始メテアレキサンデリア

ニ起リタル者ナリ初メダイオシリシアン帝ノ迫害ノ頃アレキサンデ  
 リアノ監督ビートルハ墮落者ノ事ヲ論シテ迫害ノ爲メ墮落セシ者ハ  
 一時墮落スト雖モ倘其罪惡ヲ悔改スル時ハ其復歸ヲ許スヘシト云ヘ  
 リ然ルニテバイズノ監督ミリシウスハ之ヲ否ミ互ニ爭論セリ却説此  
 二人ハ其後迫害ノ爲メ獄舎ニ下サレビートルハ遂ニ殉教シミリシウ  
 スハ諸處ヲ徇セシ後或鑛山ニ送リテ鑛夫ト爲サレタリ然ルニミリシ  
 ウスハ鑛夫タル時ト雖モ監督長老等ニ接手禮ヲ施シ且其論旨ハ夙ニ  
 都鄙ニ傳播セシニ由テ遂ニ一ノ別派ト爲リ第五世紀頃マテ連續セリ  
 三ノドナテスト派 此教派ハ第四世紀頃カルテギノ監督ドナトスノ力  
 ニ由テ北阿弗利加ノ教會ヨリ分離セシ最モ盛大ナル別派ナリ却説其  
 分離セシ理由ヲ釋スルニ初メカルテギニ一教師アリ數人ノ監督ニ就  
 キ接手禮ヲ受ケ監督ニ任職セシニ此接手禮ヲ施シタル監督ノ中或者

ハ其後ダイオシリシアン帝ノ迫害起ルニ及ヒ其布告ニ從ヒ聖書ヲ獻  
 納シケレハドナトスハ其近傍ノ監督等ト共ニ斯クノ如キ墮落者ノ施  
 行セシ接手禮ハ決シテ効驗ナキヲ主張シ遂ニ其接手禮ヲ受ケタル  
 監督ヲ黜ク他人ヲ選立シテ之ニ代ラシメタリ是ニ於テ其事實ヲ議會  
 ニ上告スル者アリ騷擾最モ甚シカリシカドナトス等ハ其後議會ニテ  
 其説ヲ擯斥セラレタレヒ其決議ニ肯服セス遂ニ教會ヨリ分離シ一派  
 ヲ建タリ却説此派ハ諸處ニ於テ群衆ノ反對者ノ攻撃ヲ受ケ又其會堂  
 及ヒ財産等ヲ破壊畧奪セラレタレヒ毫モ衰退スル色ナク其教徒倍ス  
 増加シ第四世紀頃ニハ其監督四百人アリ然ルニ紀元四百十一年カル  
 テギノ議會ニ於テ公然ト擯斥セラレテヨリ始メテ衰頽シ其後第七世  
 紀ニ至テ全ク滅亡セリ抑モ此派ノ主義ハ聖役員ノ施行セシ教務ノ効  
 否ハ其人ノ品行ノ善惡ニ由テ異ナルヲナリ

三 懲戒施行法

テルトリアンノ説ニハ應死罪ヲ犯セシ者ハ決シテ  
 教會ニ復歸スルヲ許スヘカラスト云ヒシプリアンモ亦最初ハ其説  
 ニ左袒セリ然ルニシプリアンハ其後許多ノ墮落者カ罪惡ノ赦免ヲ請  
 願スルヲ觀ルニ及ヒ其前説ヲ更メ真正ノ悔改者ニハ教會ニ復歸セシ  
 ムル爲メ自ラ和睦書ヲ認メテ之ニ與ヘタリ又アウグステンノ説ニハ  
 異端別派ノ者ハ政府ヨリ罰セサルヘカラスト云ヘリ是レハ固ヨリ認  
 説ナレトモ尙果シテ此説ノ如クセハ彼ノ「ドナテスト」派ノ如キ者ハ政府  
 ニ服從セサル者ナレハ政府ヨリ罰セサルヘカラスト者手斯ク懲戒施  
 行ニ關シ先師輩ノ中ニ説アリシカ中古ノ教會ニテハ實ニ斷食鞭撻入  
 獄禁婚等ノ罰則ヲ設ケ懲戒法トシテ施行セシトモ明白ナリ

〔一〕制禁 此罰則ハ一教區内或ヒハ一國內ニ懲戒スル者ニテ此罰ヲ蒙  
 ムリタル地方ハ「バプタスマ」ヲ授受スルノ外ハ教會ニ係ル凡テノ禮式

ヲ行フヲ禁シ會堂ヲ閉鎖セラル、者ナリ故ニ諸國信徒ハ上ハ君長  
 ヨリ下ハ平民ニ至ルマテ皆之カ爲メ恐悸シテ教王ニ服從セリ

〔二〕赦罪券

古傳ニ據ルニ此券ヲ販賣スルヲハ紀元一千年頃フランソ

ニ於テ會堂ヲ建築スル時其費用ヲ募集スル爲メ始メテ之ヲ行フタリ  
 ト蓋此法ノ起ル原由ヲ釋スルニ初メ教會ノ監督等ハ政府カ贖罪金ヲ  
 以テ罪人ヲ赦免スルニ倣ヒ償金ヲ以テ信徒ノ罪惡ヲ赦免セシニ起リ  
 シ者ナリ然ルニ第十一世紀頃ヨリ此事盛ニ行ハレ諸方ノ監督ニテ之  
 ナ販賣スル者擲カラサリシニ其後羅馬ノ教王ハ諸方ノ監督ニテ之ヲ  
 賣ルコトヲ禁シ自ラ之ヲ專賣シ且其券ノ種類ヲ區別シ全部赦罪券、局部  
 赦罪券即チ神及ヒ人類ニ對シ犯セシ罪惡ノ全体或ヒハ局部ヲ赦免ス  
 ル者トシ是レニ由テ巨萬ノ金錢ヲ得タリ却説此赦罪券ハ唯既往ノ罪  
 惡ヲ免ス耳ナラス將來特ニ犯サント欲スル所ノ罪惡ヲモ赦ス者ナリ



教王ハ其後聖ペテロノ大會堂ヲ建築スルニ方リ此券ノ販賣ヲ以テ「フ  
 ランシスカン」「ドミニカン」ノ兩派ニ委託シ一定ノ價值ヲ定メス購求者  
 ノ貧富ニ應ジ之ヲ賣リ第十五世紀ニ至リテハ僅五六圓ノ金ニテ全部  
 赦罪券ヲ販賣シ非常ノ大金ヲ得タリ然レモ此事ニ就テハ諸國ノ君長  
 或ヒハ大議會ニテ之ニ抵抗セシ者モ擧ガテカリシニ教王ハ敢テ之ヲ  
 峻メサルニ由テ遂ニ教法改革ノ近因ト爲レリ

### 第三節 制慾主義

此制慾主義ナル者ハ基督降世以前ヨリ既ニ各國ノ教法中ニ行ハレシ  
 者ニテ教會ニテハ第一世紀頃ヨリ始マレリ蓋是レハ信徒ノ自義心ヨ  
 リ起セシ者ニテ其流行スル理由ハ二個アリ即チ「一」ノステリ派ノ所  
 謂惡ハ肉体ニ歸スル者故ニ斷食ノ力ニ由テ之ニ克ツヘシトノ説ノ勢  
 力ニ由リ「二」第二世紀頃或者ノ唱道セシ基督教ニハ一般信徒ノ行フ

ヘキ道ト卓越セル生活ヲ爲ス者ノ爲メ設ケテレタル道トノ二種アリ  
 トノ説ニ由テナリ又アレキサンデリアノクレメントハ此説ニ從ヒ信  
 徒ハ凡テ信仰ナキ者ニアラサレモ或者ハ特別ニ卓越セル信仰ノ眞智  
 ナ有スルナリト主張シ又或者ノ説ニハ一種ノ信徒ハ親密ニ神ト交際  
 スル者ナリト云ヘリ抑モ制慾主義ニハ財産結婚飲食等ノ事ニ就キテ  
 種々ノ規則アリシヨステン、マルテルオリゼンテルトリアン等最初ノ  
 著述家ハ大概教師タル者ハ希ハクハ終身無妻ナルヘシト教ヘ特ニテ  
 ルトリアンノ如キハ一旦妻ヲ娶リシト雖モ其後別居シテ起居ヲ同ク  
 セサリシナリ又其後有名ナル著述家等モ亦大概馬太傳十九章ノ十二  
 節全廿二章ノ卅節哥林多前書七章ノ七節默示錄十四章ノ四節ニ記載  
 セル經文ヲ以テ論據トシ教師ノ結婚スルヲ否ミタリ然レモ其頃妻  
 ナ娶リタル教師ハ教會中ニ擧ガテサルナリ第三世紀頃ニ禁婚規則ト

云々ル書世ニ出タリ是レハ古昔使徒等ノ憲法ナリト稱スル者アレモ  
 實ハ其頃偽造セシ者ナラシ又教師ノ禁婚ニ就テハニシアノ大議會(紀  
 元三百二十五年)ニ於テ議論起リシニエシプトノ修道者バフエシウス  
 ナル者雄辨ヲ揮ヒ巧ニ天理ニ逆フタル規則ヲ設クルノ不可ナル理由  
 ナ論述セシカ爲メ遂ニ決議ヲ爲サスシテ中止セリ然ルニ第四世紀ノ  
 末頃或議會ニ於テ教師禁婚ノ規則ヲ設ケシニ北イタリヤ及ヒ其他諸  
 國ニテ數百年ノ間之ヲ守ル者アラス東教會ニテハ第七世紀頃ヨリ牧  
 師ノ妻ヲ娶ルヲ禁シタリ抑モ斯クノ如キ天理ニ逆ヒタル規則ハ固  
 ヲリ其功ヲ奏スヘキ者ニアラサレハ之ヲ守ル修道者及ヒ修道女ノナ  
 キニシモアラサレモ多クハ之ヲ犯シタリ

一 隱者 第二世紀頃エシプトノナイル河近傍ニ隱者アリ洞穴ノ中  
 ニ栖息セリ是レ實ニ教會ニ隱者ノ起リタル濫觴ニシテ其後第三世紀

ニ至テ其數俄カニ増加シ數千人ト爲レリ茲ニロマノタロンシアノ帝ノ  
 時ニ方テバウロト云ヘル有名ノ隱者アリ其迫害ヲ避ケテ沙漠ノ中ニ  
 來リ凡ソ九十年ノ間洞穴ノ中ニ栖息セリ然ルニ其死セント爲ル頃聖  
 アントニナル者來リテ之ニ隨侍シ亦隱者ト爲リシカ此人ノ勢力ニ由  
 テ隱者ノ道大ニ弘衍セシニ由リ後世遂ニ此人ヲ以テ隱者ノ祖ト爲セ  
 リ却說此アントニハ紀元二百五十一年ヲ以テエシプトニ生レ全三百  
 五十六年ニ至テ永眠ニ就キシ者ニテ原ト富家ノ子ナレモ歲廿ノ頃一  
 日恍惚ノ中ニ在テ汝ノ財產ヲ賣テ貧民ニ施與セヨトノ聲ヲ聞キ深ク  
 感激スル所アリ其財產ヲ以テ悉ク貧民ニ施與シ其身ハ沙漠ノ中ニ隱  
 遁シ始メハ天幕ノ中ニ起居セシカ後又某山ノ頂上ナル古城ノ墟中ニ  
 起臥セリ其友人等ハ屢ハ其栖居ヲ訪問セシカアントニカ大聲ヲ發シ  
 恰モサクナト爭フ如キ形狀ニテ神ニ祈禱ヲ捧クルヲ聞ケリ紀元三百

十一年ダイオクリシアノ帝ノ迫害ノ時アントニハアレキサンデリアニ至リ裁判所又ハ市街ノ中ヲ徘徊シ信徒カ迫害ノ爲メ其信仰ヲ失ハカランヲ勸奨セリ其後多ク諸方ヨリ來リテアントニニ就キ沙漠ノ中ニ隱遁スル者アリケレハアントニハ此等ノ爲メ其規則ヲ設ケ遵守セシメタリ其規則中ニ隱者ハ自ラ勞役シテ生活ヲ爲シ若シ餘贏アレハ貧民ニ施與スヘシ隱者ハ毎日多ク神ニ祈禱ヲ捧クヘシ等ノ個條アリ却説此人ハ奇異ナル勢力アリ例ヘハ或人中心ニ憤懣ヲ抱クアリ一旦此人ノ勸奨ヲ受クル時ハ忽チ之ヲ忘レ又或ヒハ痛哭悲慟ノ中ニ居ル者ト雖モ此人ヲ訪問スル時ハ其歡心ヲ盡シテ歸ルト云ヘリ抑モ此等隱者ノ爲ニハ其後大バシルアヲチシウスアウグステン等ノ教師多ク其規則ヲ設定セリ又第三世紀ニ方テヒラリオント云ヘル隱者スリヤニ起レリ此人モ亦原トハ富豪ノ者ナレモアントニノ如ク其財

産ヲ以テ盡ク貧民ニ施與シ脱然世ヲ捐テ隱遁セリ是レスリヤニ起レル隱者ノ濫觴ナリ

〔柱上聖人〕 第五世紀ニ方テスリヤニ柱上聖人ト云ヘル一種ノ隱者起

レリ此隱者ハ常ニ柱上ニ栖息スルヲ以テ此名ヲ得タリ此隱者中ニテ最モ有名ナルハシメオンステライテス即チ臺柱シメオント云ヘル者ナリ此人ハ初メスリヤニテ牧羊ヲ業ト爲セシカ其後世ヲ捨テ、アントオク近傍ノ洞穴ニ隱遁セリ然ルニ其講義等ヲ聞カン爲メ遠邇ヨリ來リテ訪問スル者常ニ其傍ニ充滿シ甚ク喧鬧ナリケレハシメオン之ヲ憂ヒ其雜沓ヲ避クル爲メ一個ノ臺柱ヲ設ケ其上ニ在リテ講義ヲ爲セリ最初臺柱ノ高サハ九尺ニシテ三尺角ナリシカ後年ニ及ヒ其高サヲ増シ七十二尺ト爲セリ却説此人ハ前后卅年間此臺柱ノ上ニ栖居セシカ其間講義ヲ聞キ容接ヲ爲ス者常ニ斷ヘス且諸國ノ君長ヨリ大使

ヲ特派シ其意見ヲ問ヒシヲアリ又此頃處々ニ於テ此行爲ヲ模倣スル者アリコンスタンテンノブルノ隱者ダニエルハ其近傍ニ於テ臺柱ヲ設ケ凡ソ三十三年間其柱上ニ起臥セシカ或ヒハ嚴寒ノ爲メ其衣服ノ氷結スルヲアリ或ヒハ烈風ノ爲メ柱上ヨリ轉墜セント爲スヲアリ其苦慘實ニ名狀スルニ堪サルナリゼルマニノ或隱者モ亦之ニ倣ハント欲シ既ニ高柱ヲ設ケシニ其監督ヨリ人ヲ派シテ之ヲ破壞セシメタリ是ヲ以テ其後又之ヲ設クル者アラス抑モ西教會ニテハ斯クノ如キ生活ヲ爲ス者ハ甚々罕少ナレモ東教會特ニスリヤニテハ盛ニ流行シ第十三世紀マテ連續セリ

因ニ云ク或學者嘗テエジプトスリヤニ行ハシ隱者ノ生活ノ起原ヲ吟味セシニ基督教ノ未タ此等ノ國ニ傳播セサル以前エジプトニハ「セラピス」ノ教徒ナル者アリ常ニ洞穴ノ中ニ栖息シスリヤニハ「ア

スタルテ」ノ教徒ナル者アリ常ニ柱上ニ起臥セリ故ニ基督教ノ信徒モ亦此等ノ遺風ニ倣ヒ右ニ記載セシ如キ生活ヲ爲セリト云ヘリ

二 在院派

コンスタンテン大帝ノ時ヨリ修道者等ノ員數俄カニ増

加シ其生活ノ形狀ニ由テ名稱ヲ異ニシタリ即チ修道院長ノ權下ニ屬シ一所ニ群居スル者ヲ「セノバイテ」即チ會住者ト稱シ廣野ノ中ニ栖息スル者ヲ「アニコライテ」即チ隱遁者ト云ヒ古聖人ノ遺物等ヲ賣リテ四方チ巡歴スル者ヲ「サリライテ」即チ巡歴者ト云ヘリ却說修道院ハ其頃ヨリ諸處ニ設置アレモ其修道者等ハ必ス一修道院ニ永住スルヲ要セズ自由ニ處々ノ修道院ニ轉住セリ蓋此頃ノ修道者ハ獨身ニシテ後世ノ修道者ノ如ク種々ノ誓ヲ爲ス規則アラサルニ由テナリ

〔一〕「ベチデクテン」派 第六世紀マテノ修道者ノ生活セシ形狀ハ右ニ記載セシ如クナリシニ「ベチデクトカ世」ニ出ツルニ及ヒ大ニ其形狀ヲ一